

史跡 上ノ国館跡Ⅲ

史跡

# 上ノ国館跡Ⅲ

—平成21年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書—

2010・3 上ノ国町教育委員会

2010・3  
上ノ国町教育委員会

史 跡

# 上 之 国 館 跡 Ⅲ

—平成21年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書—

2010・3

上ノ国町教育委員会

## 序

勝山館跡は、昭和52年に花沢館跡とともに国の史跡に指定され、翌年には「史跡上之国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書」が策定されています。それから30年有余を経過した平成18年、天ノ川を挟んで対岸に位置する洲崎館跡が国の史跡に追加指定され、これら3館は統合されて「史跡上之国館跡」と名称を変更、平成21年から2ヵ年計画で「史跡上之国館跡 花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡 保存管理計画書」の策定を進める運びとなりました。とくに天ノ川河口部には、かつて洲崎館跡南岸まで水を湛える潟湖（ラグーン）が形成され、川湊が存在していたことが推測されており、今後は追加指定も含め、積極的な保存・活用を展開していく必要があります。

平成20年12月に着手しました「重要文化財上國寺本堂」の保存修理事業は、現在解体工事がほぼ終了し、かつての上國寺本堂の姿が明らかとなりつつあります。来年度以降は、復原に向けた作業に取り掛かる予定であります。

今年度の勝山館跡の発掘調査は、昨年度に引き続き荒神堂跡と旧道跡の遺構確認調査を行ないました。調査の結果、荒神堂跡と考えられる礎石跡を発見し、荒神堂跡の構造の解明に向けて一層の期待を寄せているところであります。また、勝山館跡の環境整備では見学者の安全面を考慮し、老朽化した手摺りの更新のほか、管理団体の標柱を設置したところであります。

事業推進にあたり、文化庁、北海道教育委員会、上ノ国町史跡整備検討委員会委員の皆さまをはじめ、各関係機関の多くの方々にご多大なご協力を賜りましたことを衷心より感謝申し上げますところであり、今後ともより一層のご指導をお願い申し上げます次第であります。

勝山館跡直下の「重要文化財旧笹浪家住宅」向かいの海浜地には、長年の懸案事項でありました駐車場が造成され、本年3月に完成をみたところであります。それに伴い見学者の増加が予想されますが、一方では見学者を受け入れる体制づくりやボランティアガイドの養成など課題が多く残っております。これを機にわが町に残された生きた文化財を後世へ価値を損なうことなく継承していけるよう地域の方々と協力・連携体制を構築して、保存・活用に努めていきたいと考えておりますので、諸先生方にはより一層のご指導とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月

北海道上ノ国町教育委員会教育長 金子 廣

## 本文目次

### 序

本文目次 / 挿図目次 / 表目次 / 写真図版

例言 / 引用参考文献

上之国館跡の調査.....	1
1. 調査にいたる経緯.....	1
2. 調査位置・目的.....	1
3. 調査方法.....	1
4. 調査経過.....	1
5. 基本層序.....	2
検出遺構.....	6
出土遺物.....	54
自然科学的分析.....	60
1. 上ノ国町勝山遺跡における平成20・21年度出土人骨について.....	60
2. 上ノ国町久末屋敷遺跡出土の中近世人骨.....	64
3. 上ノ国町笹浪屋敷遺跡出土の擦文時代人骨.....	67
4. 勝山館跡出土人骨の歯の人類学的所見.....	68
上ノ国町過年度出土人骨概要.....	81
小括.....	82
まとめ.....	84

## 挿図目次

第1図 調査区位置図.....	3
第2図 年次別調査範囲図.....	5
第3図 ‘08・09年度調査区 遺構配置図.....	7
第4図 空壕C周辺調査区 遺構平面図.....	13
第5図 空壕C・空掘C周辺 セクション図1...15	15
第6図 空壕C・空掘C周辺 セクション図2...17	17
第7図 空壕C 遺物出土状況(陶磁器).....	19
第8図 空壕C 遺物出土状況(金属製品・骨角器・土製品).....	20
第9図 空壕C 遺物出土状況(銭貨・石製品・鍛冶関連物).....	21

第10図 空壕C 木橋・土橋想定箇所 平面図...22	22
第11図 ‘08土壕3・16 平面図他.....	23
第12図 土壕2・5・8 平面図他.....	25
第13図 土壕3・4・6・7 平面図他.....	26
第14図 荒神堂跡・荒神堂跡周辺調査区 遺構平面図.....	35
第15図 荒神堂跡周辺 セクション図1.....	38
第16図 荒神堂跡周辺 セクション図2.....	39
第17図 荒神堂跡 土壕9・石積 平面図他.....	41
第18図 荒神堂跡周辺 礎石列2 平面図.....	43
第19図 荒神堂跡 遺構平面図.....	44
第20図 出土遺物(青磁、白磁、染付、赤絵、瀬戸美濃鉄釉・灰釉).....	49
第21図 出土遺物(朝鮮、瀬戸美濃灰釉、越前、鉄製品).....	50
第22図 出土遺物(鉄製品、銅製品、銭貨).....	51
第23図 出土遺物(銭貨).....	52
第24図 出土遺物(銭貨、骨角器、土製品、石製品、木製品).....	53
第25図 昭和57年度調査 人骨出土 位置図.....	73
第26図 過年度(笹浪屋敷・久末屋敷)上ノ国市街地遺跡 調査位置図.....	74
第27図 昭和57年度調査 動物遺存体出土状況・75	75
第28図 笹浪屋敷 遺構平面図.....	77
第29図 久末屋敷 墓壇1 平面図他.....	79
第30図 久末屋敷 墓壇2 平面図他.....	80

## 表目次

表1 空壕C周辺調査区 南北セクション東壁土層観察表(A~A).....	27
表2 空壕C周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表(B~B).....	27
表3 空壕C周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表(C~C).....	27
表4 空壕C周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表(D~D).....	28
表5 空壕C周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表(E~E).....	28
表6 空壕C周辺調査区 東西セクション北壁土層観察表(F~F).....	28
表7 空壕C周辺調査区 東西セクション北壁土層観察表(G~G).....	28
表8 空壕C周辺調査区 東西セクション北壁土層観	



- P L . 13 遺構検出状況 調査前風景
- P L . 14 遺構検出状況 空壕 C 周辺調査区
- P L . 15 遺構検出状況 空壕 C 周辺調査区
- P L . 16 遺構検出状況 空壕 C 周辺調査区
- P L . 17 遺構検出状況 空壕 C 周辺調査区
- P L . 18 遺構検出状況 空壕 C 周辺調査区
- P L . 19 遺構検出状況 空壕 C 周辺調査区
- P L . 20 遺構検出状況 荒神堂跡周辺調査区
- P L . 21 遺構検出状況 荒神堂跡周辺調査区
- P L . 22 遺構検出状況 荒神堂跡周辺調査区
- P L . 23 遺構検出状況 荒神堂跡周辺調査区
- P L . 24 遺構検出状況 寺ノ沢側調査区
- P L . 25 遺構検出状況 空壕 C 周辺調査区
- P L . 26 遺構検出状況 空壕 C 周辺調査区
- P L . 27 遺構検出状況 荒神堂跡周辺調査区
- P L . 28 遺構検出状況 荒神堂跡周辺調査区
- P L . 29 出土遺物（青磁、白磁、朝鮮、瀬戸・美濃、  
越前、鉄製品）
- P L . 30 出土遺物（鉄製品、銅製品）
- P L . 31 出土遺物（銭貨）
- P L . 32 出土遺物（鍛冶関連遺物、土製品、骨角器、  
石製品、木製品）

## 例 言

1. 本書は史跡上之国館跡勝山館跡の史跡等・登録記念物保存修理事業に伴う平成21年度の遺構確認発掘調査・整備事業の報告をまとめたものである。
2. 発掘調査の体制は次のとおりである。  
調査主体者 上ノ国町教育委員会  
教育長 金子 廣  
指導 史跡上之国勝山館跡調査研究専門員  
朝尾直弘 京都橘女子大学教授  
榎森 進 東北学院大学教授  
仲野 浩 東北芸術工科大学名誉教授  
上ノ国町史跡整備検討委員会  
仲野 浩 東北芸術工科大学名誉教授  
榎森 進 東北学院大学教授  
鈴木 亘 元鶴見大学講師  
田中哲雄 東北芸術工科大学教授  
宮本長二郎 元東北芸術工科大学教授  
渡辺定夫 東京大学名誉教授  
松崎水穂 NPO函館市埋蔵文化財事業団  
上ノ国町文化財保護審議会 特別委員  
羽深久夫 専修大学  
  
主管 上ノ国町教育委員会事務局  
局長 渡部孝之  
参事 八木橋 彰  
生涯学習・文化財グループ  
主幹 小林 真(故人)  
主査・学芸員 斉藤邦典(担当者)  
主査 淵田俊一郎  
学芸員 塚田直哉  
(担当者・調査員)  
文化財調査アドバイザー 久末久義  
作業員 池田泰子 井越祥子 勝田百香  
川口泰子 川又昌仁 笹森泰子  
鈴木千春 高橋秀次 野崎香奈子  
星野由紀子 鷲田晃子 目黒加奈子  
森しのぶ 森美奈子
3. 本書の編集・執筆は、塚田が行った。遺構・遺物の実測図及び図版等の作成は、作業員が行なった。
4. 本書に掲載した写真の撮影は、塚田が行なっ

- た。写真の撮影は、35mmカラーリバーサル、カラーネガの2種類のフィルムを使用した。
5. 挿図の縮尺は、各図にスケールを付して示した。写真の縮尺は不統一である。
6. 遺物の点数については、現場での取り上げ点数を表す。
7. 過年度調査の遺構の表記は、その遺構が検出された調査年度を'98土壌4、'07竪穴1のように付した。
8. 土層の色調観察には、「新版標準土色帳」(農林水産技術会議事務局1993)を使用した。
9. 陶磁器の分類は、肥前系陶磁器が大橋編年(九州近世陶磁学会2000)、瀬戸・美濃が藤澤編年(藤澤2002)、珠洲が吉岡編年(吉岡1994)、越前が朝倉氏遺跡資料館報告書の分類表記(朝倉氏遺跡資料館1983)、白磁が森田編年(森田1982)、染付が小野編年(小野1982)、青磁が横田・森田編年・上田編年(上田1982)をもとに作成された国立歴史民俗博物館の分類表記(国立歴史民俗博物館1994)を用いた。  
縄文土器の分類は、北海道埋蔵文化財センター報告書の分類表記(北海道埋蔵文化財センター2006)を参考にして行った。
10. 出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会で管理・保管している。
11. 調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。記して感謝申し上げたい(敬称略)。  
文化庁記念物課 市原富士夫 山下信一郎 佐藤正知 内田和伸 建造物課 田中禎彦 北海道教育庁文化・スポーツ課 千葉英一 高橋和樹 長沼 孝 田才雅彦 田中哲郎 西脇对名夫 中田由香 坂野 透 札幌医科大学 松村博文 札幌国際大学 坂梨夏代 函館工業高等専門学校 中村和之 弘前大学 関根達人 小岩直人 上条信彦 東北芸術工科大学 福田正宏 奈良大学 千田嘉博 函館市教育委員会 野村祐一 北斗市教育委員会 森 靖裕 森井繁治 佐々木翼 江差町教育委員会 宮原 浩 松前町教育委員会 前田 佐藤 厚沢 部町教育委員会 石井淳平 厚真町教育委員会

奈良智法 五所川原市教育委員会 榊原滋高  
盛岡市教育委員会 室野秀文 北海道埋蔵文化  
財センター 田口 尚 愛知県埋蔵文化財セン  
ター 小澤一弘 沖縄県立埋蔵文化財センター

片桐千亜紀 文化建造物保存技術協会 中内康  
雄 小幡長治 北海道開拓記念館 山田悟郎  
美幌博物館 八重柏誠 函館市立博物館 保科  
智治 松前城資料館 久保 泰

## 引用参考文献

- 朝倉氏遺跡資料館 1983 『県道鯖江・美山線改良工  
事に伴う発掘調査報告書』
- 網野善彦・石井進編 2001 「上之国勝山館跡と夷王  
山墳墓群から見えるもの」 『北から見直  
す日本史』大和書房
- 石井 進 2002 「中世のかたち」 『日本の中世 1』  
中央公論新社
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類につい  
て」 『貿易陶磁研究』第2号
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」 『国立歴  
史民俗博物館研究報告書』第40集
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分  
類とその年代」 『貿易陶磁研究』第2号
- 上ノ国町教育委員会 1980～2005 『史跡上之国勝山  
館跡 ～X X』  
2006・2007 『史跡上之国館跡整備事業報  
告書 ～』  
2008 『史跡上之国館跡』  
2009 『史跡上之国館跡』
- 国立歴史民俗博物館 1994 『日本出土の貿易陶磁東  
日本編 1』国立歴史民俗博物館資料調査報告書 5
- 永井久美男 1998 『近世の出土銭 - 分類図版篇  
-』兵庫埋蔵銭調査会
- 永井久美男 2002 『新版 中世出土銭の分類図版』  
兵庫埋蔵銭調査会
- 藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」(財)  
瀬戸市埋蔵文化財センター 研究  
紀要 第10輯』
- 北海道庁 1916 『北海道史』
- 北海道庁 1969 「新羅之記録」 『新北海道史』第七  
巻 史料一
- 北海道埋蔵文化財センター 2006 「 .4(5)土器  
の分類」 『森町森川3遺跡(2)』第234集
- 松崎岩穂 1956 『上ノ国村史』 上ノ国村
- 松崎岩穂 1962 『続上ノ国村史』 上ノ国村
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の型式分類と  
編年」 『貿易陶磁研究』第2号
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館

# I 勝山館跡の調査

## 1. 調査にいたる経緯

勝山館跡は、檜山郡上ノ国町を東西に流れる天ノ川左岸の丘陵に位置している。松前氏の祖武田信広が、勝山館に館神八幡宮を創祀した文明5（1473）年頃に築城し、16世紀末～17世紀初頭まで存続したと伝えられる山城である。

昭和52（1977）年に国の史跡に指定され、昭和54（1979）年から継続して行われてきた発掘調査では、建物跡の遺構や中国や本州産の陶磁器、アイヌが使用した骨角器など約7万点を超える遺物が出土している。それらのうち、921点が平成20年に重要文化財に指定されている。

平成18（2006）年3月には、洲崎館跡が国の史跡に指定され、それに伴い勝山館跡、花沢館跡の天ノ川周辺に分布する国指定史跡の3館を合わせて、「史跡上之国館跡」と名称されている。

さらに、平成20・21年度ではこれら3館の保存管理計画書の策定を実施する予定である。

現在、勝山館跡の環境整備事業では、上國寺と上ノ国八幡宮の間の登り口から館へ至る旧道跡の整備が計画されている。

今年度の調査は、勝山館の大手空壕跡が位置する第一平坦面直下の虎口・空壕跡、荒神堂跡及びその間の旧道跡の遺構確認調査を実施した。

## 2. 調査位置

今年度の調査地点は、昨年度の調査区と重複し、勝山館跡大手空壕が広がる第一平坦面より北東側の空壕C・荒神堂跡・旧道想定箇所6I・6J、7I・7J、8I・8H、10I・10J、11I・1Jグリッドで実施された。

## 3. 調査方法

グリッドは、昭和55年度に設定した勝山館跡のグリッドを使用した。

調査は、中世面まで掘り下げて勝山館時代の遺構を検出した。そして、8m間隔に道路跡と直行するようセクションベルトを設定し、セクションベルトに沿って南西側に幅約60cmのトレンチを設定した。中世の遺構については、原則としてトレンチ内の溝は完掘、柱穴については段下げをして確認した。その他は、平面プランを確認して記録を行った。

但し、トレンチは8m間で道路の繋がりが掴めなかった場合、トレンチを中間の4m地点にも設定して道路跡の把握に努めた。また、近世及び近現代遺構については完掘している。

遺構の実測は、全体の平面図・セクション図について、1/20、1/40の縮尺を用いた。

遺構番号は、検出された順に遺構の種類別で番号を付した。

遺物取り上げは、近世以降（層、層）のものについてはグリッド・層位ごとに取り上げた。中世包含層・遺構から出土した遺物については、出土地点、標高値を記録し、層位ごとに取り上げを行なった。

## 4. 調査経過

4月 調査区の設定をし、機材等の搬入を行なう。

人力で表土剥ぎを行い、勝山館廃絶後の江戸時代の旧道と思われる溝（08溝3・4）を検出した。

5月 昨年度検出した空壕Cの東側で続きと考えられる空壕跡が検出された。

6月 荒神堂跡の石積みを除去して、江戸時代の土葬墓を確認した。

7月 昨年度確認した08土壇16の人骨の検出を行った。荒神堂跡階段下で礎石列2を確認している。

8月 08土壇16の人骨の実測図作成を行った。人骨の取り上げにあたっては、札幌医科大学松村博文准教授の指導の下、実施している。また、ふるさと学習の一環として、上ノ国小学校の6年生が見学を訪れた。

9月 空壕C覆土より、連結した小札とアワビの貝殻の残骸が検出された。火葬施設と推測された十字形の遺構である土壇6の半裁を行った。

10月 空壕Cの完掘をし、空壕C周辺の調査区の清掃をして完掘写真を撮影した。

11月 荒神堂跡の完掘をし、荒神堂跡周辺の調査区の完掘写真を撮影した。

12月 調査区の清掃をして、全景写真を撮影した。埋め戻しを行い、斜面部分に土嚢を積み、機材の撤去をして調査を終了した。

## 5 . 基本層序

層：近現代に相当する堆積層である。

層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年代降灰のKo - d ( 駒ヶ岳 d ) 火山灰の層を含む。この火山灰層は上層を近世面、下層を中世面と区別するために目安としている層である。

層：中世 ( 15 ~ 16世紀 ) に相当する整地層である。

層：縄文 ~ 擦文時代に相当する堆積層で、3層に細分される。

a層：黒色の腐植土層で、擦文時代に相当する

層である。

b層： a層の下層に堆積する10世紀中葉に降灰のB - T m ( 白頭山 - 苫小牧 ) 火山灰層である。

c層： b層の下層に堆積する黒色の腐植土層で、縄文時代に相当する層である。

層：無遺物層で2層に細分される。

a層：ソフトローム層である。

b層：ハードローム層である。

層：無遺物層で礫及び礫粒を多量に含む岩盤層である。



1. 土壌1 検出状況(北西から)



2. 土壌1 馬具出土状況(南西から)



3. 土壌1 セクション(北西から)



4. 土壌2 セクション(東から)



5. '08溝6 検出状況(西から)



6. 溝4・土壌5・7・8(近世)・11 検出状況(南西から)



7. 土壌5・7・8(近世) 検出状況(南西から)



8. 溝4・土壌11 検出状況(南西から)



1. 土壌4 セクション(南から)



2. 土壌7 セクション(南東から)



3. 土壌3(近世・近代)・6(火葬施設)・10 検出状況(北西から)



4. 土壌3・6・10 検出状況(北東から)



5. 土壌6(火葬施設) 検出状況(南から)



6. '08溝3(近世) 検出状況(西から)



7. '08溝4(近世) 検出状況(南西から)



8. 道路跡 '08溝4(近世) 完掘状況(南西から)



1. 荒神堂(近世) 石積み検出状況(南東から)



2. 荒神堂跡(近世) 石積み除去状況(南東から)



3. 荒神堂跡(近世) セクション(南東から)



4. 荒神堂跡(近世) セクション(北東から)



5. 荒神堂(近世) 石積み検出状況(南西から)



6. 荒神堂跡(近世) 石積み検出状況(東から)



7. 土壇9(近世) 遺構検出状況(南西から)



8. 荒神堂跡(近世)  
遺構検出状況(南西から)



1. 集石 検出状況 (南西から)



2. 集石 検出状況 (南西から)



3. 礎石列 2 検出状況 (南西から)



4. 礎石列 2 検出状況 (南から)



5. 礎石列 2 II層 検出状況 (北から)



6. 荒神堂跡階段 セクション (東から)



7. 荒神堂跡階段 セクション (南東から)



8. 荒神堂跡階段下 鉄製品(刃物類) 出土状況 (東から)



1. 溝3 (道路跡) 検出状況 (東西から)



2. 溝3 検出状況 (北西から)



3. 道路跡 検出状況 (北東から)



4. 階段下 完掘状況 (南から)



5. 道路跡 検出状況 (北東から)



6. 寺ノ沢側調査区 溝1 検出状況 (南西から)



7. 寺ノ沢側調査区 溝1 セクション (北東から)



1. 礎石列2 北側 盛土検出状況(南西から)



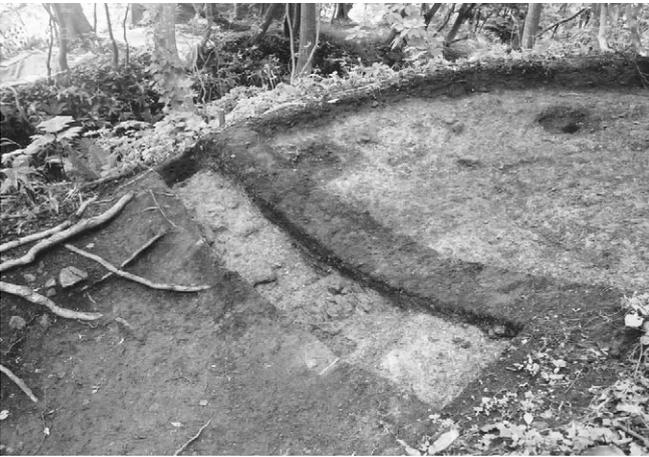
2. 道路跡(近世) 検出状況(西から)



3. 道路跡(近世) 検出状況(西から)



4. 道路跡(近世) 竪穴遺構2 検出状況(北西から)



5. 道路跡(近世) 検出状況(西から)



6. 道路跡(近世) 完掘状況(西から)



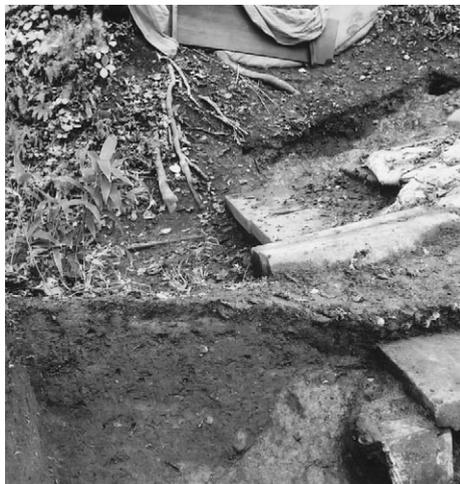
7. 道路跡(近世) セクション(西から)



8. 溝2(近世)・溝3完掘状況(東から)



1. 斜面検出状況(北から)



2. 溝3  
セクション(西から)



3. 溝2(近世) セクション(北から)



4. 焼土1・2・3・4・5 検出状況(北東から)



5. 溝3  
セクション(南西から)



6. 遺物出土状況(南西から)



7. 竪穴遺構1 検出状況(南から)



1. 空壕C周辺調査区 (SPH~SPH", 11I1, 11J5・9・10) セクション(南東から)



3. 空壕C周辺調査区 (SPE~SPE", 11J10・15) セクション(北東から)



'08溝3



5. 空壕C周辺調査区 (SPD~SPD", 11I1・6・7) セクション(北東から)

'08溝3

空壕C



'08溝4

空壕C

7. 空壕C周辺調査区 (SPC~SPC", 11I1・2・7・8・9) セクション(北東から)



'08土壙16 空壕C  
2. 空壕C周辺調査区 (SPJ~SPJ", 10I25, 11I4・5・9) セクション(北西から)



空壕C

4. 空壕C周辺調査区 (SPI~SPI", 11I3・8) セクション(北西から)



空壕C

6. '08調査分 空壕C周辺調査区 (SPK~SPK", 10J24・25, 11J4) セクション(南東から)



'08溝5

道路跡

'08溝3 '08溝4  
1. 空壕C周辺調査区(SPA~SPA",10I4・5)  
セクション(南西から)

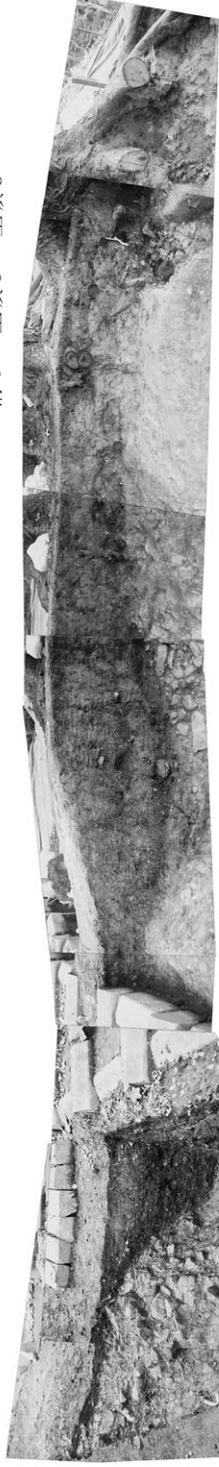


'08溝6

2. '08調査分 空壕周辺調査区(SPK'~SPK",10J13・17・18)  
セクション(南東から)

3. 空壕C周辺調査区(SPK"~SPK""",10I2・6・7・11)  
セクション(南東から)

溝6 土壇5 土壇8



'08溝3

土壇6

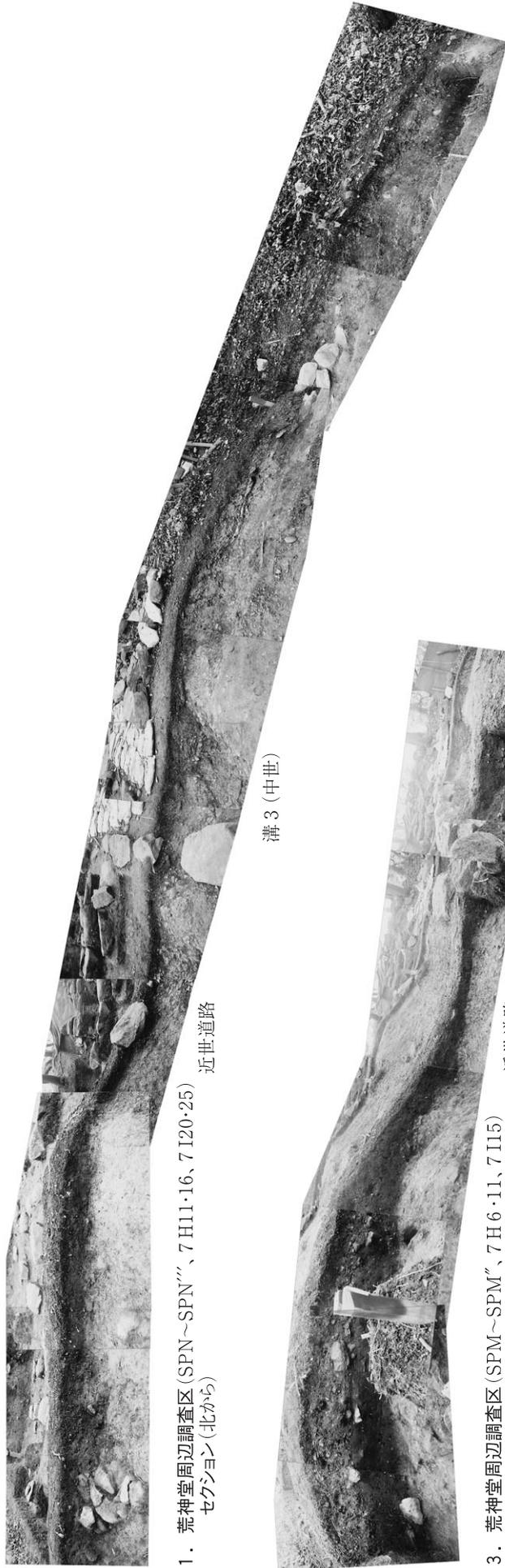
4. 空壕C周辺調査区(SPB~SPB""",10I8・9・14) セクション(北東から)

'08溝4

'08溝6

5. 空壕C周辺調査区(SPN~SPN",10I4・9・14・19) セクション(北西から)

溝4



1. 荒神堂周辺調査区 (SPN~SPN'''、7H11・16、7I20・25) セクシオン (北から)

溝3 (中世)

近世道路



3. 荒神堂周辺調査区 (SPM~SPM''、7H6・11、7I15) セクシオン (北から)

溝3 (中世)

近世道路



4. 荒神堂周辺調査区 (SPL~SPL'、7I10・14・15) セクシオン (北から)

溝3 (中世)

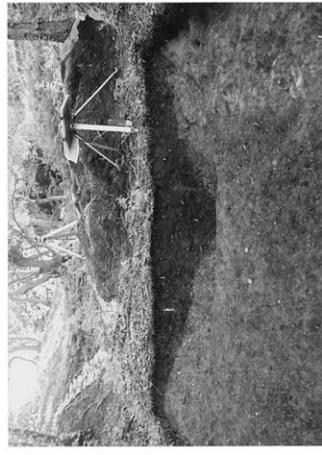
近世道路



5. 荒神堂周辺調査区 (SPK~SPK''、7I9・10) セクシオン (北から)

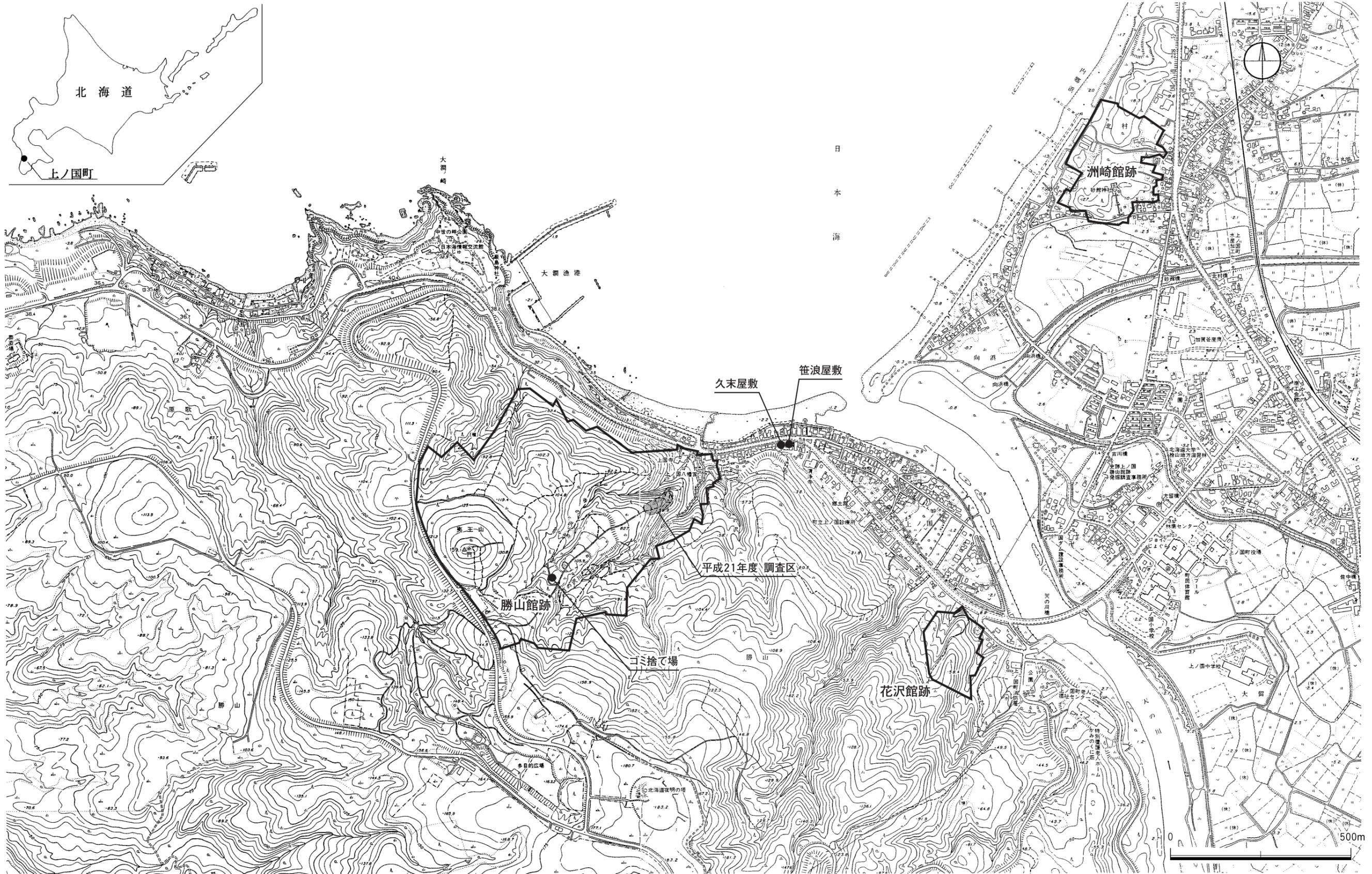
溝3 (中世)

近世道路



溝1

2. 荒神堂周辺調査区 (SPN~SPN'''、8I2・3) セクシオン (北東から)



第1図 上之国館跡 調査区位置図



1. 荒神堂周辺調査区  
(SPP~SPP', 6 I24, 7 I4・9・10)  
セクション(西から)

竪穴遺構 2

2. 荒神堂周辺調査区 (SPQ~SPQ'', 7 H6, 11・12・17)  
セクション(西から)



近世道路  
溝 3 (中世)

4. 荒神堂周辺調査区 (SPH~SPH', 7 I7)  
セクション(西から)



近世道路  
溝 3 (中世)

3. 荒神堂周辺調査区 (SPI~SPI', 6 I22, 7 I2・3) セクション(西から)



←寺ノ沢側 溝 3 (中世)

5. 寺ノ沢側周辺調査区 (SPD~SPD', 7 I6, 7 J10)  
セクション(南西から)



6. 寺ノ沢側周辺調査区 (SPC~SPC', 7 I1, 7 J5)  
セクション(北東から)



道路跡 寺ノ沢側→

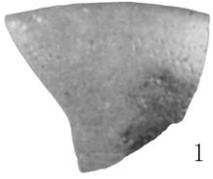
7. 寺ノ沢側周辺調査区 (SPB~SPB', 6 I16, 6 J20)  
セクション(北東から)



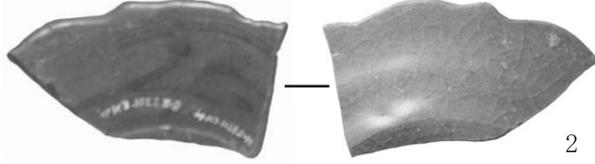
道路跡 竪穴遺構 1

8. 寺ノ沢側周辺調査区 (SPA~SPA', 6 I11, 6 J15)  
セクション(北東から)

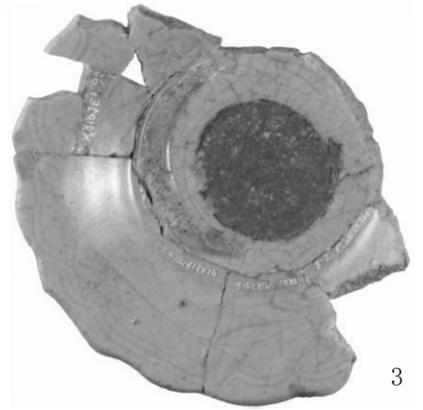
寺ノ沢側→



1



2



3



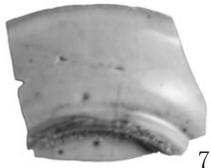
4



5



6



7



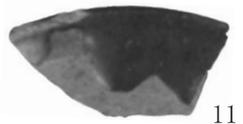
8



9



10



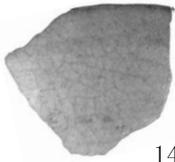
11



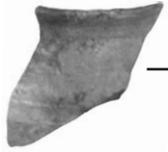
12



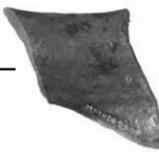
13



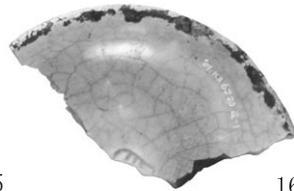
14



15



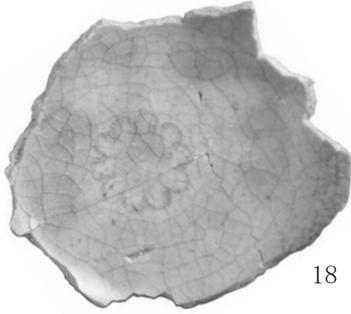
15



16



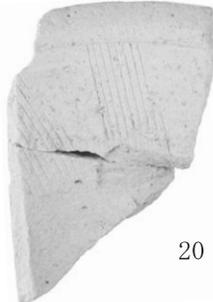
17



18



19



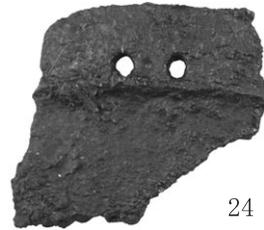
20



21



22



24



25



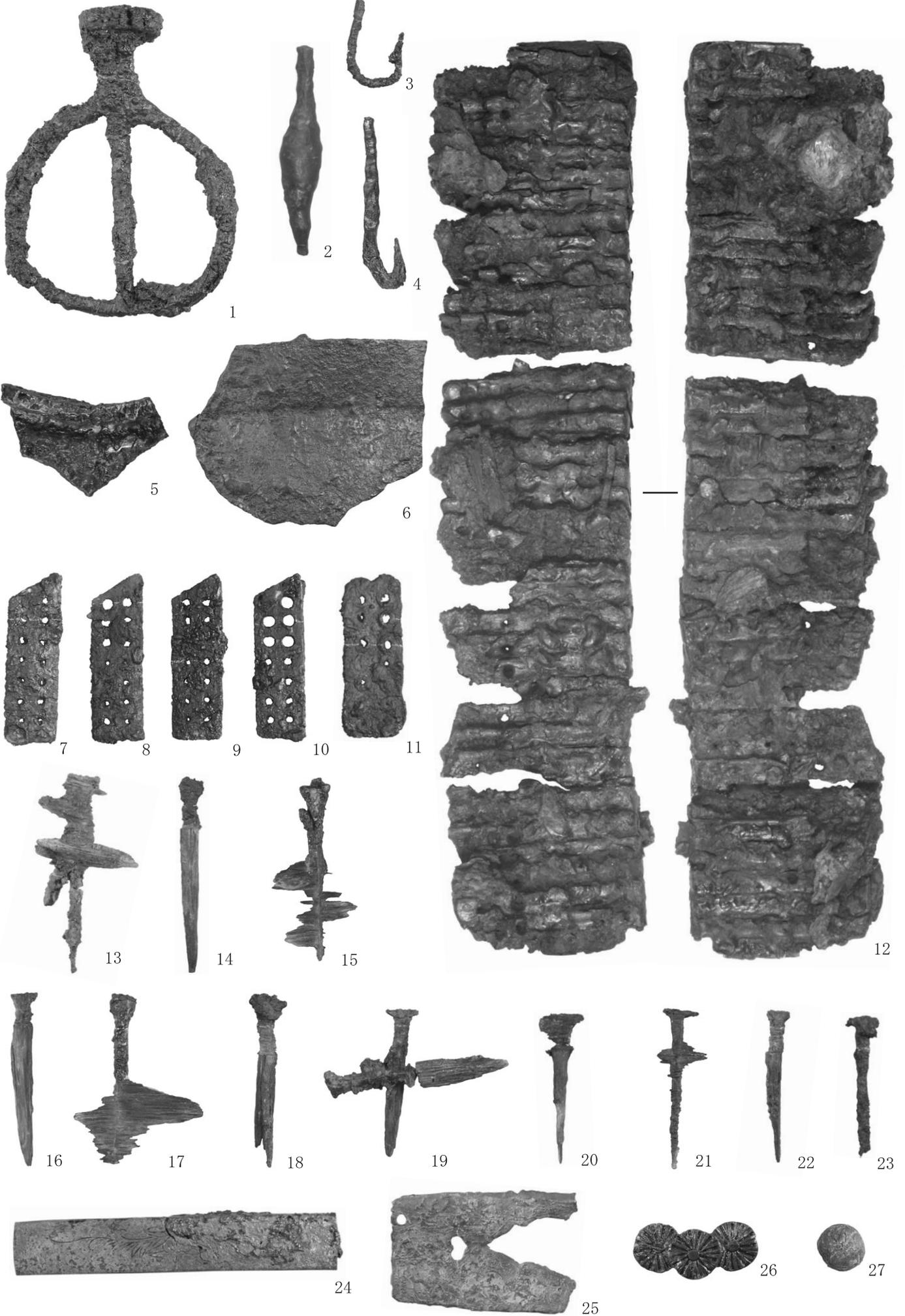
23

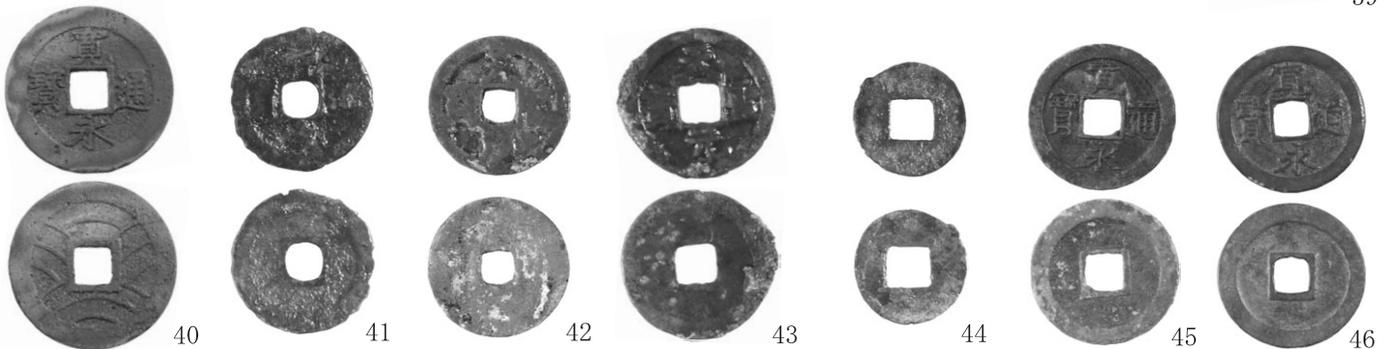
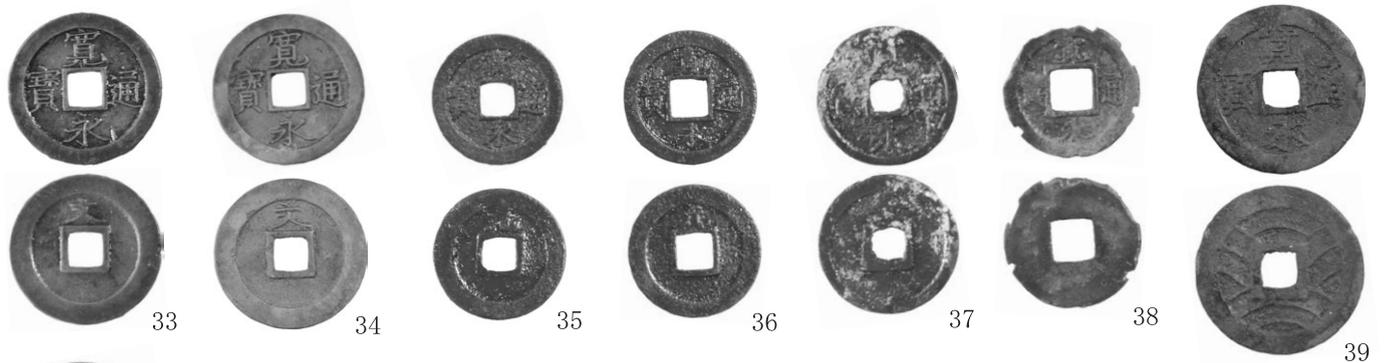
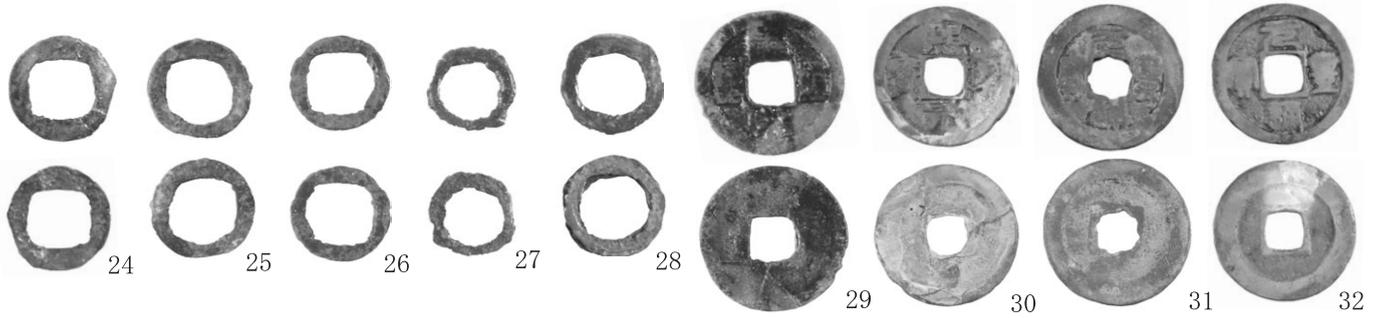
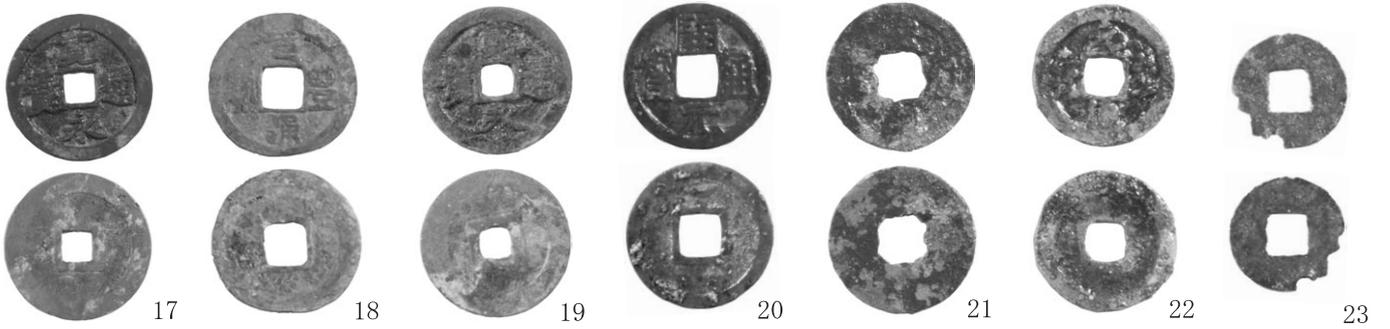
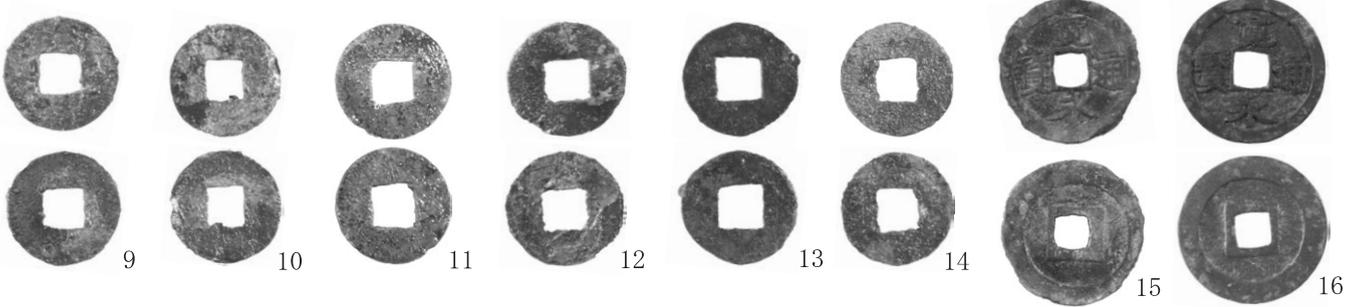
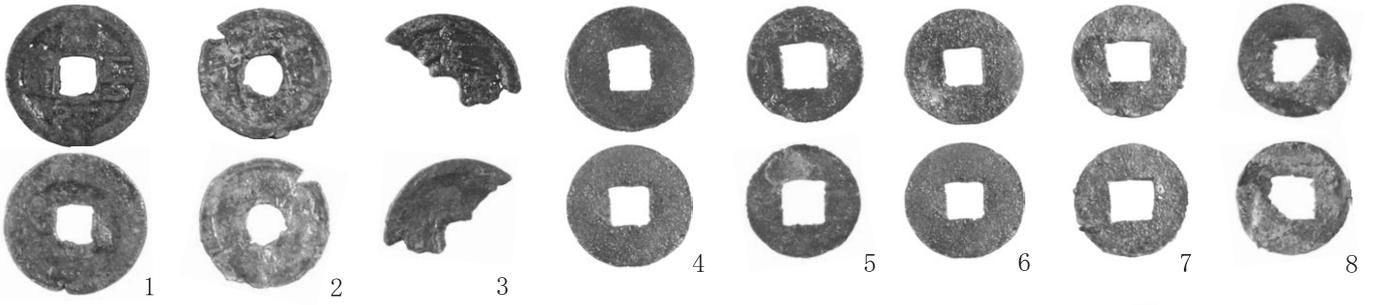


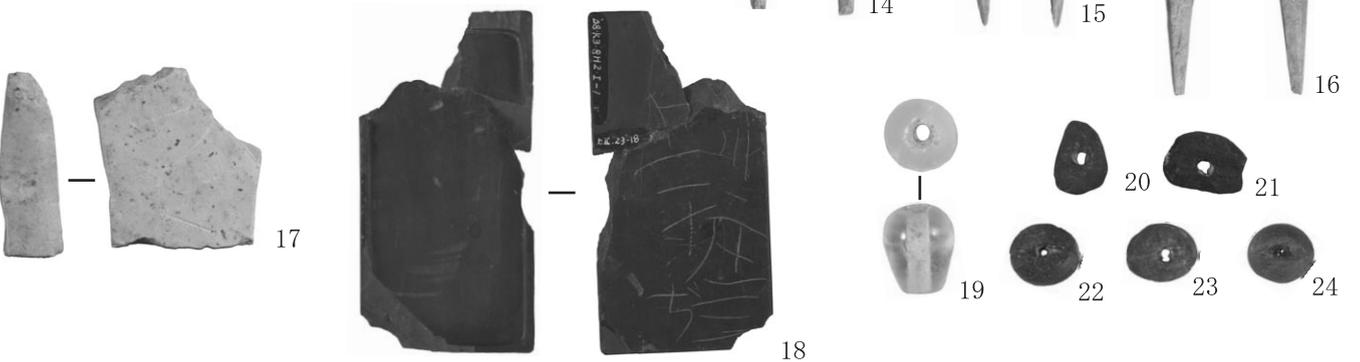
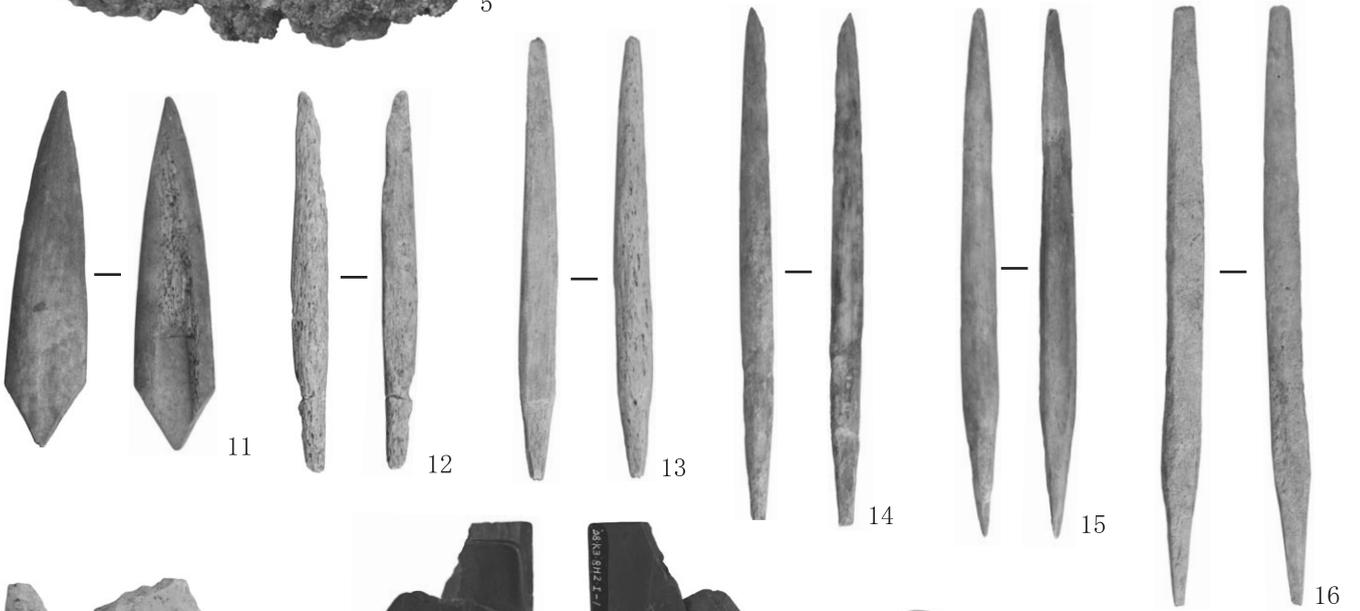
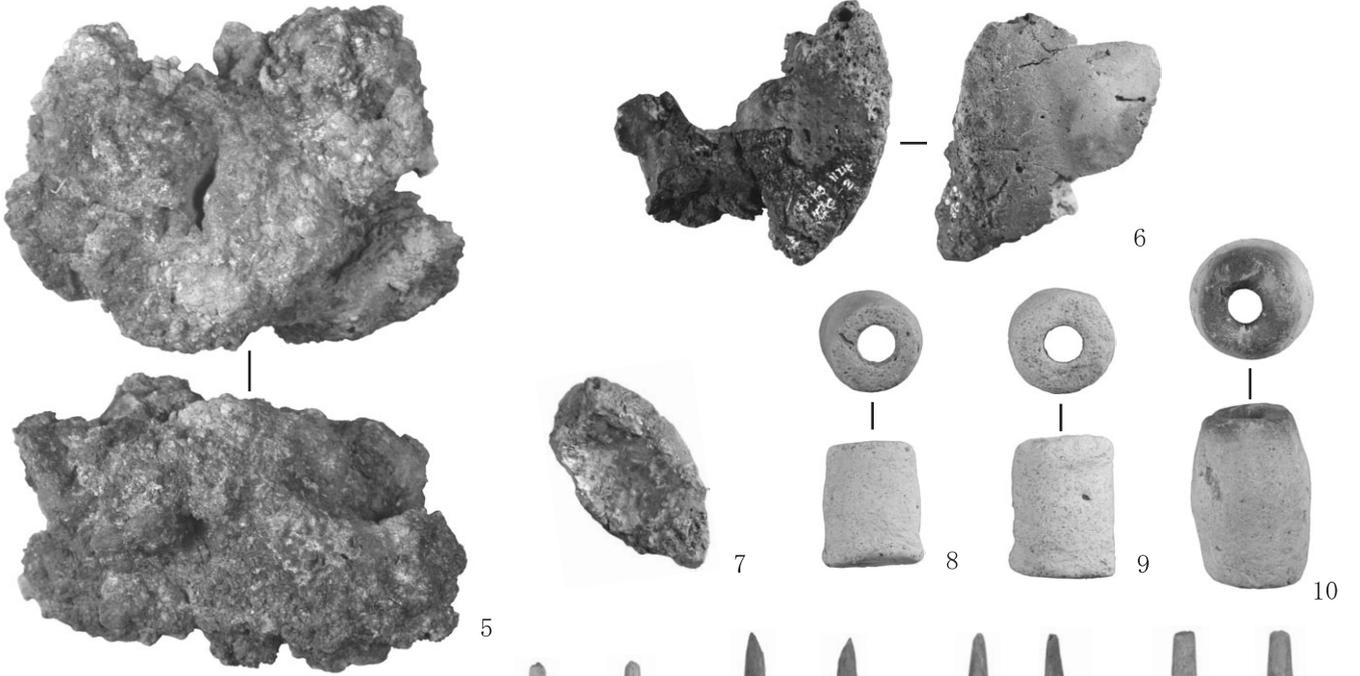
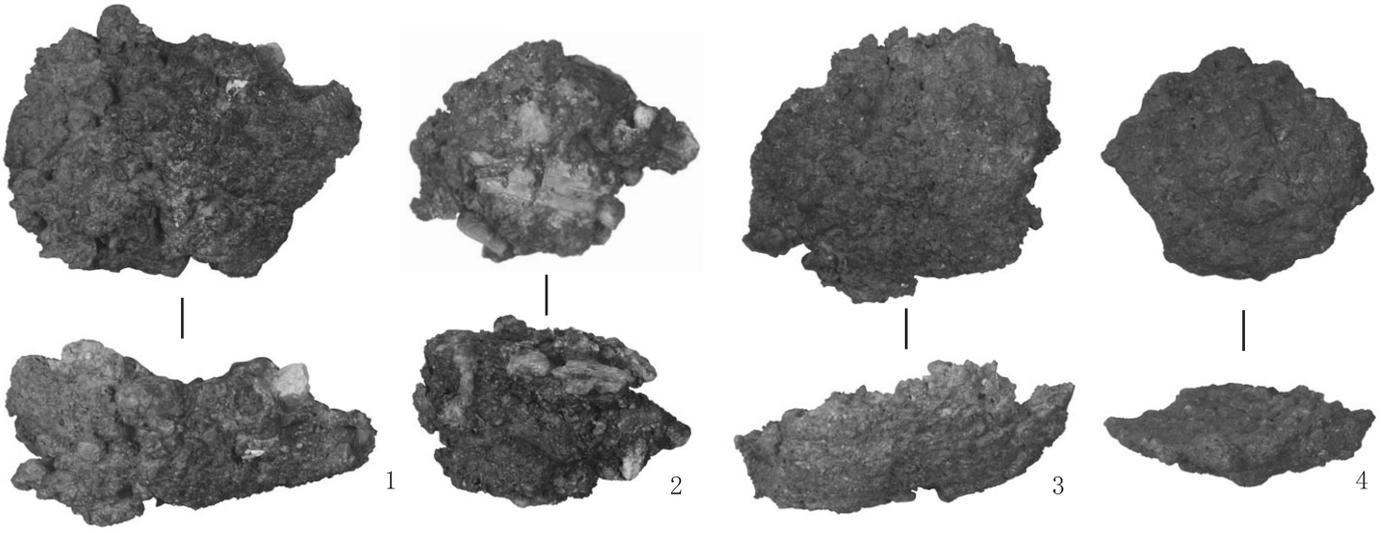
27



26







## 報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきかみのくにたてあと かつやまだてあととはくつちょうさほうこくしょ							
書名	史跡上之国館跡							
副書名	平成21年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書							
巻次	3							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	塚田直哉							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049 - 0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 TEL .0139 - 55 - 2230							
発行年月日	2010年3月26日							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しせきかみのくにたてあと 史跡上之国館跡	かみのくにちょう 上ノ国町 あざかつやまあざ 字勝山字 ばんち 401・2番地 ほか 他	013625	C - 02 - 3	41°8' 00	140°6' 00	平成21年4月20日 ~ 平成21年12月18日	700m <sup>2</sup>	史跡等・登録記念物・歴史の道保存修理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
しせきかみのくにたてあと 史跡上之国館跡 のうち かつやまだてあと 勝山館跡	城館	中世	道路跡3本(上1本、下2本)、空堀、 竪穴遺構2棟、土 壙12基、溝8条、 礎石建物1棟・柱 穴8基	陶磁器(青磁、白磁、染付、 赤絵、朝鮮、瀬戸・美濃、 越前、唐津) かわらけ、鉄 製品(釘、鍋、小札、鏝、 馬具、釣針他) 銅製品(小 柄、目貫、銭、金具他) 石 製品(硯、砥石) 土製品 (埴塙、土錘) 鍛冶関連遺 物(羽口、鉄滓、不明溶解 物) 水晶・木製品(数珠玉)		第一平坦面直下の遺 構確認調査により検 出された道路跡、空堀、 礎石建物跡、土壙、溝 などの遺構と出土遺 物の報告及び荒神堂 跡についての調査報 告。		

---

## 史跡 上之国館跡Ⅲ

—平成21年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書—

発 行：上ノ国町教育委員会

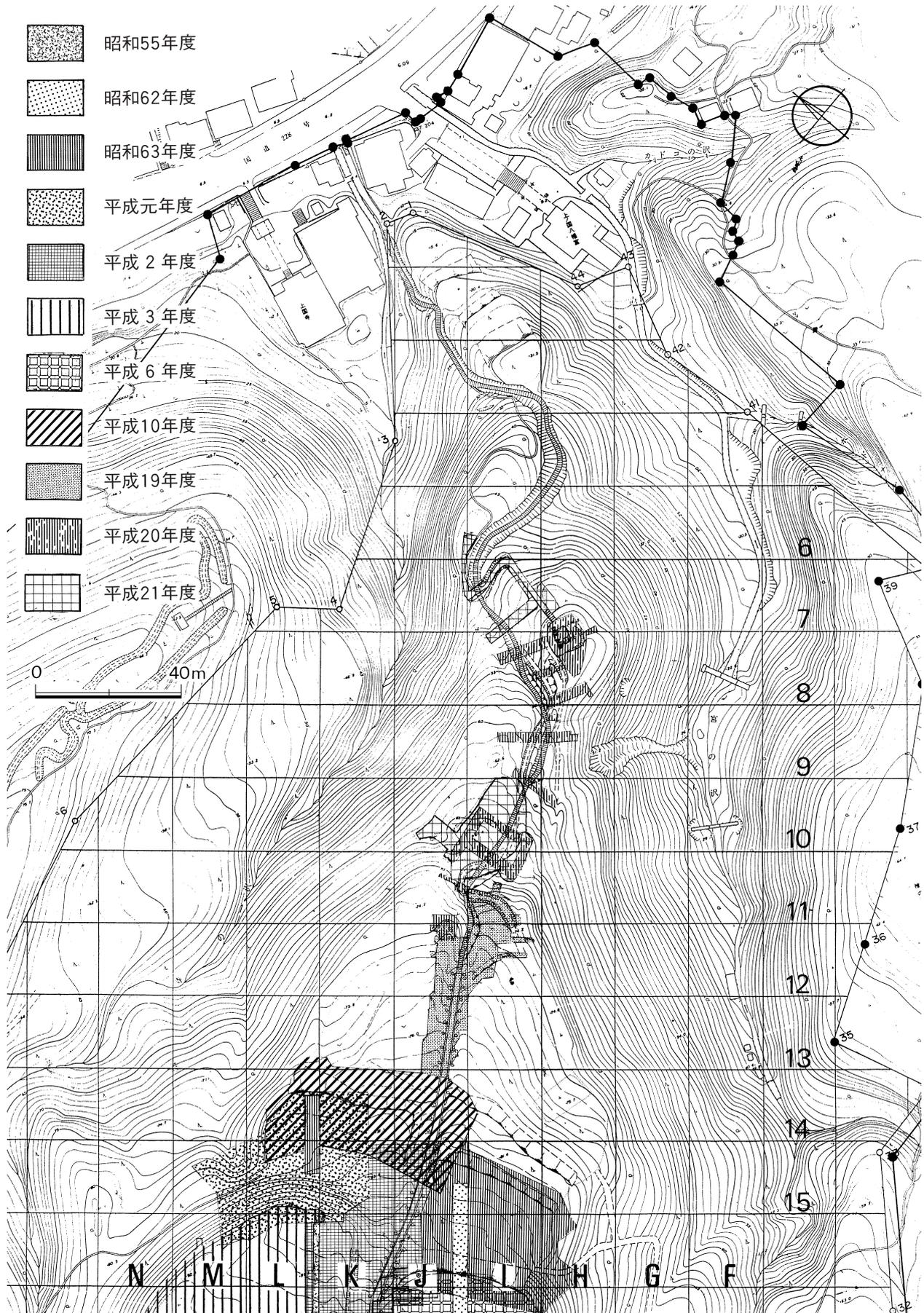
北海道檜山郡上ノ国町字大留 100

印 刷：平成22年3月23日

発 行：平成22年3月26日

印刷所：(株) 第 一 印 刷

---



第2図 年次別調査範囲図

## Ⅱ 検出遺構

本年度の調査は、昨年度検出した空壕跡と荒神堂跡の周辺で実施している。

本項では、空壕Cと荒神堂跡周辺の調査に地区ごとに分けて報告を行う。

### 1. 空壕C周辺の調査

今年度の調査は、空壕Cを渡る施設やそれに連なる旧道跡の遺構確認を目的に実施している。

また、昨年度の調査では空壕Cが、勝山館跡第一平坦面と呼ばれる斜面直下で確認された。その他、空壕C上面で検出された08土壌16、空壕Cに平行する土壘・08溝6などが確認されている。

#### 土壌1 (12図、P L 18・1～3)

〔位置〕10I7グリッドに位置する。遺構の性格は土葬墓と思われる。遺構は、上面が削平を受けていたため、中世か近世といった年代の特定ができなかった。調査では半截をしている。

〔形態・規模〕平面形は長軸99cm、短軸71.5cmの隅丸長方形を呈し、深さ32.5cmを測る。北東～南西に長軸方向をとる。

遺構北側で人と思われる歯が確認されているため、北の方角に頭部がくると思われる。また、墓壇の形態から屈葬であったことが推測される。

〔堆積土〕人為堆積を呈する。南側のセクションでは、木棺ラインと思われる立ち上がりがみられたが北側で立木の根によって壊されていたため、木棺に納められたかどうか確認できなかった。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕副葬品として鉄製品馬具(面懸)1点、その他被葬者と思われる自然遺物人骨(歯)1点が出土している。

#### 土壌2 (12図、P L 18・4)

〔位置〕10I13グリッドに位置する。遺構の性格は土葬墓と思われる。遺構は、上面が削平を受けていたため、中世か近世か年代の特定ができなかった。調査は半截して行っている。

〔形態・規模〕平面形は、長軸112cm、短軸73cmの隅丸長方形を呈し、深さ30cmを測る。北西～南東方向に長軸をとる。

〔堆積土〕人為堆積を呈する。セクションでは、木棺と思われる立ち上がりがみられた。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕木棺に使用したと思われる鉄製品和釘1点、その他被葬者と思われる自然遺物人骨1点が出土している。

#### 土壌3 (13図、P L 2・6、19・3・4)

〔位置〕10I3・8グリッドに位置する。遺構は、検出した層位から近世以降と考えられる。遺構の性格は不明である。

〔形態・規模〕平面形は、長軸52cm、短軸45.5cmの円形を呈し、深さ18cmを測る。

〔堆積土〕人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕土壌6より新しい。

〔出土遺物〕土壌6から混入したと思われる自然遺物の人骨3点が出土している。

#### 土壌4 (13図、P L 19・1)

〔位置〕10I7・12グリッドに位置する。遺構の性格は不明である。

〔形態・規模〕平面形は、長軸63cm、短軸59cmの円形を呈し、深さ14cmを測る。

〔堆積土〕人為堆積を呈し、1～2cm大の玉砂利層がみられた。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕青磁碗(群不明)1点、染付皿(C群)1点、越前播鉢1点が出土している。

#### 土壌5 (12図、P L 2・3・4、18・6・7)

〔位置〕10I2・7グリッドに位置する。遺構の性格は、墓とも推測されるが不明である。

〔形態・規模〕長軸125cm、短軸が調査区外へ延びるため不明である、深さ40cmを測る。

〔堆積土〕人為堆積を呈し、0.5～1cm大の玉砂利を多く含む。

〔新旧関係〕溝4より新しく、土壌8より古い。



第3図 調査区遺構配置図

〔出土遺物〕瀬戸・美濃鉄釉腰折皿（後新）2点、瀬戸・美濃灰釉端反皿（大1）1点・皿（大1・2）1点、越前播鉢1点、鉄製品和釘3点・小札3点、自然遺物不明骨3点・炭1点が出土している。

#### 土壌6（13図、PL2・6・7、19・3～5）

〔位置〕10I3・8グリッドに位置する。遺構は中世の火葬施設と思われる。

〔形態・規模〕ほぼ東西南北方向に長軸175.5cm、短軸146.5cmの十文字形を呈し、深さ13cmを測る。

〔堆積土〕Ko・d火山灰が覆土上面に堆積し、木棺を燃焼した際の炭化材がみられる。堆積土は、非常に固くしまっており、人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕土壌3・土壌10より古い。

〔出土遺物〕白磁端反皿（E群）1点、越前播鉢1点、鉄製品和釘8点、木製品数珠玉6点、鍛冶関連遺物鉄滓（椀型）1点、自然遺物人骨5点・炭7点が出土している。

#### 土壌7（13図、PL18・6・7、19・2）

〔位置〕10I7グリッドに位置する。遺構は、検出した層位から近世～近代と考えられ、性格は不明である。

〔形態・規模〕長軸54.5cm、短軸47cmの円形を呈し、深さ15cmを測る。

〔堆積土〕人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

#### 土壌8（12図、PL2・3～5、18・6・7）

〔位置〕10I7グリッドに位置する。遺構は、江戸時代の土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕長軸121.5cm、深さ36cmを測る。短軸は調査区外へ延びるため不明であるが、隅丸長方形と推測される。

〔堆積土〕人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕土壌5より新しい。

〔出土遺物〕副葬品として銅製品銭6点（寛永通寶1期）が出土している。その他、染付碗（不明）1点、鉄製品和釘23点、釣針1点、縄文土器1点、繊維製品1点が出土している。

#### 土壌10（13図、PL2・6・8、19・3・4）

〔位置〕10I3グリッドに位置する。遺構は、江戸時代の土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕平面形は、長軸92cm、短軸81cmの隅丸長方形（円形に近い）を呈し、深さ65cmを測る。

〔堆積土〕人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕Ko・d層を壊して構築される。土壌6より新しい。

〔出土遺物〕鉄製品和釘2点、自然遺物人骨（歯）2点・不明骨3点・炭1点・炭化種子1点が出土している。

#### 土壌11（4図、PL18・6・8）

〔位置〕10I8グリッドに位置する。遺構は、江戸時代と考えられる。また、性格については不明である。

〔形態・規模〕平面形は、ほとんどが調査区外へ延びるため不明だが、深さ33cmを測る。

〔堆積土〕人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕溝4より新しい。

〔出土遺物〕なし

#### 08土壌16（11図、PL1・4・5、15・7）

〔位置〕空壕C上面の11I4グリッドに位置する。遺構は中世の土葬墓と考えられる。

〔形態・規模〕平面形は、短軸が調査区外へ延びるため不明だが長軸155cmの隅丸長方形（円形に近い）を呈し、深さ42cmを測る。上面には、セクション面で幅408cmの厚17cmのマウンド状の盛土が確認されている。

棺の規模は、長軸80cm、短軸44cmを測る。人骨の出土位置から側臥屈葬と考えられるが、頭蓋骨が下半身の骨の近くにあるため、原位置を保っていない。

当遺構から出土した人骨は、札幌医科大学の松村博文准教授に鑑定を依頼した。詳細については、章に掲載したのでそちらを参照されたい。

〔堆積土〕盛土正面にKo・d火山灰が堆積する。人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕空壕Cより新しく、08土壌3より古い。

〔出土遺物〕その他は、空壕Cから混入したものと考えられる。

副葬品は、確実なもので、一括して出土した輪銭31枚である。その他は、空壕Cから混入したものと考えられる。

青磁稜花皿1点、白磁端反皿(E群)2点、染付碗(C群)1点・皿(C群)1点・(B1群)1点、瀬戸・美濃鉄釉碗(大3)1点、瀬戸・美濃灰釉丸碗(大1)1点・端反皿(大1)1点、鉄製品和釘35点・鉤1点、銅製品銭22点(開元通寶1点・皇宋通寶1点・元豊通寶1点・洪武通寶1点・無文銭3点・輪銭13点・不明銭2点)、石製品砥石2点(仕上砥1点・不明砥1点)、土製品羽口2点、不明溶解物1点、縄文土器10点、剥片石器2点、自然遺物人骨41点・魚骨1点・不明獣骨1点が出土している。出土人骨は状態が良好で、右腕以外ほぼ揃っていた。

### 08土壙3(11図、PL10・2・3)

〔位置〕11I4グリッドの空壕Cの上面に位置し、空壕Cを壊して構築される土葬墓である。掘り込み等から近世墓と思われる。

〔形態・規模〕墓壙の平面形は、107cm×83cm、棺の北東を長軸70cm、短軸46cmである。人骨は、北東頭位の仰臥屈葬である。

〔堆積土〕周囲に掘り上げ土と思われる堆積を確認した。

〔新旧関係〕空壕Cや土葬墓の08土壙16より新しい。

〔出土遺物〕青磁碗(類不明)1点、染付碗(C群)1点・皿2点(B1群)2点・(C群)2点、瀬戸・美濃灰釉丸皿(大2)1点・不明皿(大1・2)3点、鉄製品釘47点・鉤?1点・小柄1点・不明1点、銅製品銭5点(開元通寶1点、元祐通寶1点、咸平元寶1点、判読不明2点)、石製品砥石1点、自然遺物人骨、縄文土器27点、剥片石器3点が出土している。

出土した遺物はいずれも混入したものと考えられ、副葬品と思われるものは確認されなかった。鉄釘は木質が付着し、棺に使用されたものである。

### 溝4(4図、PL2・3・4、17・4・7、18・6・8)

〔位置〕10I2・7~9グリッドに位置する。08溝6と平行して構築されている。

〔形態・規模〕幅118~284cm、深さ28~30cmを測る。底面のレベルは、現在の通路下(08溝3・08溝4の間)で高くなっていることが推測され、両端が低くなっている。

〔堆積土〕自然堆積を呈する。

〔新旧関係〕08溝3、08溝4、土壙5・7・8・11より古い。

〔出土遺物〕鉄製品和釘1点が出土している。

### 08溝3(4図、PL1・1、14・2~6、15・1、17・7、19・6)

〔位置〕昨年度の調査で一部検出され、11J5・10、10I3・4・8・9・13・14・18・22、11I1・2・6グリッドに位置している。

〔形態・規模〕幅144~184cm、深さ11~54cmを測る。南西~北東方向へ構築され、08溝4にほぼ平行して確認された。

〔新旧関係〕空壕C、08溝6、溝4より新しい。

〔出土遺物〕青磁碗(B4類)1点、白磁丸皿(D群)1点・坏(E群)1点、染付碗(C群)2点・皿(B1群)3点、瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗(大3)1点、瀬戸・美濃灰釉丸碗A(大1前)1点・(大1)2点・皿(大1・2)2点、越前播鉢2点・(群b)1点、肥前系染付碗1点、近世陶器1点、鉄製品和釘2点・小札1点・鍋3点・不明1点、銅製品銭24点(開元通寶1点・皇宋通寶1点・熙寧元寶1点・元豊通寶3点・寛永通寶1期2点・2期9点・3期5点・四文銭2点)、剥片石器1点が出土している。

### 08溝4(4図、PL1・1、2・1、14・1・3・5・6、15・1、17・4、19・7・8)

〔位置〕11J10・15、10I4・9・13・14・18・19・23・24、11I2・3・6・7グリッドに位置している。

〔形態・規模〕幅78~210cm、深さ32~47cmを測る。08溝3に平行して検出された。

〔出土遺物〕青磁碗(B4類)2点・(E類)2点、白磁端反皿(E群)13点、染付碗(C群)6点・(E群)1点・端反皿(B1群)3点・皿(B1群)3点・(C群)3点、赤絵碗1点、瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗(大1)1点・(大1・2)2点、瀬戸・美濃灰釉丸碗A(大1)1点・端反皿(大1)9点・皿(大1・2)1点、珠洲播鉢1点、越前播鉢5点、肥前系磁器皿1点、近世陶器鉢3点、鉄製品和釘3点・不明釘1点・鍋3点、銅製品銭3点(祥符元寶1点・無文銭2点)、鍛冶関連遺物鉄滓2点・不明溶解物3点、縄文土器7点、剥片石器5点、骨角器未製品1点・不明1点、自然遺物不明獣骨1点・不明骨1点・不明貝1点が出土している。

### 08溝6 (4図、PL2・1、17・5、18・5)

〔位置〕昨年度の調査で一部検出され、10I6・11～14・16～19グリッドに位置している。

〔形態・規模〕幅94～420cm、深さ23.5～74cmを測る。北西～南東方向に構築され、空壕C・溝4と平行にみられる。底面のレベルは、現在の通路下(08溝3・08溝4の間)で高くなっているため、その箇所が当時の通路のルートであった可能性が高い。

〔堆積土〕自然堆積を呈する。

〔新旧関係〕08溝3、08溝4より古い。

〔出土遺物〕瀬戸・美濃灰釉皿(大1・2)1点、越前播鉢1点、鉄製品火箸1点、骨角器中柄1点、自然遺物鹿角2点・馬歯1点・アワビ貝殻3点・不明獣骨9点が出土している。

### 空壕C (5～10図、PL1・2・3、14・5～7、15・1～6、16、17・1)

〔位置〕空壕Cは、現在の西側部分で掘り直されていることが確認され、その箇所を空壕C(新)とした。

空壕Cは、11J10、11I1～9グリッド、空壕C(新)は10I21、10J13・18～20・24・25グリッドに位置する。

〔形態・規模〕空壕Cは、幅844cm、深さ113～168cmを測り、底面がV字状の薬研堀を呈す。

空壕C(新)は幅855cm、深さ75～116cmを測り、U字状を呈す。

空壕底面のレベルは、現在の通路下(08溝3・08溝4の間)で高くなっており、両端の沢に近づくに従い低くなっている。また、底面が高くなっている箇所の西側壁面には、橋等の痕跡と思われる柱穴(Pit3～6)が確認されている。

〔堆積土〕SPJ～SPJ'の数字で表記した箇所は、黒色土を呈し、自然堆積をしている。一方その下位に堆積する旧仮名遣いで表記した箇所では、にぶい黄褐色を呈し、礫を多く含み人為的な堆積をしている。

また、出土遺物は自然堆積をしている黒色土層から多く出土している。

〔新旧関係〕空壕Cは、Pit3～6と同時期か古く、また土橋状盛土遺構より古い。

空壕C(新)は、Pit3～6より新しく、土橋状盛土遺構と同時期か新しい。その他、空壕C・空壕C(新)は08土壇3・5・16、08溝3・4よ

り古い。

〔出土遺物〕青磁碗(B4類)3点・(E類)1点・稜花皿3点、白磁端反皿(E群)34点・反坏(E群)1点、染付碗(B群)1点・(C群)8点・(E群)1点・(群不明)1点・(不明)1点・端反皿(B1群)2点・(群不明)1点・皿(B1群)8点・(B群?)1点・(C群)14点・(群不明)1点・端反坏1点、青磁染付反皿(群不明)1点、朝鮮壺1点、瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗(大1)1点・(大1・2)1点・(大2)2点・腰折皿(後新)1点、瀬戸・美濃灰釉丸碗(大1)1点・丸碗A2点・(大1)4点・端反皿(大1)25点・反皿(大1)1点・丸皿(大2)1点・皿(大1)1点・(大1・2)8点、越前播鉢7点・(群a)1点・(群b)5点、漆器(塗膜片)5点、鉄製品鋸1点・鎌2点・和釘25点・平釘1点・釘10点・釘&鋏2点・刀子1点・小札4点・小柄5点・茶寮1点・鍋24点・釣針2点・鉤1点・不明3点、銅製品小柄1点・目貫1点・不明2点・銭22点(紹聖元寶1点・洪武通寶1点・永樂通寶1点・無文銭14点・輪銭1点・判読不明4点)、石製品砥石6点(中砥5点・仕上砥1点)・礫1点・不明2点・自然礫1点、土製品埴塙1点・土錘1点・羽口10点、鍛冶関連遺物鉄滓57点・不明溶解物32点、骨角器鏃1点・中柄9点・針?1点・海獣骨1点・不明3点、自然遺物人骨8点・魚骨33点・鹿角4点・鳥1点・貝27点・不明獣骨21点・不明骨20点・くるみ2点・自然木2点・炭2点・炭化種子1点、縄文土器96点、剥片石器21点、が出土している。

### 土壘(4図)

〔位置〕10I16・24グリッドの空壕Cの東側に位置する。

〔形態・規模〕空壕Cに平行し、平面形は上場幅2.5m・底部幅10m、空壕Cの底面からの比高差約2m、溝6からの比高差約3mを測る。岩盤を削り出し、土壘状に仕上げている。

現在は、08溝3・08溝4が掘削されたため中央部分が広がっているが、当時はもっと狭かったことが想定される。

〔堆積土〕なし

〔新旧関係〕空壕C・溝6と同時期と推測される。

〔出土遺物〕なし

### Pit 3 ~ 6 (10図、P L 1・2、14・5)

〔位置〕現在の自然散策路の階段下の10 I 21 ~ 23、11 I 1 ~ 3・6 ~ 8グリッドの空壕C西側斜面に位置する。

また、Pit 4 ~ 6は、その並ぶ軸が空壕Cとほぼ直交していることや検出された位置が空壕Cの底面のレベルが高くなっている箇所であることから、空壕を渡る橋等の施設の痕跡である可能性が考えられた。

〔形態・規模〕直径20 ~ 40cmの不整円形、深さ約20cmを測る。また、Pit 3・4間は約80cm、Pit 4 ~ 6は幅118 ~ 284cm、深さ28 ~ 30cmを測る。

空壕C東側斜面では、近世の08溝3が空壕C斜面を壊しているため、同様の痕跡を確認することができなかったものの、空壕Cの傾斜から推測して幅100cm、360cmほどの規模の橋を想定した。

今回は、具体的な橋の形態をイメージすることができなかったが、類例を調査し後考したい。

〔堆積土〕礫ブロック混じりの黒色土を呈する。

〔新旧関係〕空壕Cと同時期か新しい。土橋状盛土遺構、空壕C(新)、08溝3・4より古い。

〔出土遺物〕なし

### 土橋状盛土遺構 (10図、P L 1・2、14・5)

〔位置〕現在の自然散策路の階段下の10 I 21 ~ 23、11 I 1 ~ 3・6 ~ 8グリッドの空壕C西側斜面に位置する。

〔形態・規模〕当遺構は、堆積土が礫を多く含み、他の空壕Cの堆積土と比較して固く締まっていることや底面レベルが高くなるPit 3 ~ 6の箇所です空壕に対して直交する形で検出されることから、空壕を渡る土橋の可能性が推測された。

土橋状の盛土は、そのほとんどが08溝3・4に壊されていたため、規模についてはセクションから推測した(第5図SPC ~ SPC')。

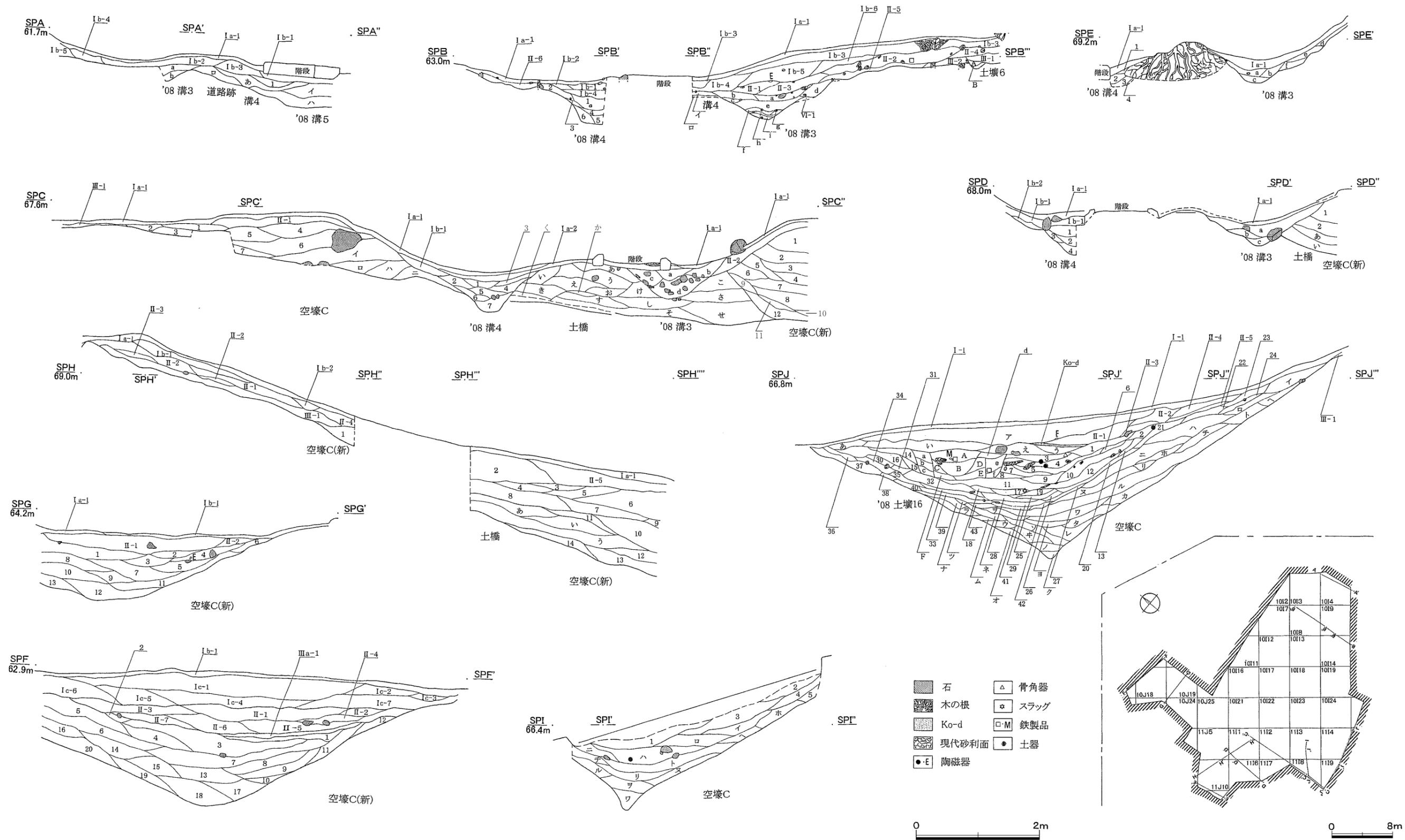
幅は、傾斜等から推測すると幅約400cmと推測される。高さは、上面が削平されていることが考えられるが、残存している高さで約80cmを測る。

〔堆積土〕人為的な堆積を呈し、5 ~ 6cm大の礫及びロームブロックを多く含み、固く締まっている。

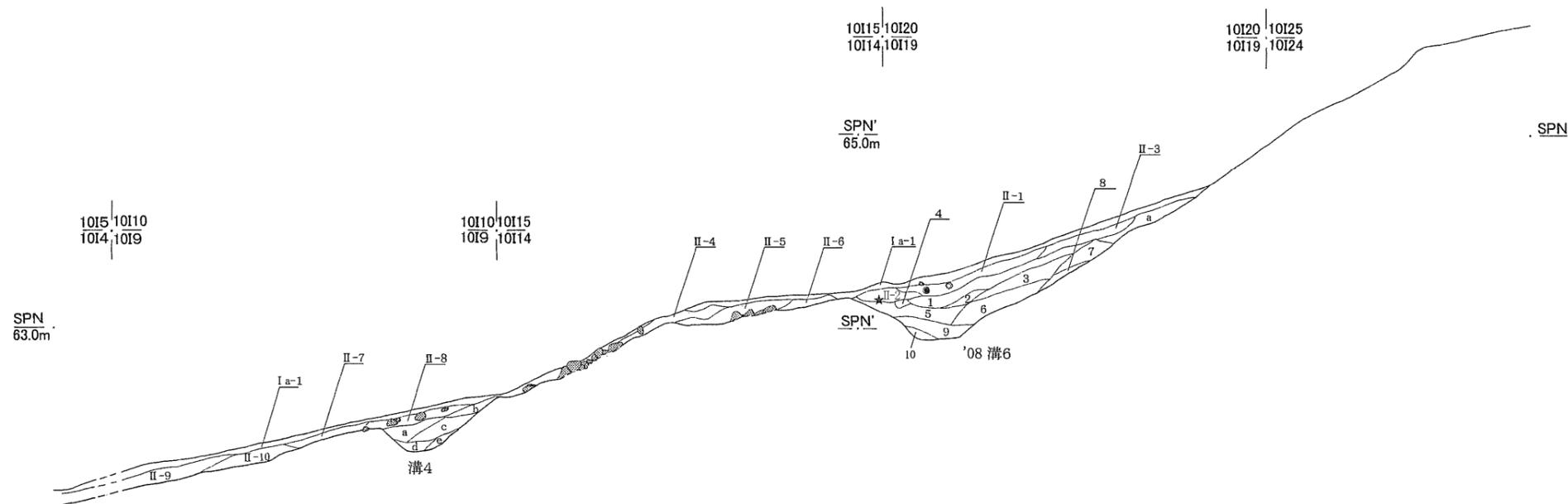
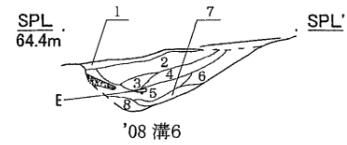
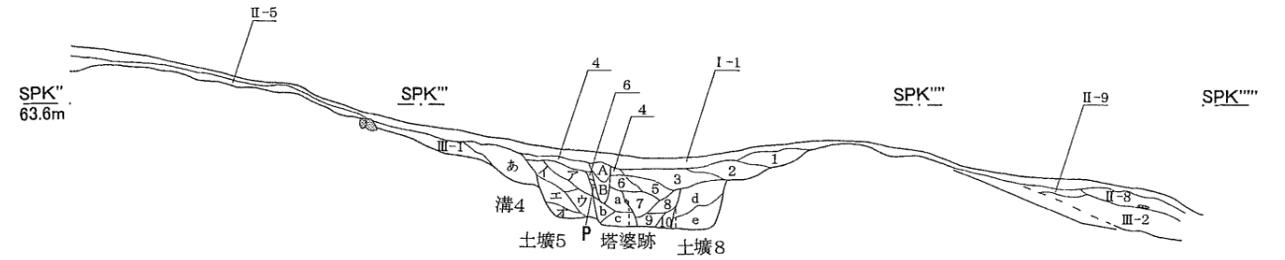
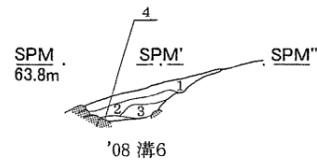
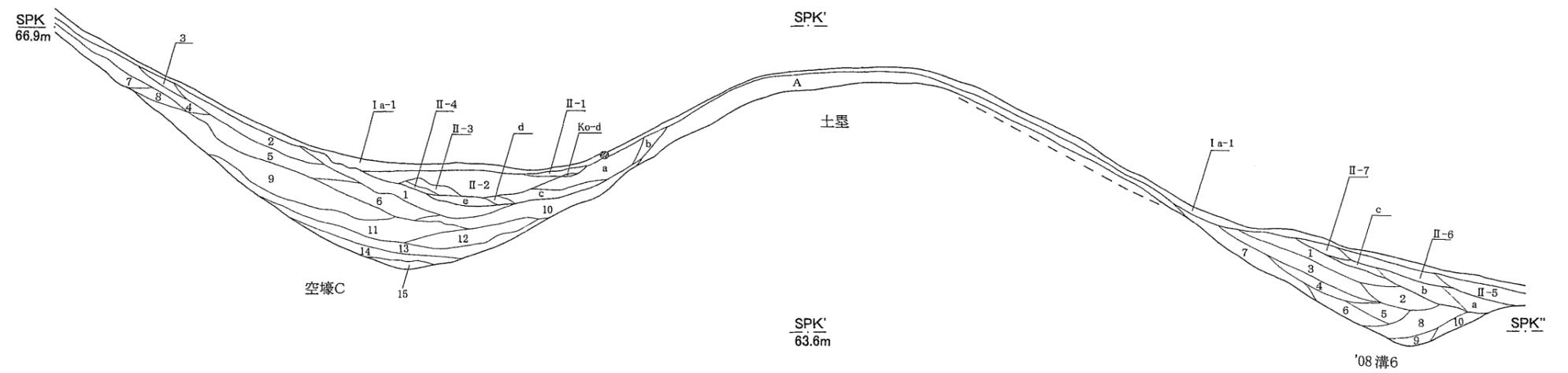
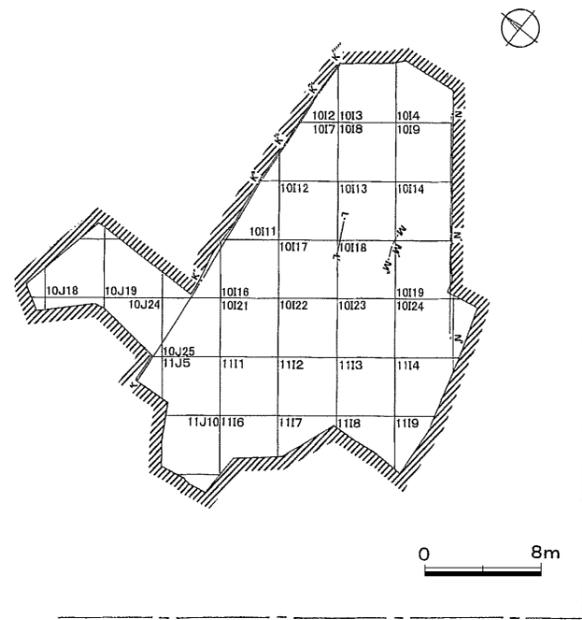
〔新旧関係〕Pit 3 ~ 6、空壕Cより新しい。空壕C(新)よりと同時期か古い。08溝3・08溝4より古い。

〔出土遺物〕なし





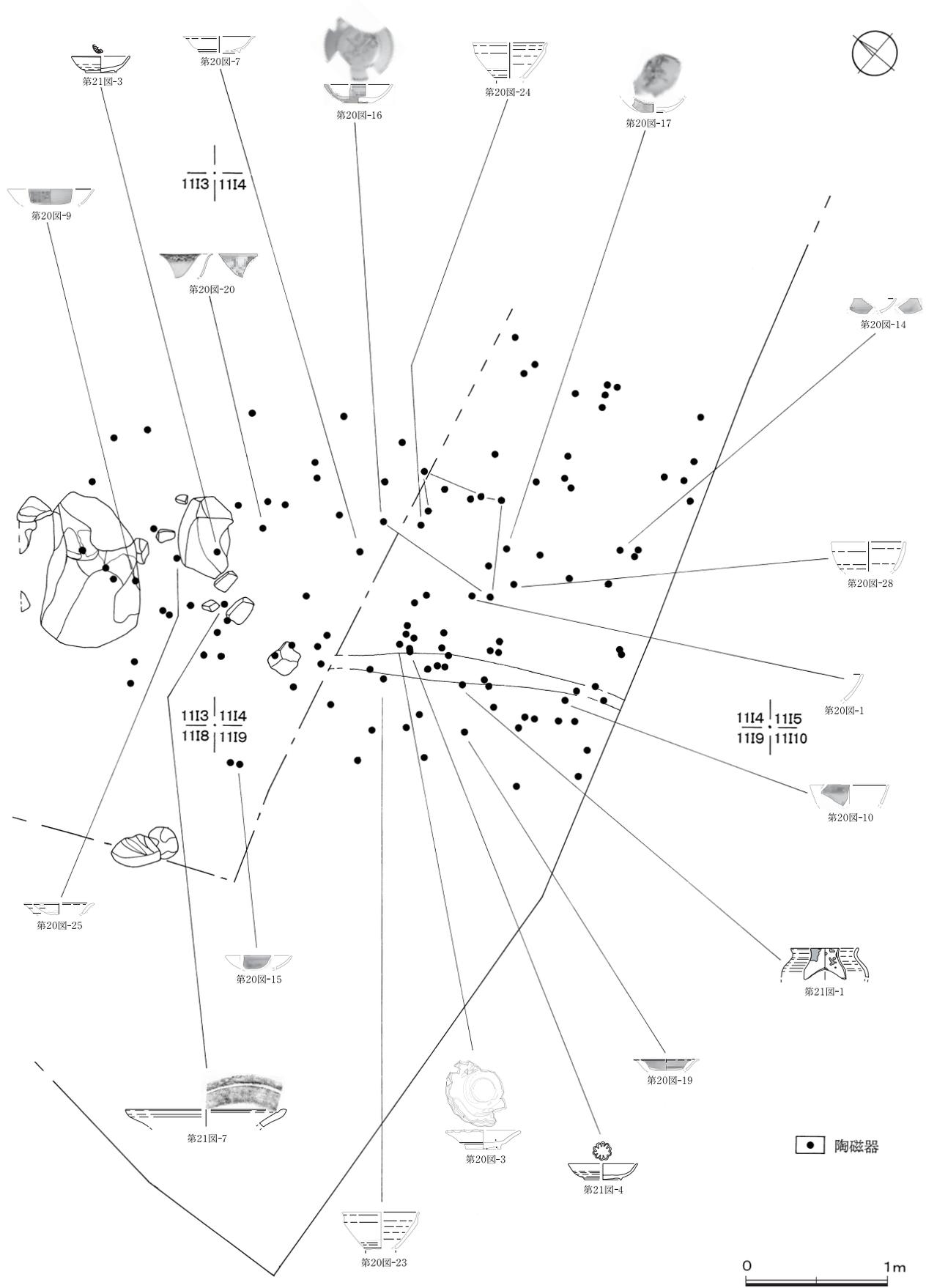
第5図 空壕C・空壕C周辺 セクション図1



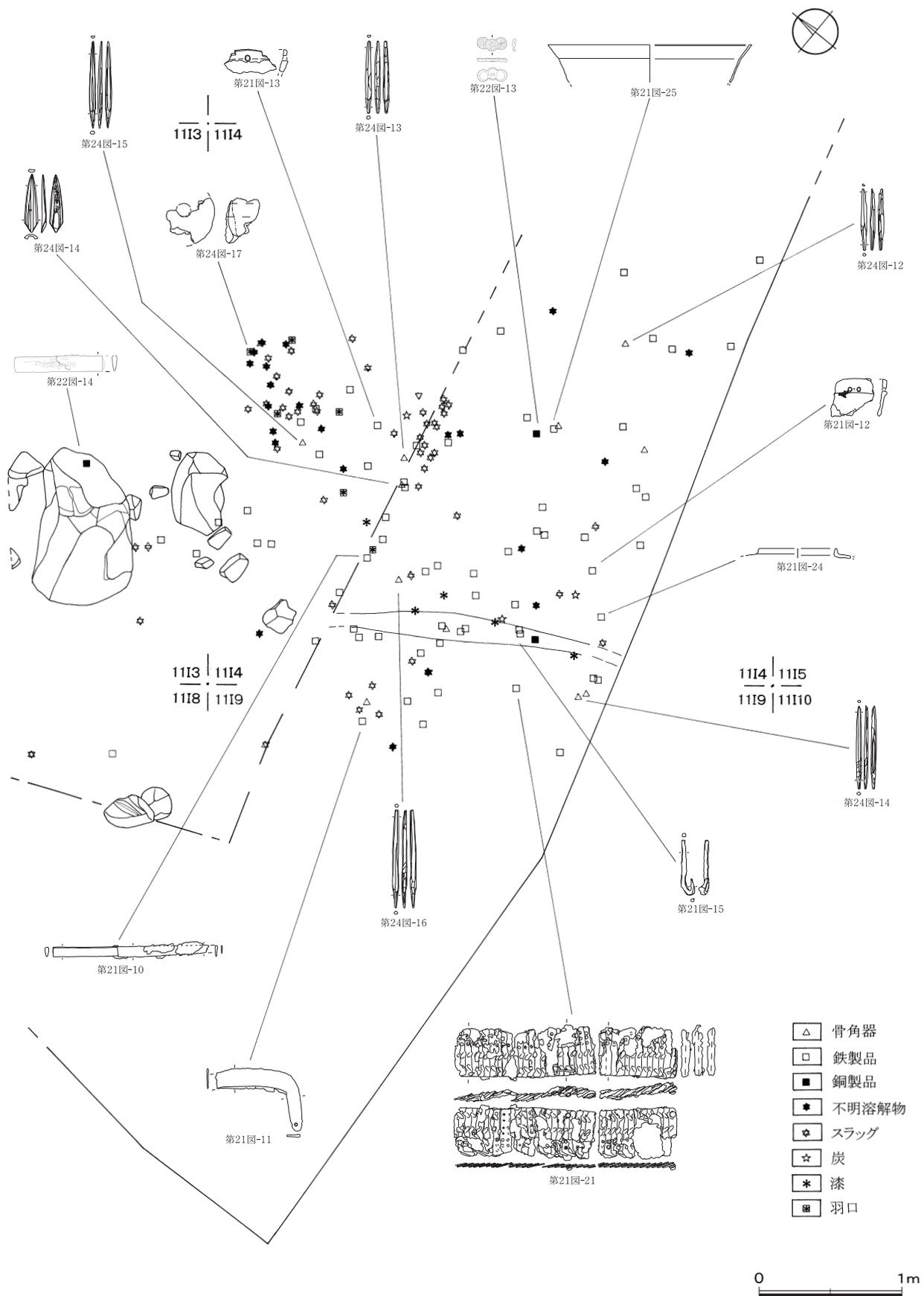
- 石
- 木の根
- Ko-d
- 骨
- 土器
- どうすい
- 陶磁器



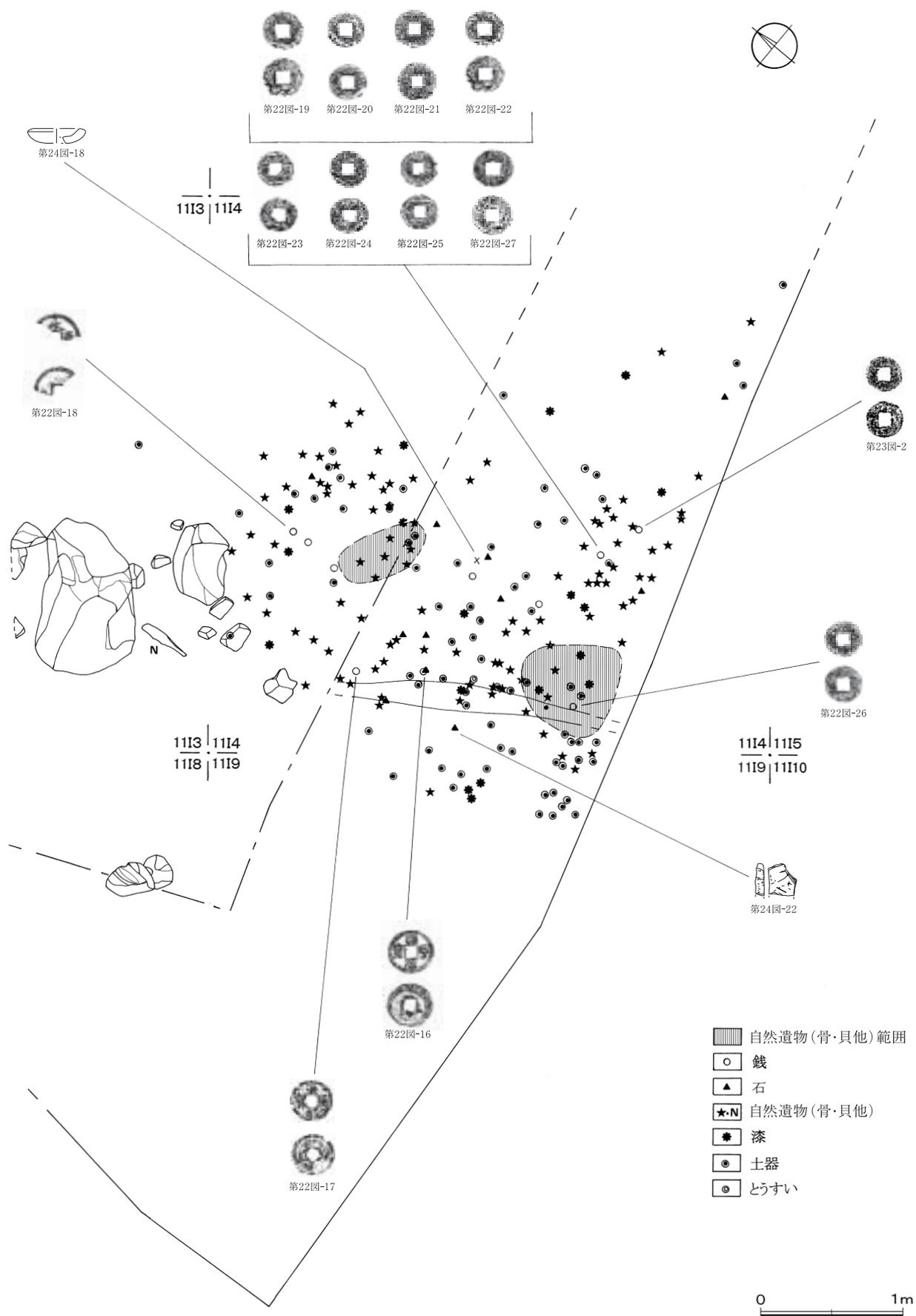
第6図 空壕C・空壕C周辺 セクション図2



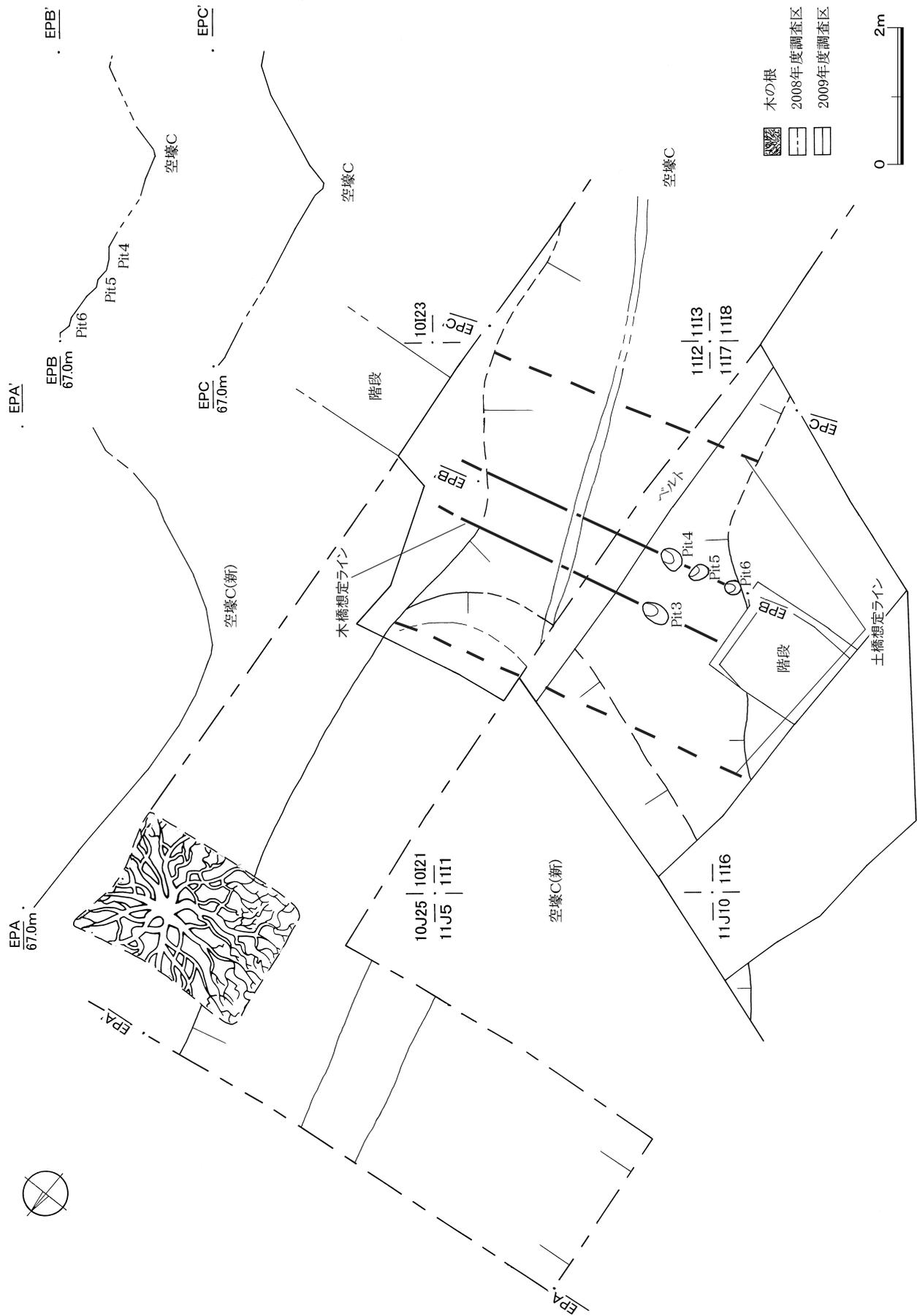
第7図 空壕C 遺物出土状況 (陶磁器)



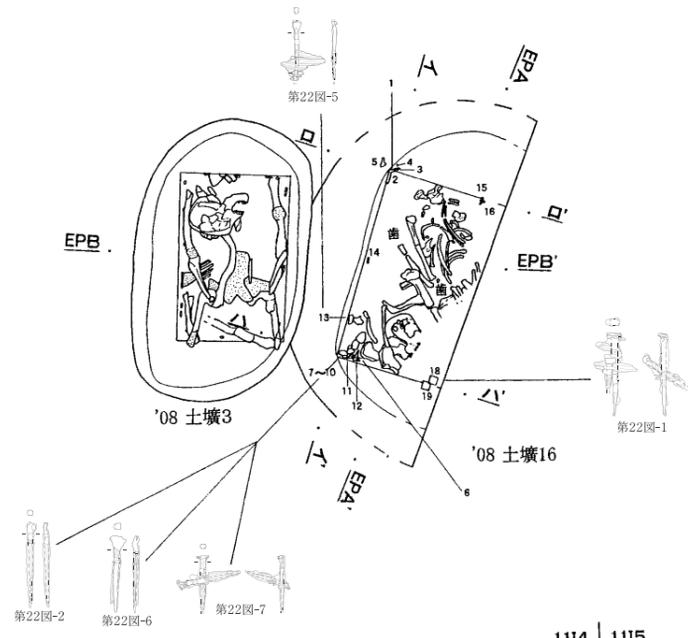
第8図 空壕C 遺物出土状況（金属製品・骨角器・土製品）



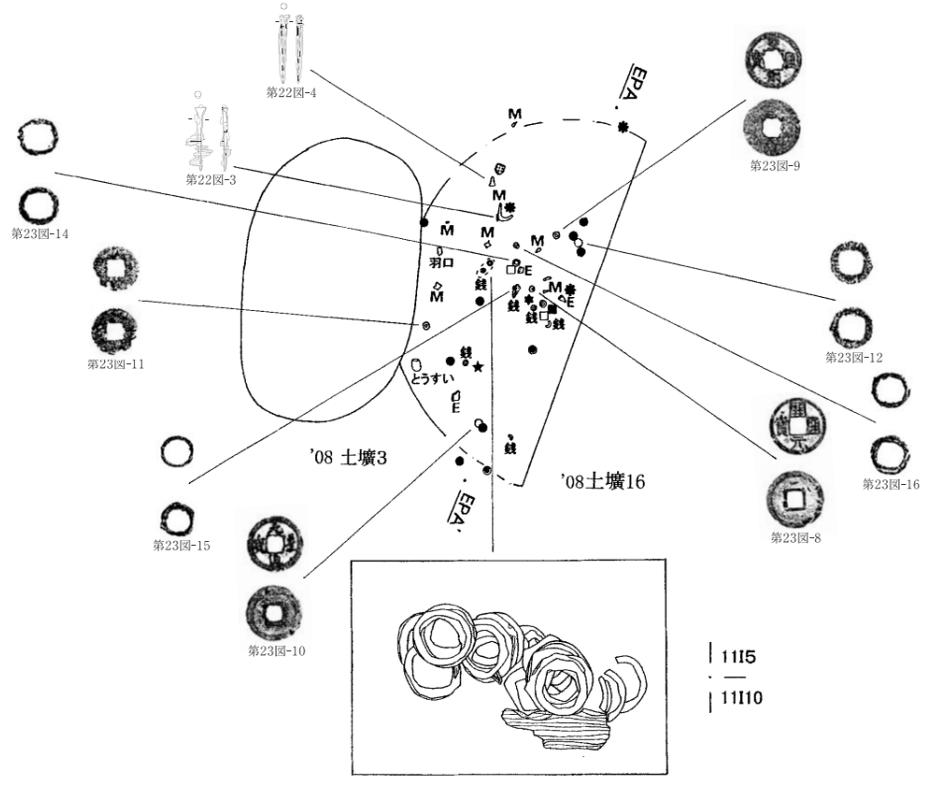
第9図 空壕C 遺物出土状況(銭貨・石製品・鍛冶関連遺物)



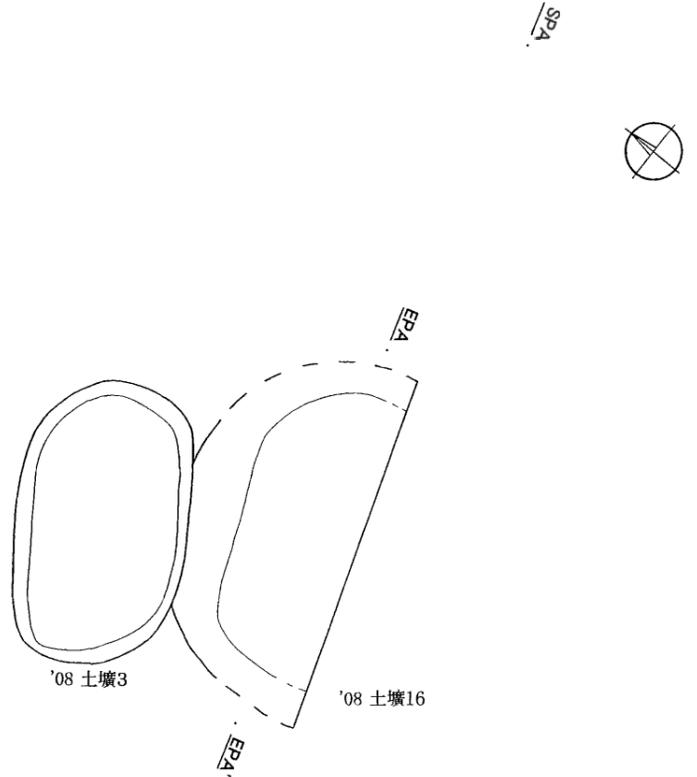
第10図 空壕C 木橋・土橋想定箇所 平面図



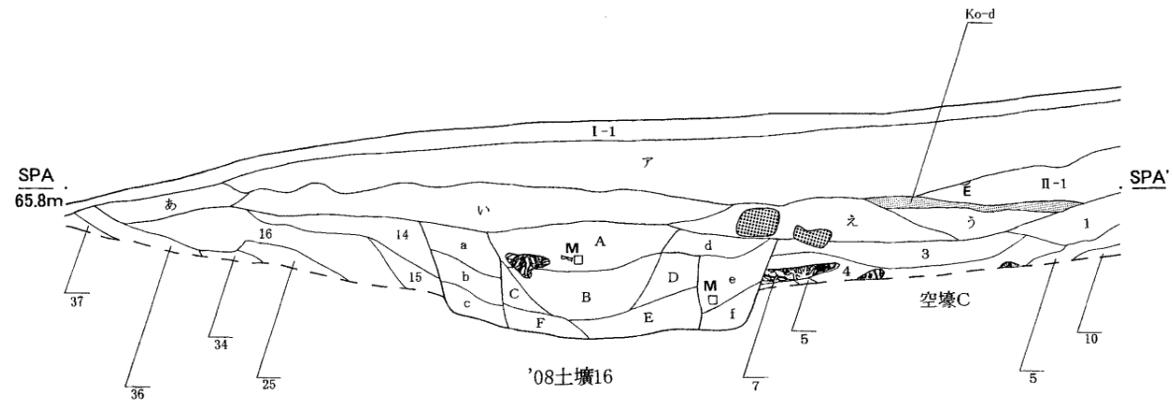
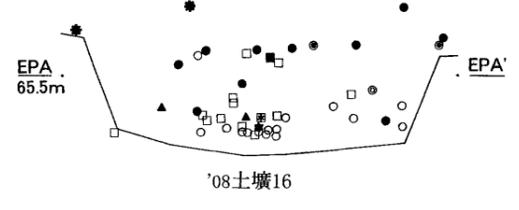
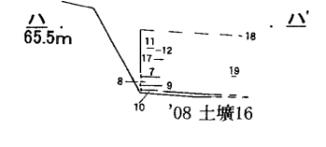
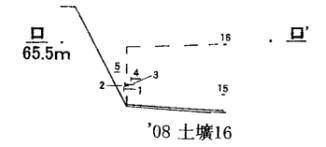
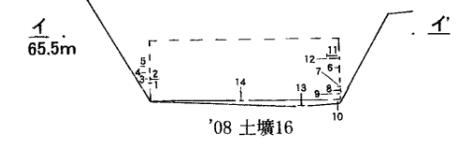
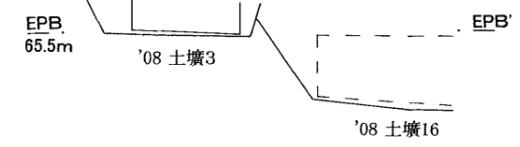
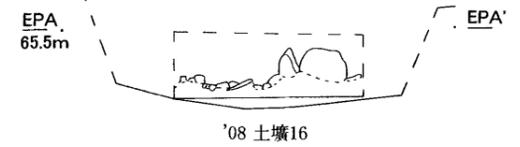
1114 | 1115  
1119 | 11110



1115  
11110



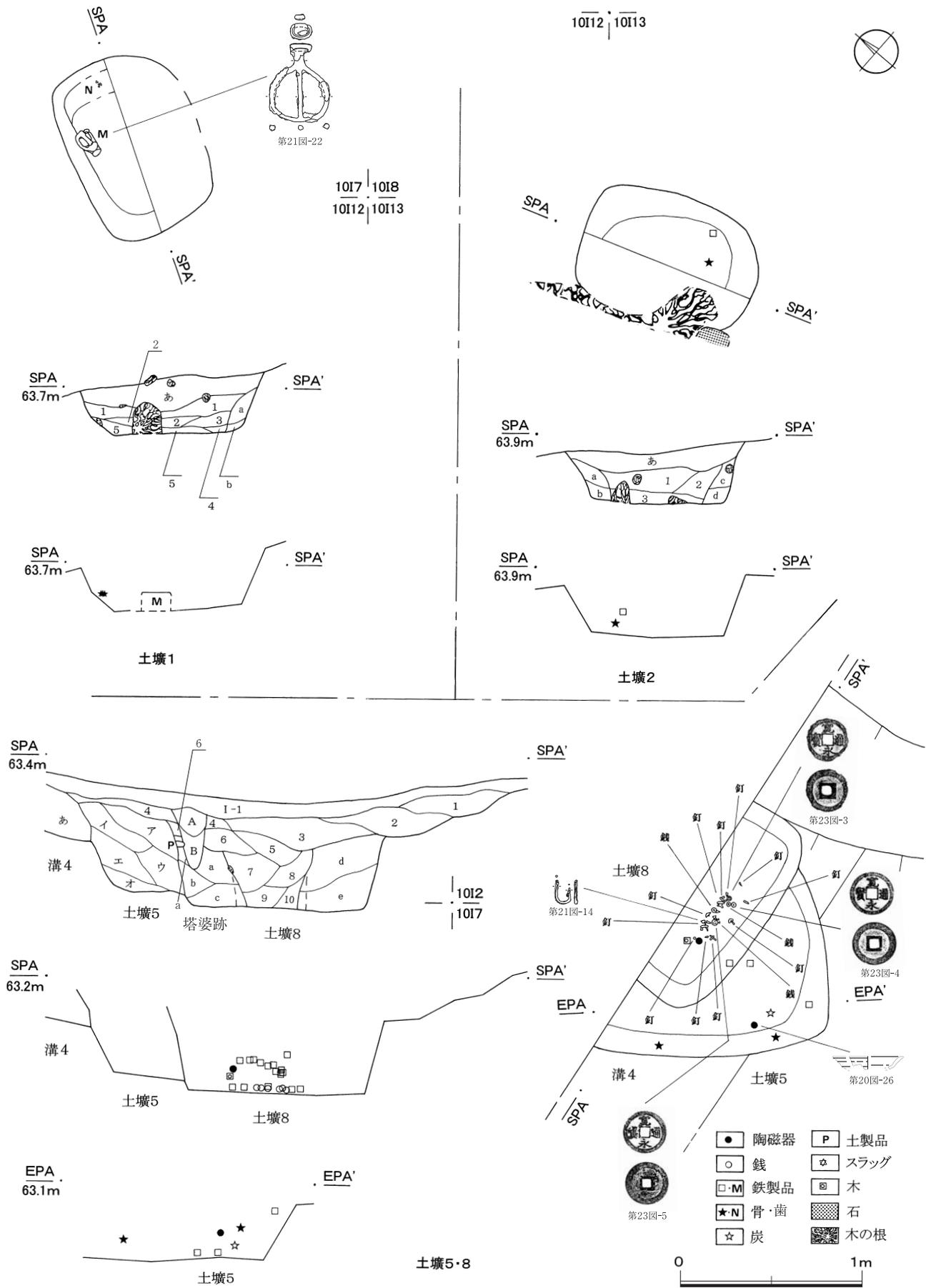
1114 | 1115  
1119 | 11110



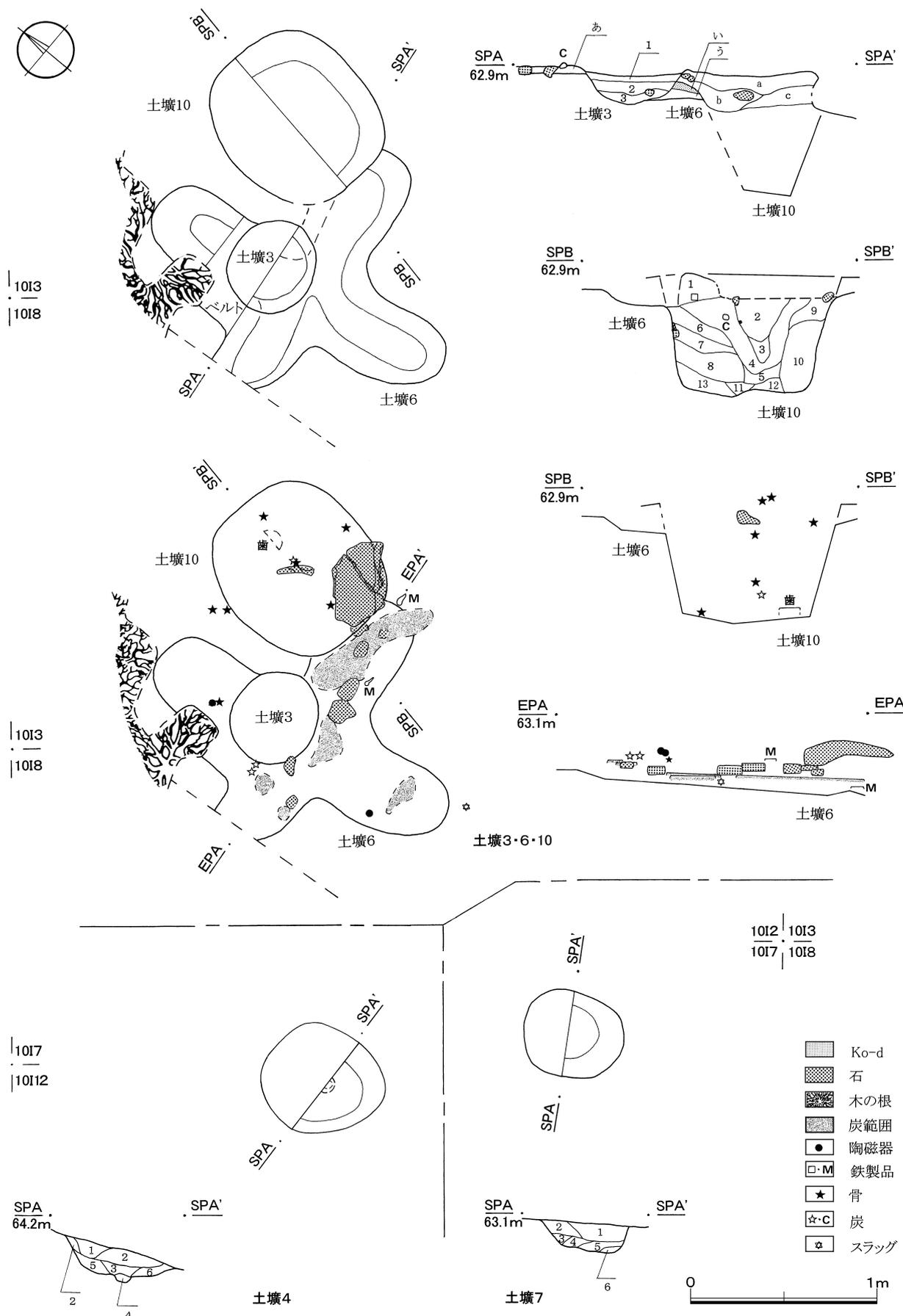
- E 陶磁器
- M 鉄製品
- 銅製品
- 羽口
- ★ 骨
- 石器
- 銭
- 土器
- 石
- 木の根
- Ko-d
- ▲ 石
- ★ 不明溶解物



第11図 '08土壌3・16 平面図他



第12図 土壌2・5・8 平面図



第13図 土壌3・4・6・7 平面図他

表1 空壕C周辺調査区 南北セクション東壁土層観察表(A~A'')

	a-1	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト	草根少量
	b-1	10YR3/2	黒褐色		シルト 密 ややハード	
	b-2	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ハード	
	a-3	10YR3/4	暗褐色	2~3mm 大玉砂利微量	シルト やや粗 ややソフト	
	b-4	10YR4/4	褐色		シルト やや密 ややソフト	
	b-5	10YR4/4	褐色	5cm 大基盤礫×2	シルト やや粗 ソフト	
'08 溝3	a	10YR3/4	暗褐色	2~3mm 大玉砂利微量	シルト やや粗	
	b	10YR3/3	暗褐色		ハード シルト やや粗 ややハード	
'08 溝4	1	10YR3/4	暗褐色		粘質土 やや粗 ややハード	
道路跡	あ	10YR3/4	暗褐色	5cm 大基盤礫少量	シルト 密 ややハード	炭粒微量
'08 溝5	イ	10YR4/4	褐色	5cm 大基盤礫中量	シルト 密 ハード	
	ロ	10YR4/3	にぶい黄褐色	5cm 大基盤礫少量	シルト やや粗 ハード	
	ハ	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫少量	シルト 粗 ソフト	

表2 空壕C周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表(B~B''')

	a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根少量
	b-1	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
	b-2	10YR3/3	暗褐色	1cm 大玉砂利×1	シルト やや密 ややハード	炭粒微量
	b-3	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややハード	
	b-4	10YR3/2	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
	b-5	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	
	b-6	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	炭粒微量
	-2	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	木の根少量
	-3	10YR4/4	褐色		シルト やや密	
	-4	10YR3/4	暗褐色		シルト 密	
	-5	10YR3/3	暗褐色	5mm 大玉砂利微量	シルト やや粗 ややソフト	
	-6	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密	
	-1	10YR3/4	暗褐色	18cm 大礫×1 5cm 大礫中量	シルト 密 ハード	
	-2	10YR4/4	褐色		シルト 密 ハード	
	-1	10YR5/6	黄褐色	基盤礫層 2~5cm 大基盤礫		
溝4	イ	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややハード	
	ロ	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫少量	やや密 ややハード	
'08 溝4	1	10YR2/2	黒褐色	5mm 大基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	2	10YR2/3	黒褐色	上部0.5~1.5cm 大基盤礫粒少量	シルト やや密 ややハード	
	3	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
	4	10YR3/2	黒褐色	5mm 大基盤礫粒中量	シルト やや粗 ソフト	
	5	10YR3/4	暗褐色	5mm 大基盤礫粒少量	粘質土 やや粗 ソフト	
	6	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
'08 溝3	a	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややハード	
	b	10YR3/3	暗褐色	1cm 大玉砂利×1	シルト やや密 ハード	
	c	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややハード	
	d	10YR4/3	にぶい黄褐色		やや密 ややハード	
	e	10YR4/3	にぶい黄褐色	上部基盤礫粒少量	やや粗 ハード	

	f	10YR3/3	暗褐色			シルト 密 ハード
	g	10YR4/3	にぶい黄褐色	3cm 大基盤礫×1		密 ハード
	h	10YR4/3	にぶい黄褐色			密 ハード
	i	10YR3/4	暗褐色			シルト やや粗 ややハード
土壕6	A	10YR4/3	にぶい黄褐色	2~3cm 大礫片少量		シルト やや粗 ややソフト
	B	10YR4/3	にぶい黄褐色			シルト やや粗 ややソフト

表3 空壕C周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表(C~C''')

	a-1	10YR2/3	黒褐色	1cm 未満玉砂利微量	シルト 粗 ソフト	草根少量
	a-2	10YR3/3	暗褐色	玉砂利 基盤礫粒微量	粘質土 やや粗 ややソフト	草根
	b-1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト 粗 ややソフト	
	-1	10YR3/4	暗褐色	1cm 未満玉砂利微量	シルト 粗 ややソフト	草根少量
	-2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫微量	シルト 粗 ソフト	草根少量
	-1	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒少量含む	粘質土 やや密 ややソフト	
空壕C (上)	1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	2	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	3	10YR4/6	褐色	基盤礫粒微量	シルト 密 ハード	
	4	10YR4/4	褐色	5cm 大礫×3 基盤礫粒少量	シルト 粗 ややハード	
	5	10YR4/4	褐色	基盤礫粒~3cm 大基盤礫微量	シルト やや粗 ややハード	
	6	10YR4/4	褐色	10cm・45cm 大礫×各1 基盤礫粒少量	シルト 左側ハード 右側ソフト	
	7	10YR4/6	褐色	基盤礫粒中量	シルト やや粗 ややハード	
(下面)	イ	10YR4/6	褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ソフト	
	ロ	10YR4/4	褐色	2~3cm 大礫少量	シルト 極粗 ソフト	炭粒微量
	ハ	10YR4/4	褐色	5~10cm 大礫×2 1~5cm 大基盤礫少量	シルト 粗 ややソフト	2cm 大炭×1
	ニ	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫 礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	
'08 溝4	1	10YR3/4	暗褐色	1~3cm 大基盤礫微量	シルト やや密 ややソフト	
	2	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト 密 ややハード	
	3	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ハード	
	4	10YR3/4	暗褐色	2~3cm 大基盤礫×2 基盤礫粒少量	シルト やや密 ハード	
	5	10YR3/3	暗褐色	5~8cm 大礫×3	シルト やや粗 ややハード	
	6	10YR3/4	暗褐色	1~2mm 大玉砂利微量	シルト やや粗 ややハード	
	7	10YR3/4	暗褐色	上部1~2mm 大玉砂利微量	シルト 密 ややソフト	
土壕	あ	10YR4/6	褐色	0.5~2cm 大基盤礫粒中量	シルト 密 ハード	炭粒微量
	い	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 密 ハード	
	う	10YR3/4	暗褐色	1~5cm 大基盤礫中量 基盤礫粒少量	シルト やや密 ハード(1部ソフト)	
	え	10YR4/4	褐色	1~15cm 大礫少量 1~2.3cm 大基盤礫少量	シルト 粗 ややソフト	
	おか	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト	
	か	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト	
	き	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量 2~5cm 大粗礫微量	シルト 粗 ソフト	
	く	10YR4/6	褐色	基盤礫粒少量 1~3cm 大粗礫中量	シルト 粗 ソフト	
	け	10YR4/4	褐色	0.5~5cm 大基盤礫少量	シルト 粗 ハード	
	こ	10YR3/4	暗褐色	1~5cm 大基盤礫中量	シルト 粗 ややソフト	
	さ	10YR4/3	にぶい黄褐色	1~5cm 大基盤礫少量 基盤礫	密 ハード	
	し	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	す	10YR4/6	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ややハード	
	せ	10YR3/3	暗褐色	1~5cm 大基盤礫中量	シルト 粗 ソフト	
	そ	10YR3/4	暗褐色	基盤礫層		

'08 溝 3	a	10YR3/3	暗褐色	5cm 大礫×1 砂微量	シルト 粗 ソフト シルト やや密	草根 炭粒微量
	b	10YR3/4	暗褐色			
	c	10YR3/3	暗褐色	10~20cm 大礫×3	シルト 粗	
	d	10YR3/4	暗褐色	10~20cm 大礫×14	シルト やや密 ハード	
空壕 C (新)	1	10YR4/4	褐色	下部基盤礫粒少量	シルト 密 ハード	1cm 大炭粒微量  炭粒微量  炭粒微量  炭粒微量  炭粒微量
	2	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 密 ハード	
	3	10YR3/4	暗褐色	5~10cm 大礫×2 基盤礫粒微量	シルト 密 ハード	
	4	10YR4/4	褐色	2~3cm 大礫×3	シルト 密 ハード	
	5	10YR3/4	暗褐色	2~4cm 大礫×2 基盤礫粒微量	シルト やや密 ハード	
	6	10YR4/4	褐色	基盤礫粒微量	シルト やや粗 ややソフト	
	7	10YR4/4	褐色	基盤礫粒微量	シルト 密 ハード	
	8	10YR4/4	褐色	2~15cm 大礫×8 基盤礫粒少量	シルト やや粗 ハード	
	9	10YR4/4	褐色	基盤礫粒微量	シルト 密 ややソフト	
	10	7 5YR4/4	褐色	基盤礫粒 砂	粘質土 やや密 ややソフト	
	11	7 5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒混入	粘質土 やや粗 ややソフト	
	12	7 5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 (11より細かい粒)混入	シルト やや粗 ややソフト	

表 4 空壕 C 周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表( D ~ D'' )

	a-1	10YR2/3	黒褐色	2~3mm 大基盤礫粒少量	シルト 粗 ややソフト	草根多量
	b-1	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ややハード	
	b-2	10YR3/3	暗褐色	5mm 大基盤礫粒少量	シルト 粗 ハード	
'08 溝 4	1	10YR3/2	黒褐色	5~20cm 大基盤礫中量	シルト 粗 ソフト	
	2	10YR3/3	暗褐色	5~10cm 大基盤礫多量	シルト 粗 ややソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色	5mm 大基盤礫粒中量	シルト 密 ハード	
	4	10YR3/4	暗褐色	下部砂極微量	粘質土 やや密 ややソフト	
'08 溝 3	a	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややハード	2~3cm 大炭×1
	b	10YR3/4	暗褐色	下部5mm 大基盤礫粒少量	シルト 粗 ややハード	
	c	10YR3/3	暗褐色	下部5mm 大基盤礫粒微量	シルト やや粗 ハード	
空壕 C (新)	1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 密 ハード	炭粒微量
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒少量	シルト 密 ハード	
土橋	あ	10YR4/6	褐色	5mm 大基盤礫粒中量	シルト やや粗 ハード	
	い	10YR4/4	褐色	5~10cm 大基盤礫中量	シルト やや粗 ハード	

表 5 空壕 C 周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表( E ~ E' )

'08 溝 4	a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ソフト	草根多量
	1	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
	2	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ハード	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	下部玉砂利少量	シルト やや粗 ハード	
'08 溝 3	4	10YR3/4	暗褐色	基盤礫 玉砂利少量	シルト 粗 ややハード	草根中量
	a	10YR3/4	暗褐色	5cm 大礫×1	シルト やや粗 ややハード	
	b	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややハード	
	c	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ハード	
	d	10YR3/4	暗褐色	1cm 大基盤礫少量	シルト 粗 ソフト	
	e	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
	f	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
g	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト		

表 6 空壕 C 周辺調査区 東西セクション北壁土層観察表( F ~ F' )

	b-1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ややソフト	木の根少量
	c-1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ややソフト	
	c-2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ハード	
	c-3	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 密 ハード	
	c-4	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ハード	
	c-5	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ソフト ややソフト	
	c-6	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ややソフト	
	-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒少量	シルト 密 ハード	木の根少量
	-2	10YR4/3	にぶい黄褐色	上部基盤礫粒中量	シルト 密 ハード	
	-3	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒多量	シルト 密 ハード	
	-4	10YR4/4	褐色	15cm 大礫×2 基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややハード	
	-5	10YR3/4	暗褐色	4~5cm 大礫×2 基盤礫粒少量	シルト 密 ハード	
	-6	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒中量	シルト 密 ハード	
	-7	10YR3/3	暗褐色	全面基盤礫粒	シルト 粗 ハード	
a-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利微量	シルト 密 ハード	5mm 大炭粒微量	
空壕 C (新)	1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒中量		シルト 密
	2	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 10cm 大礫×1		シルト 粗 ハード
	3	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 2~7.8cm 大礫少量		シルト 粗 ハード
	4	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 砂極微量		シルト 粗 ハード
	5	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒		シルト 粗 ハード
	6	10YR4/6	褐色	全面基盤礫粒 2~3cm 大礫少量		シルト 粗 ハード
	7	10YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒 1~2cm 大礫少量		シルト 粗 ハード
	8	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 12~13cm 大礫×1		シルト 粗 ハード
	9	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒		シルト 粗 ハード
	10	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量		シルト 粗 ややハード
	11	10YR4/4	褐色	基盤礫粒細多量		シルト やや密 ハード
	12	10YR4/4	褐色	基盤礫粒細中量		シルト やや粗 ややソフト
	13	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 5~10cm 大礫少量		シルト 粗 ハード
	14	10YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒		シルト やや粗 ハード
	15	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 2~7.8cm 大礫少量		粘質土 粗 ハード
	16	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 2cm 大礫少量		シルト やや粗 ハード
	17	10YR4/4	褐色	基盤礫粒中量		粘質土 粗 粘質性強い ややハード
	18	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 1~5cm 大礫多量		粘質土 粗 ややソフト
	19	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量		粘質土 粗 ややハード
	20	10YR4/4	褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ハード	

表 7 空壕 C 周辺調査区 東西セクション北壁土層観察表( G ~ G' )

	a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	草根
	b-1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗	
	-1	10YR4/4	褐色	10~20cm 大礫×4	ややソフト シルト 粗 ややソフト	炭粒微量
	-2	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 密 ややソフト	
空壕 C (新)	1	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	シルト 粗 ややソフト	炭粒微量
	2	10YR4/4	褐色	上部玉砂利少量	シルト やや密 ややソフト	

	3	10YR4/4	褐色	基盤礫粒多量	シルト 粗 ややソフト	
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	20cm 大礫×1 玉砂利微量	シルト やや密 ハード	
	5	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒多量	粘質土 やや密 ハード	
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ハード	
	7	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 1~5cm 大礫中量	シルト 粗 ややソフト	
	8	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 2~7・8cm 大礫少量	粘質土 粗 ハード	
	9	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 2~5cm 大礫少量	シルト 極粗 ソフト	
	10	10YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒 2~5cm 大礫×5	粘質土 粗 ハード	
	11	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 5cm 大礫少量	粘質土 粗 ややソフト	
	12	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	シルト 粗 ややソフト	
	13	10YR4/4	褐色	全面粗基盤礫粒 2~3cm 大礫少量	シルト 極粗 ソフト	

表8 空壕C周辺調査区 東西セクション北壁土層観察表(H~H''')

	a-1	10YR4/4-3/4	褐・暗褐色	玉砂利少量	シルト 密 ソフト	草根
	b-1	10YR3/4	暗褐色	5~15cm 大礫少量	シルト 極粗 ソフト	
	b-2	10YR3/4	暗褐色	1cm 未満大玉砂利少量	シルト やや粗 ソフト	
	-1	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト 粗 ソフト	
	-2	10YR4/6	褐色	5cm 大礫×1	シルト やや粗 ややソフト	
	-3	10YR4/6	褐色	Ko-d中量	シルト やや粗 ソフト	
	-4	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ソフト	
	-5	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト	
	-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	5cm 大玉石×1	粗 ソフト	
空壕C(新)	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫微量	粗 ややハード	
	2	10YR4/4	褐色	5cm 大基盤礫×2	シルト やや粗 ややハード	炭粒微量
	3	10YR4/4	褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ソフト	
	4	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ハード	5mm 大炭粒×2
	5	10YR4/4	褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ハード	炭粒微量
	6	10YR4/4	褐色	1~3cm 大基盤礫少量	シルト やや密 ハード	
	7	10YR4/4	褐色	1~5cm 大基盤礫少量	シルト 密 ハード	炭粒微量
	8	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	シルト やや粗 ハード	炭粒微量
	9	10YR4/4	褐色		シルト 密 ややハード	
	10	10YR4/4	褐色	3~5cm 大基盤礫少量	シルト やや粗 ややハード	炭粒微量
	11	10YR4/4	褐色	基盤礫少量	シルト やや粗 ハード	炭粒微量
	12	10YR3/4	暗褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ややソフト	
	13	10YR4/4	褐色	基盤礫層	シルト 極粗 ソフト	
	14	10YR4/6	褐色	1~5cm 大基盤礫中量	シルト やや粗 ややソフト	
土構	あ	10YR4/4	褐色	2cm 大基盤礫少量	シルト 密 ハード	
	い	10YR4/6	褐色	1~5cm 大基盤礫中量	シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	う	10YR4/4	褐色	基盤礫粒中量	シルト やや粗 ややソフト	

表9 空壕C周辺調査区 東西セクション南壁土層観察表(I~I'')

空壕C(上面)	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	8cm 大基盤礫×4 基盤礫粒少量	粘質土 やや粗 ややソフト	
	2	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	3	10YR4/4	褐色	玉砂利・基盤礫粒少量	粘質土 やや粗 ややソフト	
	4	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ハード	

	5	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ハード	
(下面)	イ	10YR4/4	褐色	5~7cm 大礫×1	シルト やや粗 ややソフト	
	ロ	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒中量	粘質土 粗 ややソフト	
	ハ	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量	粘質土 粗 ソフト	
	ニ	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	粘質土 粗 ソフト	
	ホ	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	ヘ	7 5YR4/4	褐色	2~3cm 大基盤礫少量	シルト やや粗 ソフト	
	ト	7 5YR4/4	褐色	1cm 大基盤礫粒少量	粘質土 やや粗 ややソフト	
	チ	10YR4/4	褐色	1~3cm 大基盤礫少量	粘質土 やや粗 ややソフト	
	リ	7 5YR3/4	暗褐色		粘質土 粗 極ソフト	炭粒少量
	ヌ	7 5YR3/4	暗褐色	砂	粘質土 やや密 ややソフト	
	ル	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量 玉砂利微量	粘質土 粗 ややソフト	
	ヲ	7 5YR3/4	暗褐色	基盤礫細粒中量	粘質土 粗 極ソフト	
	ワ	10YR4/4	褐色	1~15cm 大基盤礫多量	粘質土 極粗 ソフト	

表10 空壕C周辺調査区 東西セクション南壁土層観察表(J~J'')

	-1	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ややハード	草根中量
	-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	
	-2	10YR1.7/1	黒色		シルト 粗 極ソフト	左中心-下部7.5YR4/6褐色焼土
	-3	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややハード	
	-4	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	5mm 大炭粒微量
	-5	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	上部7.5YR4/6褐色焼土
空壕C(上面)	1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ややハード	全面灰混入?
	2	10YR2/2	黒褐色	3cm 大玉砂利×3	シルト やや密 ややソフト	
	3	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	骨角器×1
	4	10YR2/3	黒褐色	Ko-d微量	シルト 密 ややソフト	土器×1
	5	7 5YR7/6	橙色		やや粗 ややソフト	焼土層 0.5~1cm 大 2 5YR5/8暗赤褐色 焼土ブロック-炭少量 炭微量
	6	10YR3/3	暗褐色	Ko-d微量	シルト 密	炭微量
	7	10YR3/3	暗褐色	10YR4/4褐色土	シルト 密 ややソフト	焼土微量
	8	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややハード	上部灰 炭少量
	9	10YR3/3	暗褐色	上部10YR4/4褐色土	シルト やや粗 ややソフト	炭微量
	10	10YR3/3	暗褐色	中心上部10cm 幅口-ム堆積	シルト やや密 ややハード	炭微量
	11	10YR4/3	にぶい黄褐色	下部10YR3/4暗褐色土 玉砂利微量	シルト やや密 ややハード	炭・焼土ブロック 少量
	12	10YR4/3	にぶい黄褐色	上部10YR5/6黄褐色土	シルト やや密 ややソフト	魚貝層
	13	10YR4/3	にぶい黄褐色	2cm 大基盤礫微量	シルト 密 ハード	
	14	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	
	15	10YR4/3	にぶい黄褐色	5mm 大玉砂利少量	シルト 粗 ややハード	
	16	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	
	17	10YR3/3	暗褐色	2~3cm 大10YR4/6褐色ロ-ム ブロック×3	シルト 粗 ソフト	魚貝層
	18	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	魚貝層
	19	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	魚貝層 焼土混入
	20	10YR3/2	黒褐色	1cm 大玉砂利微量	シルト やや密 ハード	骨微量
	21	10YR3/2	黒褐色	5cm 大礫×1	シルト 粗 ややソフト	
	22	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	1cm 大炭微量
	23	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	炭粒微量

	24	10YR4/4	褐色	下部10YR2/3黒褐色土	シルト やや粗 ややソフト	
	25	10YR3/3	暗褐色		シルト 密 ハード	魚貝層
	26	10YR4/3	にぶい黄褐色	ハードローム		灰 炭
	27	10YR1.7/1	黒色		シルト やや粗 ややソフト	
	28	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	29	10YR2/1	黒色		シルト 密 ソフト	
	30	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	
	31	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	32	10YR3/4	暗褐色		シルト 密 ややソフト	0.5-1cm 大粒土粒少量
	33	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややソフト	骨粉微量
	34	10YR2/2	黒褐色		シルト 密 ややソフト	
	35	10YR3/4	暗褐色		シルト 密 ややソフト	
	36	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	
	37	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	木の根多量
	38	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややハード	骨粉微量
	39	7.5YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	
	40	10YR3/3	暗褐色		シルト 密 ややハード	
	41	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ハード	貝×1
	42	10YR3/2	黒褐色		シルト 密 ややソフト	
	43	10YR3/4	暗褐色		シルト 密 ハード	炭・骨微量
(下面)	イ	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	ロ	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	骨微量
	ハ	10YR3/4	暗褐色	2~10cm 大基盤礫少量	シルト やや粗 ややソフト	
	ニ	10YR4/6	褐色	基盤礫中量	シルト やや密 極ハード	
	ホ	10YR4/4	褐色	基盤礫粒中量	シルト やや粗 ハード	炭ブロック
	ヘ	10YR4/6	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト	
	ト	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒微量	シルト やや粗 ややソフト	
	チ	10YR4/6	褐色		シルト やや粗 ハード	5mm 大炭×1
	リ	10YR5/6	黄褐色	基盤礫粒中量	シルト やや密 ハード	
	ヌ	10YR4/6	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ハード	
	ル	10YR4/4	褐色	基盤礫中量	シルト やや粗 ややソフト	
	ヲ	10YR3/3	暗褐色	基盤礫少量	シルト 密 ハード	
	ワ	10YR4/4	褐色	10cm 大礫×1 5mm 大基盤礫粒・5mm 大玉砂利少量	シルト やや粗 ハード	
	カ	10YR4/6	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややハード	
	コ	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	炭微量
	ク	10YR4/4	褐色	5cm 大礫×1	シルト やや密 ややハード	炭微量
	ケ	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫中量	粗 ソフト	
	コ	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト	
	ク	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 粗 ソフト	下部魚貝層
	ケ	7.5YR4/4	褐色	右先端下部15cm 幅10 YR1.7/1黒色土	シルト やや密 ややハード	
	コ	7.5YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややハード	
	カ	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫少量	シルト 粗 ソフト	
	キ	7.5YR4/4	褐色	基盤礫少量	シルト 粗 ソフト	
	ク	7.5YR4/6	褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ソフト	
	ケ	7.5YR4/4	褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ソフト	
	コ	7.5YR4/4	褐色	礫層 5mm 大玉砂利少量	シルト	
	カ	7.5YR4/6	褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ややソフト	
	ク	10YR4/4	褐色	礫層	シルト	

溝堀上土	ア	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ややハード	草根
'08 土壌16 (盛土)	あ	7.5YR3/2	黒褐色	玉砂利微量	シルト 粗 ハード	
	い	10YR2/3	黒褐色	15~20cm 大礫×4	シルト 粗 ややハード	
	う	10YR2/3	黒褐色	Ko-d微量	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	え	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根少量 炭粒微量
(棺内)	A	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ソフト	木根
	B	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利微量	シルト やや粗 ハード	炭微量
	C	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややハード	
	D	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ハード	
	E	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややハード	
	F	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ソフト	5mm 大炭微量
(棺外)	a	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややハード	
	b	10YR3/3	暗褐色	1cm 大ロームブロック×2	シルト やや粗 ハード	
	c	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	下部炭微量
	d	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややソフト	炭・骨粉微量
	e	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ハード	釘×3
	f	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややハード	

表11 空壕C周辺調査区 東西セクション北壁土層観察表(K~K''''')

	-1	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒 基盤礫細粒少量	シルト やや粗 ややソフト	草根
	-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
	-2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	炭粒少量
	-3	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	-4	10YR3/4	暗褐色	砂 礫	シルト やや密 ややソフト	
	-5	10YR2/3	黒褐色	砂 礫 基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	
	-6	10YR3/3	暗褐色	砂 礫 基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	
	-7	10YR3/4	暗褐色	砂 礫 基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	
	-8	10YR3/2	黒褐色	15cm 大礫×1	シルト やや密 ハード	草根多量
	-9	10YR2/3	黒褐色	5cm 大玉砂利×1	シルト やや密 ややソフト	
	-1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト 粗 ソフト	
	-2	10YR3/2	黒褐色	5mm 大基盤礫粒中量	シルト 粗 ややハード	
空壕C (新) (上面)	a	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	b	10YR2/3	暗褐色	基盤礫粒 砂 礫少量	シルト やや密 ややソフト	
	c	10YR3/3	暗褐色	基盤礫 砂 礫	シルト やや密 ややソフト	
	d	10YR3/3	暗褐色	砂 礫	シルト やや密 ややソフト	
	e	10YR3/3	褐色	全面基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
(下面)	1	7.5YR4/4	暗褐色	基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	2	10YR3/4	暗褐色	全面基盤礫	シルト やや密 ややソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	4	10YR3/4	褐色	全面基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	
	5	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや粗 ややハード	
	6	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土 やや粗 ややハード	
	7	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや粗 ややソフト	
	8	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫	粘質土 やや粗 ややソフト	

	9	7 5YR4/6	褐色	全面基盤礫	粘質土 やや粗 ややソフト	
	10	7 5YR4/3	褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	11	7 5YR4/4	褐色	全面基盤礫	粘質土 やや粗 ややソフト	
	12	7 5YR4/4	褐色	全面基盤礫	粘質土 やや密 ややソフト	
	13	7 5YR4/4	褐色	全面5~10cm 大基盤礫混入	粘質土 やや密 ややソフト	
	14	10YR4/3	にぶい黄 褐色	全面基盤礫	粘質土 やや密 ややソフト	
	15	10YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
土壘?	A	7 5YR3/4	暗褐色	基盤礫(大)混入	シルト やや粗 ややソフト	
'08 溝6 (上面)	a	10YR2/2	黒褐色	砂 礫 基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	b	10YR2/3	黒褐色	全面砂・礫・基盤礫混入 5cm 大基盤礫	シルト やや密 ややソフト	
	c	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	
(下面)	1	7 5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 砂 礫	砂質土 やや密 ややソフト	
	2	7 5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒 砂 礫	砂質土 やや粗 ややソフト	
	3	7 5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 砂 礫	砂質土 やや粗 ややソフト	
	4	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 砂 礫	砂質土 やや密 ややソフト	
	5	7 5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫 礫粒	砂質土 やや粗 ややソフト	
	6	7 5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫	砂質土 粗 ややソフト	
	7	7 5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒	砂質土 やや粗 ややソフト	
	8	7 5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫	砂質土 やや粗 ややソフト	
	9	7 5YR4/4	褐色	全面基盤礫 礫粒	砂質土 やや密 ややソフト	
	10	7 5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	砂質土 やや密 ややソフト	
溝4	あ	10YR3/3	暗褐色	基盤礫細粒微量	シルト 粗 ややソフト	
塔婆跡	A	10YR7/2	にぶい黄 橙色	火山灰(Ko-d)層		
	B	10YR3/2	黒褐色	Ko-d少量	シルト やや粗 ややソフト	木の根多量
土壌5	ア	10YR2/2	黒褐色	Ko-d少量 基盤礫粒微量	シルト やや密 ややハード	5mm 大焼土粒 x2-3
	イ	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ややハード	
	ウ	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ハード	焼土粒 炭粒微量
	エ	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややハード	
	オ	10YR2/2	黒褐色	2~3cm 大基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
土壌8 (盛土)	1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト 粗 ややハード	木の根少量
	2	10YR2/3	黒褐色	基盤礫細粒微量	シルト やや粗 ややハード	炭粒
	3	10YR2/3	黒褐色	Ko-d微量 基盤礫細粒少量	シルト 密 ハード	
	4	10YR3/3	暗褐色	1cm 大10YR6/4にぶい黄橙色 火山灰ブロック x1	シルト やや粗 ソフト	
	5	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや粗 ややハード	
	6	10YR4/2	灰黄褐色	2~3cm 大基盤礫中量 全面Ko-d混入	シルト 密 ハード	
	7	10YR3/2	黒褐色	1~3cm 大Ko-dブロックx4	シルト やや密 ハード	
	8	10YR3/2	黒褐色	2~3cm 大基盤礫少量 1~1.5cm 大Ko-dブロックx3	シルト やや粗 ややソフト	
	9	10YR3/2	黒褐色	基盤礫細粒微量	シルト やや粗 ややハード	
	10	10YR3/2	黒褐色	基盤礫細粒微量	シルト やや粗 ソフト	
(棺外)	a	10YR3/2	黒褐色	Ko-d微量	シルト やや粗 ややソフト	木の根多量
	b	10YR2/3	黒褐色	2~5cm 大基盤礫粒多量	シルト 粗 ソフト	
	c	7 5YR3/2	黒褐色	2~3cm 大基盤礫少量	シルト やや粗 ややソフト	
	d	10YR4/3	にぶい黄 褐色	3~5cm 大基盤礫中量	粗 ややソフト	
	e	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒少量	粘質土 粗 ソフト	

表12 空壕C周辺調査区 '08 溝6 土層観察表(L~L')

'08 溝6	1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややハード	木の根少量 すり鉢片 x1
	2	10YR4/6	褐色	1~15cm 大基盤礫中量	シルト 粗 ハード	
	3	10YR4/3	にぶい黄 褐色	1~5cm 大基盤礫少量	シルト 粗 ハード	
	4	10YR5/4	にぶい黄 褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ややソフト	
	5	10YR3/4	暗褐色	1cm 大基盤礫粒少量	シルト 粗 ややソフト	
	6	10YR4/4	褐色	1cm 大基盤礫粒中量	シルト 粗 ハード	
	7	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	粘質土 粗 ややソフト	
	8	10YR4/4	褐色	基盤礫粒・細粒少量	粘質土 粗 ややソフト	

表13 空壕C周辺調査区 '08 溝6 土層観察表(M~M'')

'08 溝6	1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト	
	2	10YR4/4	褐色	1~3cm 大基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト	
	3	10YR4/3	にぶい黄 褐色	1~1.5cm 大基盤礫粒少量	粘質土 粗 ソフト	
	4	10YR4/3	にぶい黄 褐色	基盤礫粒微量 基盤礫細粒少量	粘質土 やや粗 ややソフト	

表14 空壕C周辺調査区 東西セクション南壁土層観察表(N~N'')

	a-1	10YR2/2	黒褐色		シルト 密 ややハード	
	-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	とうすい土器x1 骨粉微量
	-2	10YR1.7/1	黒色		シルト 粗 ソフト	魚骨x1 骨粉微量
	-3	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	-4	10YR3/3	暗褐色	10cm 大礫多量	シルト 粗 ソフト	
	-5	10YR2/3	黒褐色	2~3cm 大礫少量	シルト やや粗 ややソフト	
	-6	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	-7	10YR2/3	黒褐色	5cm 大礫 x2	シルト 密 ややソフト	
	-8	10YR3/2	黒褐色	3~10cm 大礫 x9	シルト 粗 ソフト	
	-9	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
	-10	10YR2/3	黒褐色	2~5cm 大基盤礫少量	シルト やや粗 ソフト	
	a	10YR4/3	にぶい黄 褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ハード	
	b	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	c	10YR4/4	褐色	基盤礫粒中量	粘質土 粗 ややハード	
	d	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	粘質土 粗 ややソフト	
	e	10YR4/3	にぶい黄 褐色		粘質土 粗 ソフト	
	1	10YR4/6	褐色	基盤礫粒多量	シルト 極粗 極ソフト	
	2	10YR4/3	にぶい黄 褐色	1cm 大基盤礫多量	シルト 粗 ややハード	
	3	10YR4/4	褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ソフト	
	4	5YR2/4	極暗赤褐 色		シルト 粗 ややソフト	
	5	2.5Y4/3	オリーブ 褐色	基盤礫粒多量	シルト 極粗 極ソフト	
	6	10YR4/4	褐色	基盤礫粒多量	シルト 粗 極ソフト	
	7	10YR4/4	褐色	基盤礫粒多量	シルト 極粗 極ソフト	
	8	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト 粗 ソフト	
	9	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	10	10YR4/6	褐色		シルト 粗 ソフト	上部炭粒微量
	11	10YR5/4	にぶい黄 褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 極ソフト	

表15 土壌1土層観察表

土壌2 (盛土)	あ	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ソフト	木の根少量
-------------	---	---------	----	--	-----------	-------

( 棺内 )	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫少量	シルト 粗 ソフト
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト 粗 極ソフト
	3	10YR3/3	暗褐色	基盤礫多量	シルト やや粗 ややソフト
	4	10YR3/1	黒褐色	基盤礫少量	シルト 粗 極ソフト
	5	10YR5/2	灰黄褐色		シルト 粗 ややソフト
( 棺外 )	a	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト やや密 ややソフト
	b	10YR4/2	灰黄褐色		シルト 粗 極ソフト

表16 土壌2土層観察表

土壌2 (盛土)	あ	10YR3/4	暗褐色		シルト 密 ややハード	細い木の根少量
( 棺内 )	1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややハード	木の根
	2	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややハード	
	3	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややハード	木の根中量
( 棺外 )	a	10YR3/4	暗褐色		シルト 密 ややソフト	木の根少量
	b	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ソフト	
	c	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ソフト	木の根
	d	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	

表17 土壌3・6・10土層観察表

土壌3	1	10YR4/4	褐色		シルト ハード	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややハード	
	3	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
土壌6	あ	10YR4/4	褐色	礫粒微量	シルト ややハード	
	い	10YR3/4	暗褐色	Ko-d層	シルト やや密 ハード	
	う		暗褐色	Ko-d微量		
土壌10	a	10YR3/1	黒褐色		シルト ややソフト	炭粒少量
	b	10YR2/1	黒色		シルト ややソフト	炭粒少量
	c	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ハード	

表18 土壌4土層観察表

土壌4	1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫中量	シルト やや密 ハード	
	2	10YR4/4	褐色	基盤礫少量	シルト やや密 ハード	
	3	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	4	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	5	10YR3/2	黒褐色	1cm 大基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	6	10YR3/2	黒褐色	5mm 大玉砂利 × 1	シルト やや密 ややハード	

表19 土壌5・8土層観察表

溝4	-1	10YR2/3	黒褐色	基盤礫細粒少量	シルト 粗 ややハード	草根少量
	あ	10YR3/3	暗褐色	基盤礫細粒微量	シルト 粗 ややソフト	
塔婆跡	A	10YR7/2	にぶい黄褐色	火山灰層		
	B	10YR3/2	黒褐色	Ko-d少量	シルト やや粗 ややソフト	木の根多量
土壌5	ア	10YR2/2	黒褐色	Ko-d少量 基盤礫粒微量	シルト やや密 ややハード	5mm 大焼土粒 × 2-3
	イ	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ややハード	
	ウ	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ハード	焼土粒 炭粒微量
	エ	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややハード	

才	10YR2/2	黒褐色	2-5cm 大基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト		
土壌8 (盛土)	1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト 粗 ややハード	木の根少量
	2	10YR2/3	黒褐色	基盤礫細粒微量	シルト やや粗 ややハード	炭粒
	3	10YR2/3	黒褐色	Ko-d微量 基盤礫細粒少量	シルト 密 ハード	
	4	10YR3/3	暗褐色	1cm 大10YR6/4にぶい黄褐色 火山灰ブロック × 1	シルト やや粗 ソフト	
	5	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや粗 ややハード	
	6	10YR4/2	灰黄褐色	2-3cm 大基盤礫中量 全面Ko-d混入	シルト 密 ハード	
	7	10YR3/2	黒褐色	1-3cm 大Ko-dブロック × 4	シルト やや密 ハード	
	8	10YR3/2	黒褐色	2-3cm 大基盤礫少量 1-1.5cm 大Ko-dブロック × 3	シルト やや粗 ややソフト	
	9	10YR3/2	黒褐色	基盤礫細粒微量	シルト やや粗 ややハード	
	10	10YR3/2	黒褐色	基盤礫細粒微量	シルト やや粗 ソフト	
( 棺外 )	a	10YR3/2	黒褐色	Ko-d微量	シルト やや粗 ややソフト	木の根多量
	b	10YR2/3	黒褐色	2-5cm 大基盤礫粒多量	シルト 粗 ソフト	
	c	7 5YR3/2	黒褐色	2-3cm 大基盤礫少量	シルト やや粗 ややソフト	
	d	10YR4/3	にぶい黄褐色	3-5cm 大基盤礫中量	シルト 粗 ソフト	
	e	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒少量	粘質土 粗 ソフト	

表20 土壌7土層観察表

土壌7	1	10YR3/2	黒褐色	2-3mm 大玉砂利少量	シルト やや粗 ソフト	
	2	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト	
	3	10YR2/3	黒褐色	1cm 大基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	4	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	
	5	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒中量	シルト やや粗 ややハード	
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ややソフト	

表21 土壌10土層観察表

土壌10	1	10YR2/1	黒色		シルト 粗 ソフト	
	2	10YR3/2	黒褐色	15cm 大基盤礫 × 1	シルト 粗 ソフト	骨細粒微量
	3	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	
	4	10YR1.7/1	黒色		シルト 粗 ソフト	
	5	10YR3/1	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	
	6	10YR3/2	黒褐色		1cm 大基盤礫少量	
	7	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫層 5cm 大礫中量	シルト やや密 ソフト	炭微量
	8	10YR4/4	褐色		シルト	
	9	10YR3/2	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	
	10	10YR4/3	にぶい黄褐色	上部20cm 大礫 × 1 2-3cm 大礫中量	シルト 極粗 ソフト	
	11	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	下部炭粒微量
	12	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	下部炭粒・骨細粒微量
	13	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	

表22 '08 土壌16土層観察表

溝4	-1	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ややハード	草根中量
	ア	10YR2/3 10YR3/4	黒褐色 暗褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ソフト	草根
'08 土壌16 (盛土)	あ	7 5YR3/2	黒褐色	玉砂利微量	シルト 粗 ハード	
	い	10YR2/3	黒褐色	15-20cm 大礫 × 4	シルト 粗 ややハード	
	う	10YR2/3	黒褐色		Ko-d微量	シルト やや密 ややソフト
	え	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根少量 炭粒微量
( 棺内 )	A	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ソフト	木根

	B	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利微量	シルト やや粗ハード	炭微量
	C	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗ややハード	
	D	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗ハード	
	E	10YR2/3	黒褐色		シルト 密ややハード	
	F	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密ソフト	5mm 大炭微量
〈棺外〉	a	10YR2/3	黒褐色	1cm 大ロームブロック×2	シルト やや粗ややハード	下部炭微量 炭・骨粉微量 釘×3
	b	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗ハード	
	c	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗ややソフト	
	d	10YR2/3	黒褐色		シルト 密ややソフト	
	e	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密ハード	
	f	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密ややハード	
空壕C	1	10YR2/3	黒褐色	全面灰混入	シルト 粗ややハード	骨角器×1
	3	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密ややソフト	

	4	10YR2/3	黒褐色	Ko-d微量	シルト 密ややソフト	土器×1
	5	7.5YR7/6	橙色		やや粗ややソフト	焼土層 0.5-1cm 焼土ブロック・炭少量
	7	10YR3/3	暗褐色	10YR4/4褐色土	シルト やや密ややソフト	焼土微量
	10	10YR3/3	暗褐色	中心上部10cm 幅でローム堆積	シルト やや密ややハード	炭微量
	14	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗ややソフト	魚貝層
	15	10YR4/3	にぶい黄褐色	5mm 大玉砂利少量	シルト 粗ややハード	
	16	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗ややソフト	木の根多量
	25	10YR3/3	暗褐色		シルト 密ハード	
	34	10YR2/2	黒褐色		シルト 密ややソフト	
	36	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗ソフト	
	37	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗ややソフト	

## 2. 荒神堂跡及び荒神堂跡周辺の調査 (14図、P L 3・1～4、20・1～5・8)

昨年度の荒神堂の調査では、荒礎石列1、天保11年(1840)の玉垣(08柵1)と石積跡(08土壌8)、天保以前の江戸時代に相当する柵(08柵2)を検出している。また、荒神堂跡周辺の北東側では、中世～幕末に盛土をして平坦地を造成していることが確認されている。

今年度は、方形に詰められた約170cm四方の石積み跡の除去、その他周辺を調査し、勝山館の遺構の検出に努めた。

### 土壌9 (17図、P L 3・5・6、20・6・7)

〔位置〕方形に詰められた石積下の8H2グリッドに位置する。

遺構は、江戸時代前期の土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕平面形は、直径122cmの円形を呈し、深さ36cmを測る。棺の規模は、長軸70cm、短軸49cmを測る。長軸方向は、北西から南東にとる。

〔堆積土〕人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕08土壌8の底面より検出されたため、それより古い。

〔出土遺物〕副葬品は、銅製品銭6点(元豊通寶1

点・寛永通寶1期4点・判読不明1点)、フロンテーションから石製品数珠玉1点、木製品数珠玉2点が出土している。

その他、鉄製品和釘19点、自然遺物人骨(不明)2点、木製品棺材(底板)1点・繊維1点が出土している。

### 石積み (18図、P L 4・1～3・5、21・3～5)

〔位置〕08土壌8上位の8H2グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は、1辺約170cm、高さ約60cmの方形を呈する。石は3～4段に積み、1辺が50cmを超える大型の石を周囲や中央に配置し、その間に小型の石を詰めている。

〔堆積土〕上面の石を除去した時点で厚さ15cm程の堆積土が確認されている。

〔新旧関係〕土壌8・土壌9より新しい。

〔出土遺物〕なし

### 礎石列2 (18図、P L 4・1～3・5、21・3～5)

〔位置〕石積から8m北東方向の荒神堂跡に至る階段下の7H11・16グリッドに位置する。

礎石列1や土壌9が確認された平坦面より、2m低い平坦面で確認された。

〔形態・規模〕平面形は、1辺が約270cmの3間×

3間の方形のプランを呈する。北西部分では、一部礎石がみられないが、階段を敷設する際に地面を削平したために礎石がなくなっていることが考えられる。

〔堆積土〕礎石は、1640年に降下したKo-d火山灰下位で検出されるため、勝山館に併行する遺構と考えられる。

礎石上面には、上位の平坦面からの落下したと思われる集石が多数みられた。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

#### 溝1 (14図、P L 22・6・7)

〔位置〕8 I 2・3グリッドに位置し、昨年度検出した08溝8に接続すると考えられる。

〔形態・規模〕南西～北東方向へ走り、幅170～245cm、深さ55cmを測る。

〔堆積土〕人為堆積と思われる。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕瀬戸・美濃灰釉丸皿(大2)1点、鍛冶 関連遺物鉄滓3点、縄文土器1点が出土している。

#### 溝2 (14図、P L 23・8、24・3)

〔位置〕7 I 11・12グリッドに位置し、昨年度検出した08溝18に接続すると考えられる。

〔形態・規模〕幅95cm、深さ46cmを測る。

〔堆積土〕礫等が多く混入する。

〔新旧関係〕溝3より新しい。

〔出土遺物〕鉄製品鏃1点が出土している。

#### 溝3 (14図、P L 22・1・2、23・8、24・4・5)

〔位置〕礎石列2北側の7 I 6～20グリッドに位置する。遺構の性格は、勝山館の道路跡と想定された。

〔形態・規模〕幅42～81cm、深さ13～25cmを測り、南北方向へ走る。途中検出できなかったが、竪穴遺構2の北側部分で西側へ屈曲し、7 I 11グリッド付近に延びることが考えられる。

また、現代の道路を横断してSPD～SPDでは、溝3の延長と思われる溝が確認されている。

さらに、SPN～SPN'のセクションラインより南側では、繋がりを確認することができなかったが、08溝11に接続することが考えられる。

〔堆積土〕暗褐色土で自然堆積を呈する。

〔新旧関係〕溝2より古い。

〔出土遺物〕青磁盤1点、白磁皿D群1点・E群1点、染付碗C群1点・皿B1群1点・C群2点、越前播鉢、群a1点・不明1点、鉄製品鍋2点・釘1点、剥片石器1点が出土している。

#### 竪穴遺構1 (14図、P L 24・7)

〔位置〕通路跡と推測される箇所の西側の6 J 20、6 I 16グリッドに位置する。平面形は調査区外へ伸びるため不明であるが、方形に近いプランが確認され、竪穴状の遺構であることが想定されたことから竪穴遺構とした。

〔形態・規模〕幅240cm、深さ60cm、底面端に幅40cm、深さ20cmの溝が走り、小Pit3基が伴う。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

#### 竪穴遺構2 (14図、P L 23・4)

〔位置〕7 I 3・4グリッドに位置する。一辺が立ち上がりのない遺構である。斜面を切り落として平坦地を造っている。性格が不明であったため、竪穴遺構と付した。

〔形態・規模〕深さ50cm、底面端に幅20cm、深さ10cmの溝が走り、小Pit4基が伴う。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

#### 焼土範囲1 (14図、P L 24・2)

〔位置〕6 I 16グリッドに位置する。調査は、平面形を確認したのみであった。道路面と思われる硬化した面で確認された。

〔形態・規模〕長軸47cm、短軸27.5cmの不整円形を呈す。

〔堆積土〕赤褐色土を呈する。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

#### 焼土範囲2 (14図、P L 24・2)

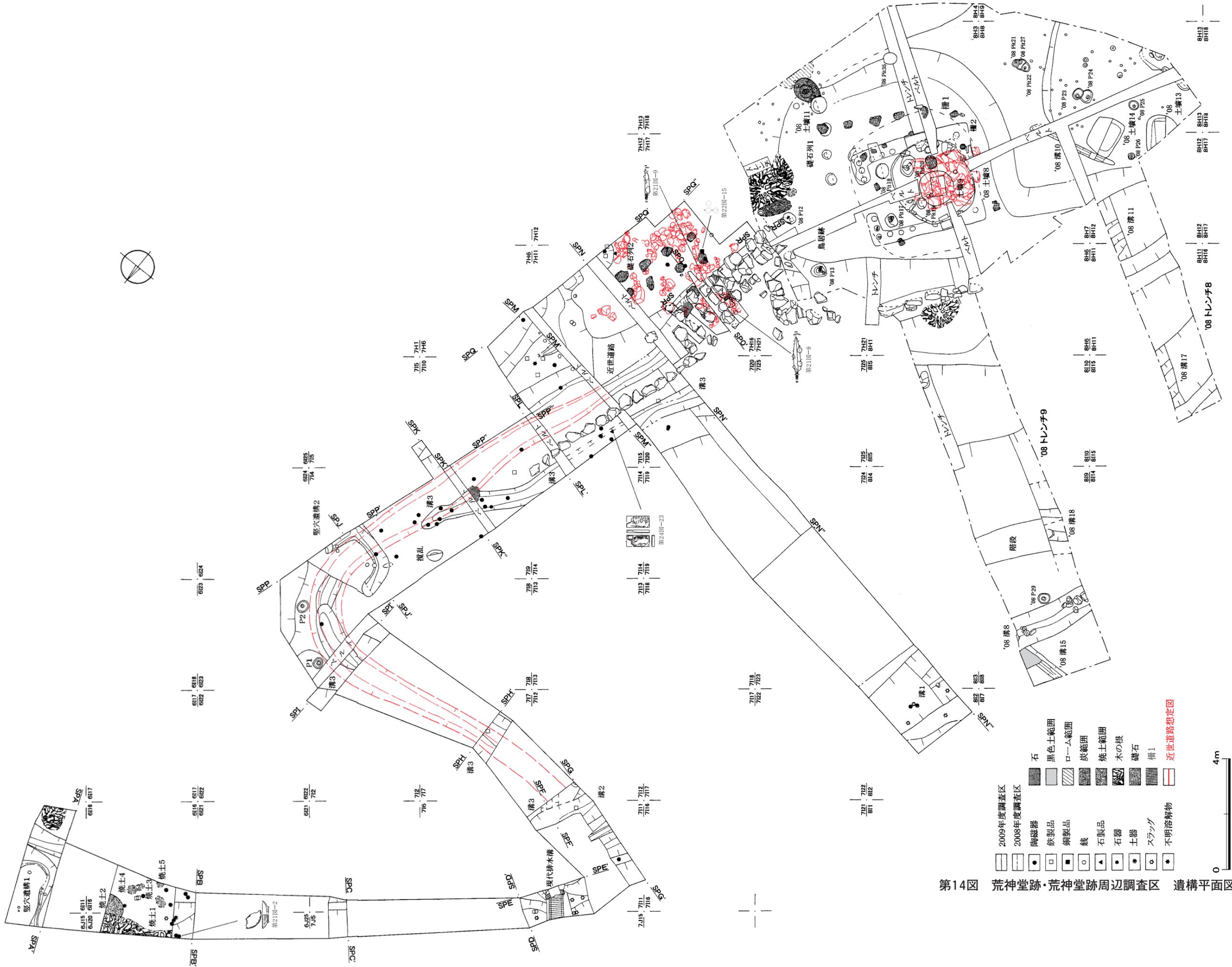
〔位置〕6 I 16グリッドに位置する。調査は、平面形を確認したのみであった。道路面と思われる硬化した面で確認された。

〔形態・規模〕未確認

〔堆積土〕赤褐色土を呈する。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし



第14図 荒神壁跡・荒神壁跡周辺調査区 遺構平面図

### 焼土範囲 3 (14図、P L 24・2)

〔位置〕6 I 16グリッドに位置する。調査は、平面形を確認したのみであった。道路面と思われる硬化した面で確認された。

〔形態・規模〕平面形は、長軸36cm、短軸23cmの不整円形を呈す。

〔堆積土〕赤褐色土を呈する。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

### 焼土範囲 4 (14図、P L 24・2)

〔位置〕6 I 16グリッドに位置する。調査は、平面形を確認したのみであった。道路面と思われる硬化した面で確認された。

〔形態・規模〕長軸33cm、短軸30cmの不整円形を呈す。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

### 焼土範囲 5 (14図、P L 24・2)

〔位置〕6 I 16グリッドに位置する。調査は、平面形を確認したのみであった。道路面と思われる硬化した面で確認された。

〔形態・規模〕平面形は、長軸46cm、短軸28cmの不整円形を呈す。

〔堆積土〕赤褐色土を呈する。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

### 08土壌 8 (13・17図、P L 3・10～12)

〔位置〕荒神堂跡の方形に積まれた石積下の8 H 2グリッドに位置する。検出された規模から、天保11年(1840)に改修された荒神堂の石積の基礎の範囲と推測される。

〔形態・規模〕平面形は、直径約277cmの円形を呈し、深さ15～20cmを測る。土壌の底面は、ほぼ平坦である。土壌の壁面にみられるスクリーントーンをした40～60cm大の大型の礫は、天保11年の改修時の石積が残存したものと考えられる。

〔堆積土〕黒褐色土を呈し、1～2cm大の玉砂利を多量に含む。

〔新旧関係〕柵2、Pit19・20より新しく、上面の方形の石積より古い。

〔出土遺物〕肥前系陶器碗(～期)2点、近世陶器3点、鉄製品銭(寛永通寶1点、箱館通寶2

点)、銅製品銭3点(寛永通寶3期)が出土している。

### 08柵 1 (19図、P L 3・1)

〔位置〕荒神堂の7 H 22・23、8 H 2・3グリッドに位置する。柵1は、礎石の柵で天保11年に積まれた石積範囲(土壌8)との位置関係から、土壌8に伴うと思われる。

〔形態・規模〕玉垣の礎石は、北側隅の礎石が欠損しているものの、1辺約360cmの正方形を呈する。また、北東面には約120cmの幅で入り口が確認された。

柵1と土壌8の間には、約10cm大の玉石が敷かれている。

〔堆積土〕なし

〔新旧関係〕玉石の下から柵2が検出されるため、柵2より新しい。また、柵1は、調査前に確認された1辺約170cmの方形に積まれた石積の下層に位置するため、それより古い。

〔出土遺物〕なし

### 08柵 2 (19図、P L 3・1)

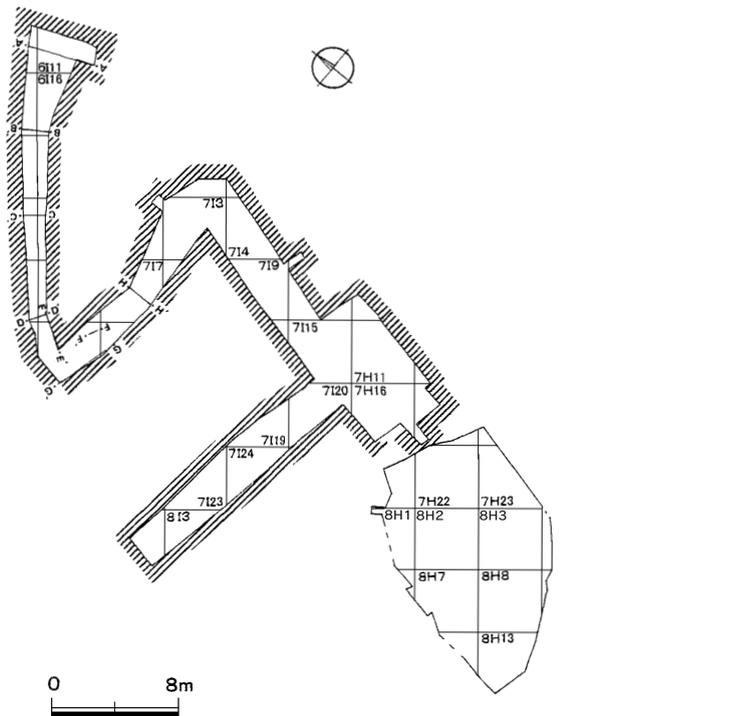
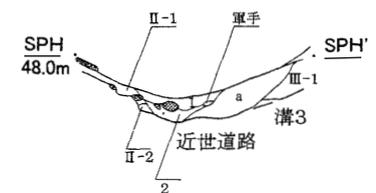
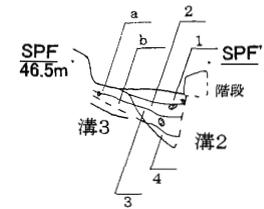
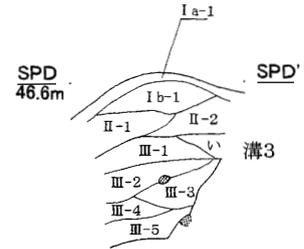
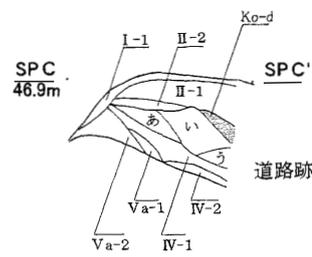
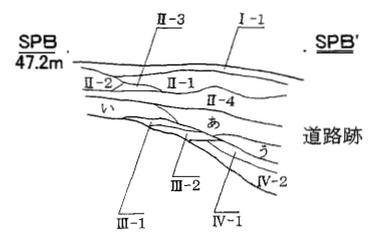
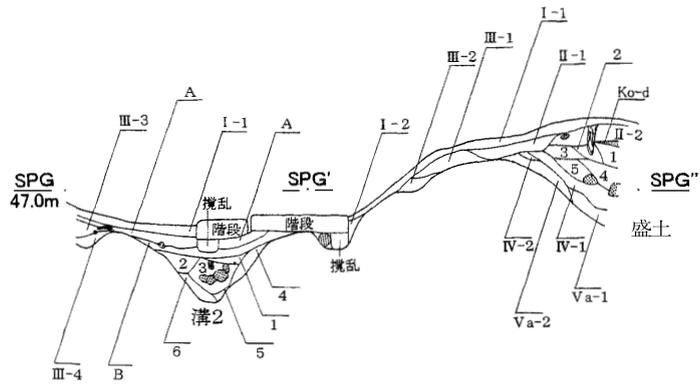
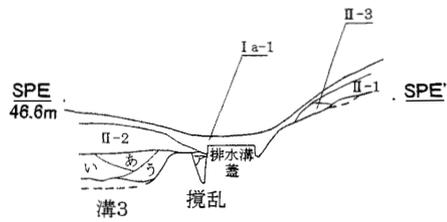
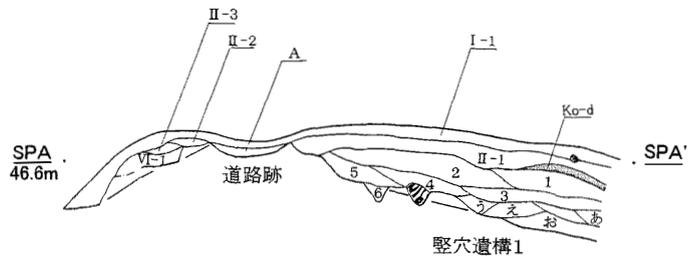
〔位置〕荒神堂の7 H 22、8 H 2・3・7グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は、北東～南西方向に長軸をとり、北東面に幅約140cmの入口が確認された。長軸約360cm、短軸約270cmの長方形を呈し、溝幅約50cm、深さ約40cmを測る。覆土内に直径15～20cmの杭穴が30～40cm間隔で並んでおり、布掘の柵と思われる。

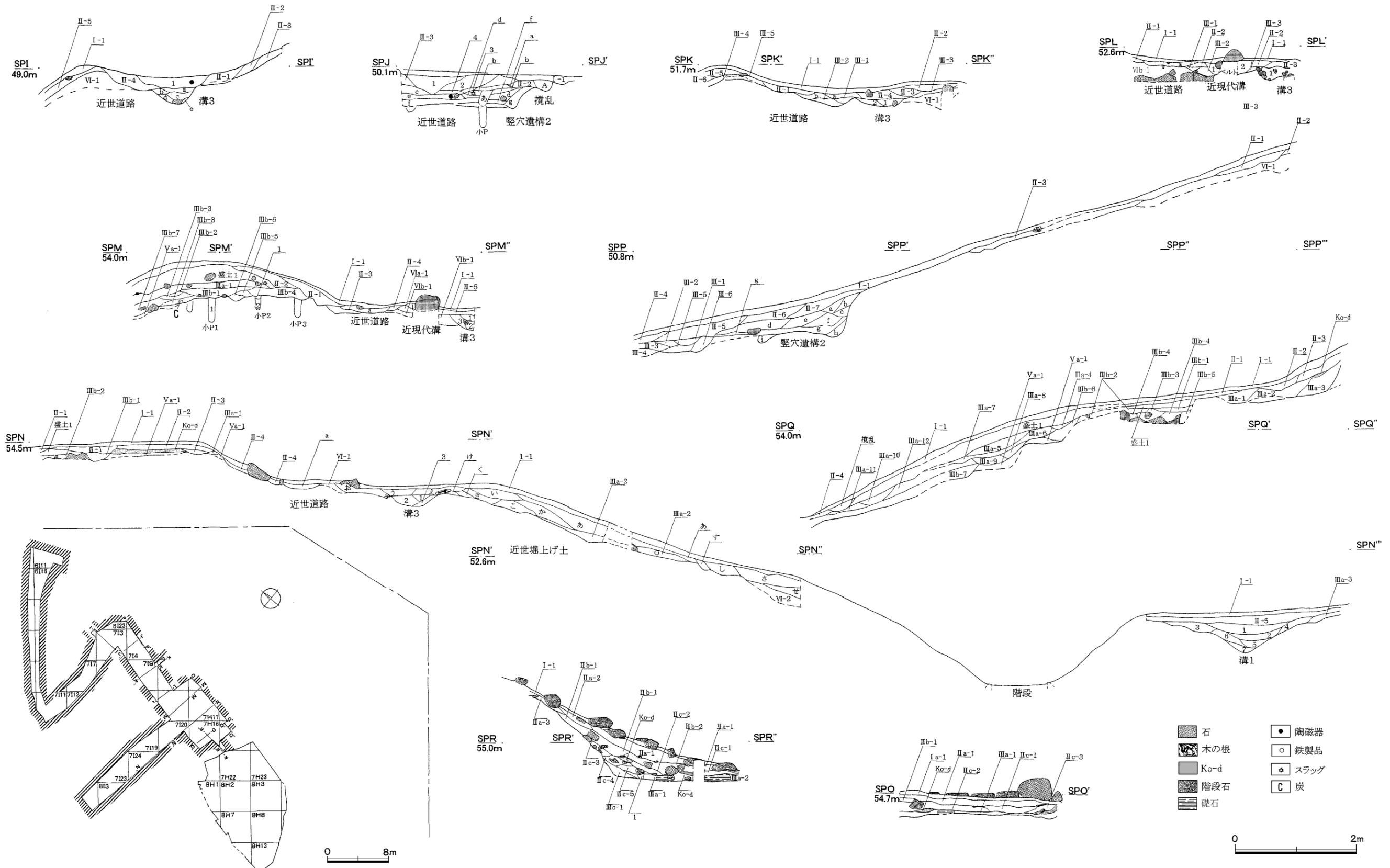
〔堆積土〕杭の部分に2～3cm大の玉砂利が多く混入している。堆積土は人為堆積を呈し、褐色土を主体として硬く締まっている。

〔新旧関係〕土壌8に壊されることや玉石の下位に位置するため、それより古い。

〔出土遺物〕肥前系陶器碗(～期)2点が出土している。



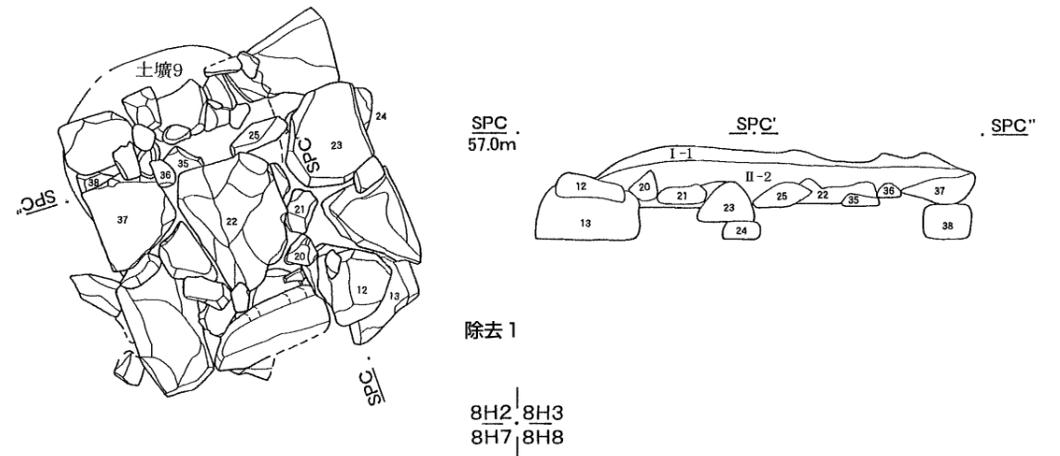
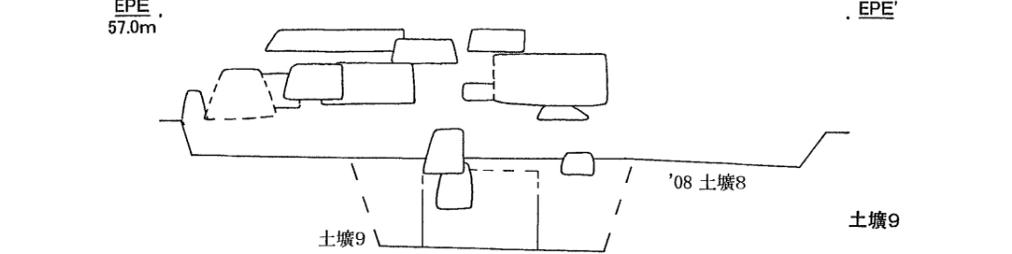
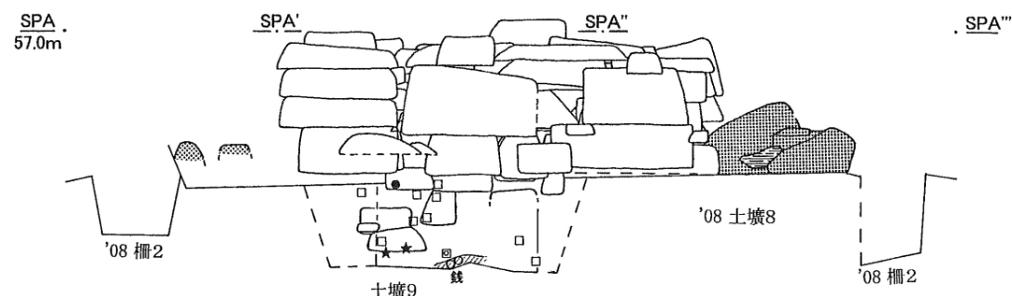
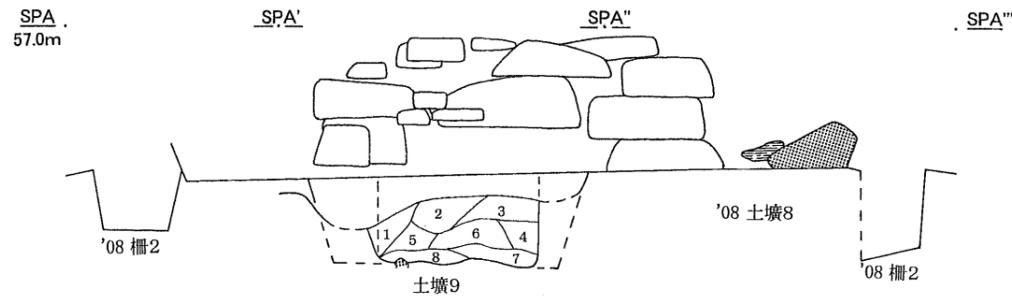
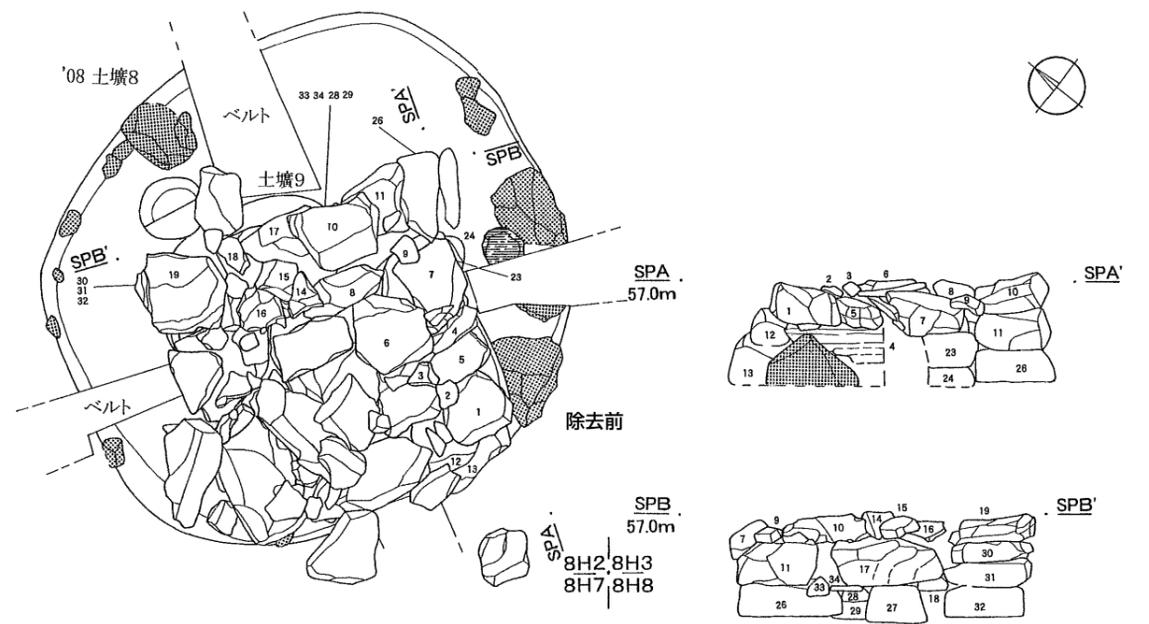
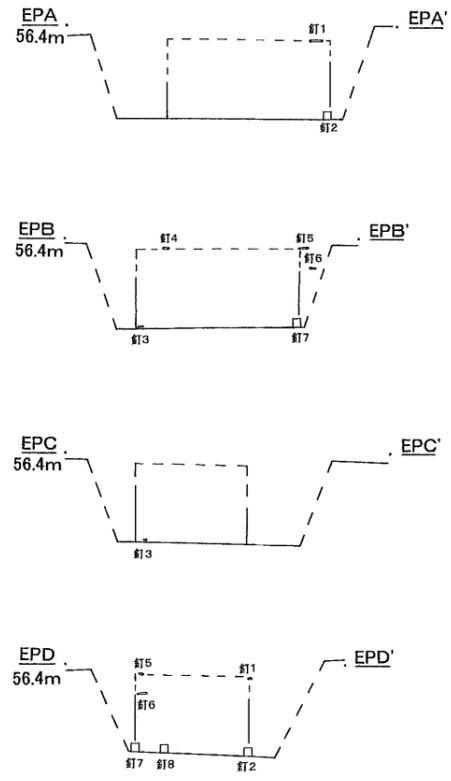
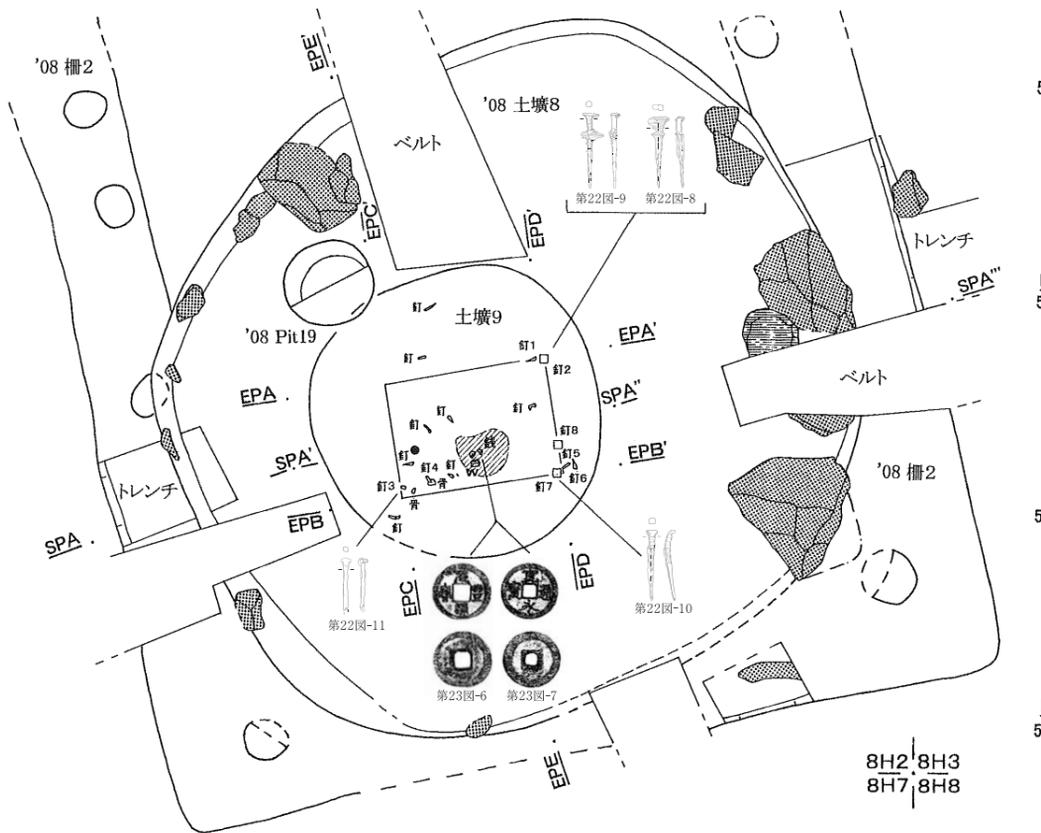
第15図 荒神堂跡周辺 セクション図1



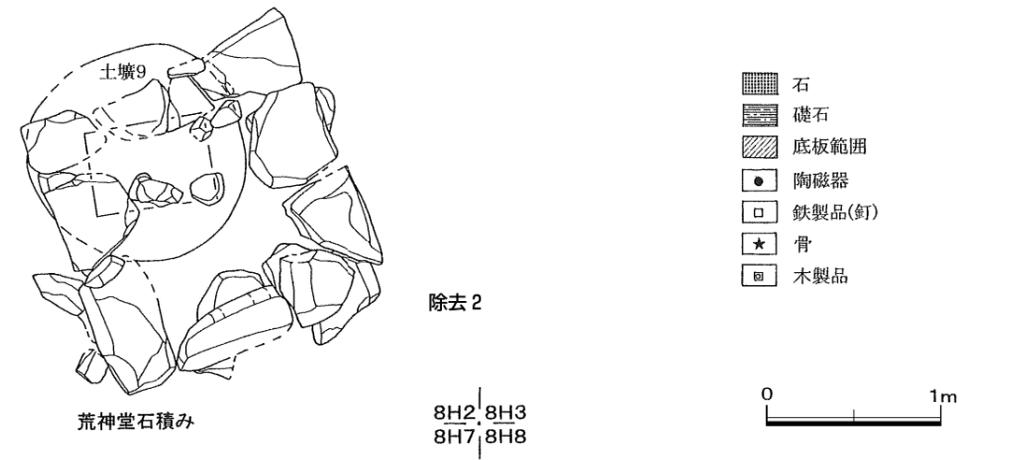
- |  |      |  |      |
|--|------|--|------|
|  | 石    |  | 陶磁器  |
|  | 木の根  |  | 鉄製品  |
|  | Ko-d |  | スラッグ |
|  | 階段石  |  | C    |
|  | 礎石   |  |      |



第16図 荒神堂跡周辺 セクション図2



8H2, 8H3  
8H7, 8H8



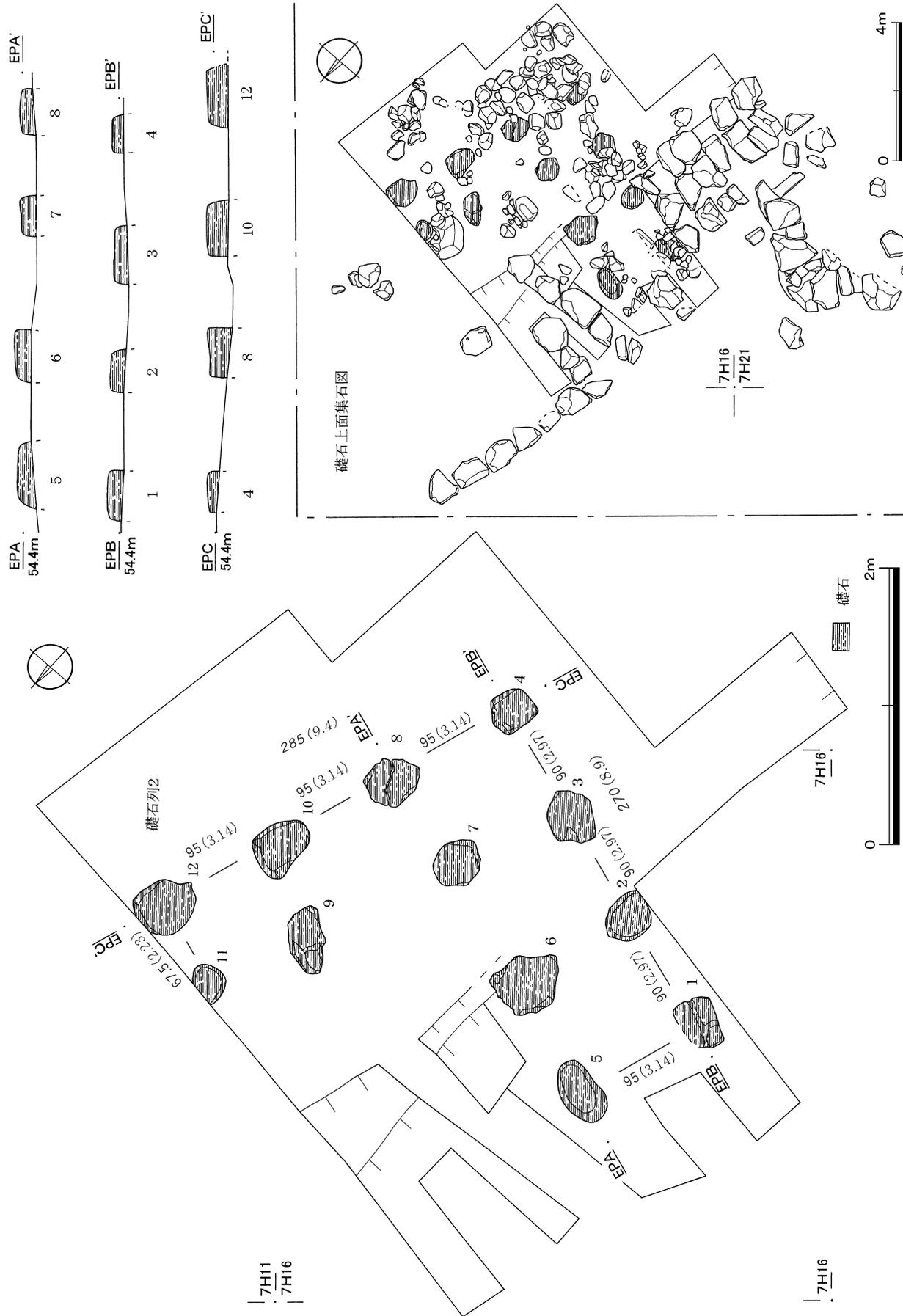
荒神堂石積み

8H2, 8H3  
8H7, 8H8

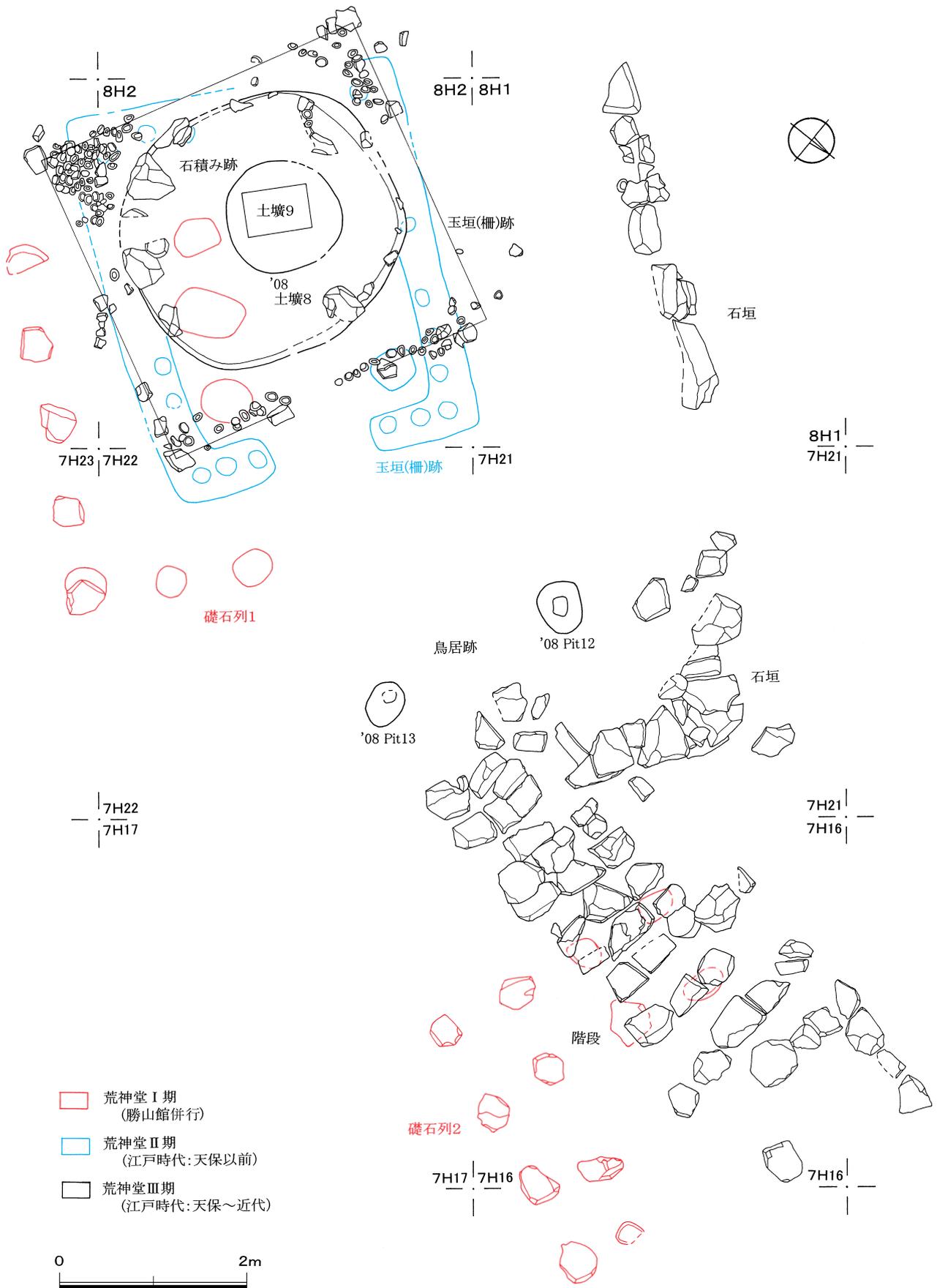
- 石
- 礎石
- 底板範囲
- 陶磁器
- 鉄製品(釘)
- 骨
- 木製品



第17図 荒神堂跡 土塙9・石積 平面図他



第18図 荒神堂跡周辺 礎石列2 平面図



第19図 荒神堂跡 遺構平面図

表23 荒神堂周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表 (A ~ A')

	-1	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗	草根多量
	-1	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密	
	-2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利 × 1	シルト 粗	
	-3	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
	-1	10YR4/6	褐色	2cm 大基盤礫多量	シルト 極粗	
竪穴遺構 1	1	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗	
	2	10YR3/3	暗褐色	Ko-d微量	シルト 粗 ソフト	
	3	7 5YR3/4	暗褐色		シルト やや粗	
	4	7 5YR2/3	極暗褐色	2cm 大礫 × 3	シルト 粗	炭粒微量
	5	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗	
	6	7 5YR4/3	褐色		シルト 極粗	
道路跡	あ	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト	炭粒 × 1
	い	10YR4/4	褐色	基盤礫粒微量	シルト 密	1cm 大炭粒 × 1
	う	10YR4/4	褐色	中・下部基盤礫粒少量	シルト 粗	
	え	10YR4/4	褐色		シルト 粗	

	-2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密	
	-3	10YR4/4	褐色	5cm 大礫・3cm 大玉砂利 × 各1	シルト やや密	炭粒微量
	-4	10YR4/4	褐色	3cm 大玉砂利 × 2	シルト やや密	
	-5	10YR4/4	褐色	1cm 未満大玉砂利	シルト やや密	
				基盤礫粒微量	ややハード	
				基盤礫粒少量	シルト やや密	炭粒微量
					ややハード	
溝3	い	10YR3/3	暗褐色	(E-E'溝3 いと同じ)	シルト やや粗	
					ややハード	

表27 荒神堂周辺調査区 南北セクション東壁土層観察表 (E ~ E')

	a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 密	草根少量
	-1	10YR3/4	暗褐色		シルト 密	炭粒微量
	-2	10YR3/3	暗褐色		ややハード	炭粒微量
	-3	10YR4/4	褐色	下部ロームブロック	シルト やや密	
				5mm 大玉砂利微量	ややソフト	
現代攪乱	ア	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密	
					ややソフト	
溝3	あ	10YR3/4	暗褐色	下部2~3cm 大玉砂利・	シルト やや粗	
				基盤礫少量	ややソフト	
	い	10YR4/3	にぶい黄	5mm 未満玉砂利	シルト やや粗	炭粒微量
			褐色	(D-D'溝3 いと同じ)	ややソフト	
	う	10YR4/4	褐色	3~5cm 大礫 × 2	シルト やや密	
					ややソフト	

表24 荒神堂周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表 (B ~ B')

	-1	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗	草根多量
	-1	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密	
	-2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利 × 1	シルト 粗	
	-3	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
	-1	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗	
	-2	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
	-1	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
	-2	7 5YR4/4	褐色		シルト 粗 ソフト	
道路跡	あ	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗	
	い	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗	
	う	10YR4/4	褐色	2~3cm 大礫 × 3	シルト 粗	
				基盤礫粒微量	シルト 粗	

表28 荒神堂周辺調査区 溝2土層観察表 (F ~ F')

溝3	a	10YR3/4	暗褐色	2mm 大砂利多量	シルト 粗 ソフト	
	b	10YR4/3	にぶい黄	5mm 大玉砂利少量	シルト やや密	
			褐色		ややハード	
溝2	1	10YR3/4	暗褐色	0.5~1.5cm 大基盤礫少量	シルト やや密	
	2	10YR3/3	暗褐色	5~7cm 大礫多量	シルト やや密	
	3	10YR3/4	暗褐色	5~7cm 大礫 × 1	シルト やや粗	
				玉砂利少量	ソフト	
	4	10YR4/4	褐色	基盤礫・玉砂利少量	若干粘質性有り	
					シルト やや粗	
					ややソフト	

表29 荒神堂周辺調査区 東西セクション南壁土層観察表 (G ~ G')

	-1	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ソフト	草根多量
	-2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 密	
					ややソフト	
	-1	10YR3/3	暗褐色	1.5cm 大玉砂利 × 1	シルト やや粗	
					ややソフト	
	-2	10YR4/3	にぶい黄		粘質土 やや粗	
			褐色		ややハード	
	-1	10YR4/3	にぶい黄	中間部Ko-d微量	シルト やや粗	
			褐色		ややハード	
	-2	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗	
	-3	10YR4/6	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗	
	-4	10YR4/4	褐色	基盤礫粒中量	ややハード	
	-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗	
					ソフト	
	-2	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗	
					ややハード	
	a-1	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗	
					ソフト	
	a-2	10YR4/3	にぶい黄	基盤礫粒少量	粘質土 やや粗	
			褐色		ややソフト	
道路跡	A	10YR4/4	褐色	基盤礫粒多量	シルト 密	
	B	10YR4/3	にぶい黄	基盤礫粒中量	シルト 密	
			褐色		ややソフト	
溝2	1	10YR3/4	暗褐色	玉砂利 基盤礫粒少量	シルト 粗	
	2	7 5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒多量	ややハード	
	3	7 5YR3/2	黒褐色	10cm 大礫 × 3	シルト 粗	
	4	7 5YR4/3	褐色	基盤礫少量	ややソフト	
	5	7 5YR3/2	黒褐色	砂微量混入	シルト やや粗	
					ややソフト	
	6	7 5YR2/2	黒褐色	砂微量混入	シルト 極粗	
					極ソフト	

表25 荒神堂周辺調査区 南北セクション西壁土層観察表 (C ~ C')

	-1	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗	草根多量
	-1	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密	
	-2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利 × 1	シルト 粗	
	-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗	炭粒微量
	-2	7 5YR2/3	極暗褐色		ややソフト	
	a-1	7 5YR3/4	暗褐色		シルト 粗	
					ややハード	
	a-2	7 5YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
道路跡	あ	10YR3/4	暗褐色	2~4cm 大基盤礫少量	シルト 粗	
	い	10YR3/4	暗褐色		ややソフト	
	う	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗	
					ソフト	

表26 荒神堂周辺調査区 東西セクション北壁土層観察表 (D ~ D')

	a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗	草根中量
					ソフト	
	b-1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫微量	シルト やや粗	
				1~3cm 大玉砂利少量	ソフト	
	-1	10YR3/3	暗褐色	5cm 大基盤礫 × 2	シルト やや粗	
					ソフト	
	-2	10YR3/3	暗褐色	1cm 大玉砂利微量	シルト やや粗	
					ややソフト	
	-1	10YR3/4	暗褐色	2cm 大基盤礫微量	シルト やや粗	
					ややハード	

盛土	1	10YR3/4	暗褐色		粘質土 粗 ソフト	
	2	10YR3/4	暗褐色		粘質土 密 ややソフト	
	3	10YR4/3	にぶい黄 褐色		粘質土 やや粗 ややハード	
	4	10YR4/3	にぶい黄 褐色		粘質土 粗 ソフト	
	5	10YR4/4	褐色		粘質土 粗 ややソフト	

表30 荒神堂周辺調査区 南北セクション東壁土層観察表( H ~ H ' )

	-1	10YR2/3	黒褐色	基盤礫中量混入	シルト 粗 ソフト	木の根多量
	-1	10YR4/4	褐色	0.5~1.5cm 大基盤礫多量	粘質土 粗 ややソフト	木の根多量
近世 道路	1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ソフト	木の根多量
	2	10YR4/3	にぶい黄 褐色	1~5cm 大基盤礫多量	シルト 粗 ややハード	木の根多量
溝3	a	10YR3/4	暗褐色	5mm 大基盤礫中量	シルト やや密 ややハード	木の根多量

表31 荒神堂周辺調査区 南北セクション東壁土層観察表( I ~ I ' )

近世 道路 溝3	-1	10YR2/3	黒褐色	玉砂利微量	シルト やや粗 ソフト	木の根少量  木の根多量
	-1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト	
	-2	10YR4/3	にぶい黄 褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト	
	-3	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト 粗 ソフト	
	-4	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	-5	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ハード	
	-1	10YR4/6	褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ややハード	
	1	10YR3/3	暗褐色	玉砂利微量	シルト やや密 ソフト	
	a	10YR4/4	褐色	基盤礫中量	シルト 密 ハード	
	b	10YR4/4	褐色	基盤礫粒 玉砂利微量	シルト 粗 ややハード	
	c	10YR4/4	褐色	基盤礫多量	シルト 粗 ハード	
	d	10YR4/4	褐色	基盤礫中量	シルト やや密 ソフト	

表32 荒神堂周辺調査区 東西セクション南壁土層観察表( J ~ J ' )

堅穴遺 構2	-1	10YR3/2	黒褐色	2~3cm 大玉砂利少量	シルト ややソフト	1~2cm 大炭粒中量
	-1	10YR3/4	暗褐色	粘土粒少量	シルト ややソフト	
	-2	10YR3/4	暗褐色	粘土粒少量	シルト ややハード	
	-3	10YR4/4	褐色	2~3cm 大・10cm 大礫中量	シルト ハード	
	a	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	b	10YR4/6	褐色		シルト ソフト	
	c	10YR3/3	暗褐色	3~5cm 大礫多量	シルト ハード	
d	10YR3/3	暗褐色	2~3cm 大礫少量	シルト ソフト		
e	7.5YR4/6	褐色		シルト ソフト		
f	10YR3/3	暗褐色	礫粒中量	シルト ややハード		
g	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト ソフト		
近世 道路	1	10YR4/4	褐色	2~3cm 大礫中量	シルト ハード	
	2	10YR4/4	褐色	2~3cm 大・10cm 大礫中量	シルト ハード	
	3	10YR3/4	暗褐色	2~3cm 大礫中量	シルト ややハード	
	4	10YR4/4	褐色	2~3cm 大礫中量	シルト ややハード	
小P 攪乱	あ	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	A	10YR3/4	暗褐色	3~5cm 大礫少量	シルト ややハード	

表33 荒神堂周辺調査区 東西セクション南壁土層観察表( K ~ K ' )

	-1	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ソフト	草根多量
	-1	10YR3/3	暗褐色	1cm 大玉砂利少量 (P~P''の .3と同じ)	シルト 粗 ややハード	草根
	-2	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ソフト	
	-3	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ややハード	
	-4	10YR3/4	暗褐色	2~10cm 大基盤礫少量	シルト 粗 ややハード	
	-5	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根多量

	-6	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	-1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒微量 砂少量	シルト やや粗 ややソフト	1.5cm 大炭 ブロック×1
	-2	10YR4/4	褐色	基盤礫 玉砂利微量 砂若干混入	シルト やや密 ハード	
	-3	10YR4/4	褐色	下部玉砂利少量	シルト 粗 ややハード	
	-4	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	
	-5	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	
	-1	7.5YR5/6	明褐色	基盤礫中量	シルト 極粗 ややハード	
近世 道路	a	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒微量 砂若干混入	シルト やや粗 ソフト	
	b	10YR3/3	暗褐色	1cm 大基盤礫少量	シルト やや粗 ややハード	
溝3	1	10YR4/4	褐色	全面砂混入	粘質土 密 ややソフト	炭粒微量
	2	10YR4/4	褐色	砂若干混入	粘質土 密 ややハード	

表34 荒神堂周辺調査区 東西セクション南壁土層観察表( L ~ L ' )

	-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根多量 草根少量
	-1	10YR3/4	暗褐色	(P~P'''の .2と同じ)	粘質土 粗 ソフト	
	-2	10YR4/3	にぶい黄 褐色		粘質土 粗 ややハード	
	-3	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	-1	10YR3/4	暗褐色		粘質土 密 ハード	
	-2	10YR4/4	褐色	基盤礫中量	粘質土 極密 極ハード	
	-3	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト やや粗 ややハード	
	b-1	10YR5/6	黄褐色	基盤礫多量 (P~P'''の .1と同じ)	粘質土 粗 ソフト	
近世 道路	a	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ややソフト	草根多量
近現 代溝	1	10YR4/3	にぶい黄 褐色		粘質土 やや密 ハード	
	2	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
溝3	1	10YR4/4	褐色	5~10cm 大基盤礫多量	粘質土 粗 ややハード	

表35 荒神堂周辺調査区 東西セクション南壁土層観察表( M ~ M ' )

	-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ソフト	草根多量
	-1	10YR3/4	にぶい黄 褐色		粘質土 やや粗 ややソフト	草根多量
	-2	10YR4/3	暗褐色	玉砂利少量	粘質土 粗 ややソフト	
	-3	7.5YR3/3	暗褐色		粘質土 やや粗 ややソフト	
	-4	7.5YR3/4	暗褐色		粘質土 やや粗 ソフト	
	-5	10YR3/3	暗褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	
	a-1	10YR3/4	黒褐色	(Q-Q'' a-12と同じ)	シルト やや密 ややソフト	
	b-1	10YR2/3	黒褐色	2~3mm 大玉砂利少量	シルト 密 ややハード	炭粒微量
	b-2	10YR2/3	暗褐色		シルト 密 ややソフト	炭粒微量
	b-3	10YR3/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
	b-4	10YR3/2	暗褐色	3~5cm 大礫×4	粘質土 粗 ややハード	
	b-5	10YR3/4	黒褐色		粘質土 やや密 ややハード	
	b-6	10YR2/3	黒褐色		粘質土 やや密 ややソフト	
	b-7	10YR2/3	黒褐色	10~15cm 大礫×2 (Q-Q'' b-7と同じ)	粘質土 やや密 ややソフト	
	b-8	10YR2/3	褐色		粘質土 密 ややソフト	
	a-1	10YR4/4	褐色		粘質土 密 ややソフト	
	a-1	7.5YR4/6	暗褐色		粘質土 密 ややソフト	
	b-1	7.5YR3/4	褐色		粘質土 粗 ややハード	

盛土	1	10YR4/4	暗褐色	0.5~1cm 大玉砂利中量 (Q-Q' 盛土1と同じ)	粘質土 粗 ややソフト	
小P1	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	礫多量	粘土 密 ハード	
小P2	1	10YR3/3	暗褐色		粘質土 粗 ソフト	1cm 大炭×1
	2	10YR4/4	褐色		粘質土 粗 ややソフト	
近現代溝3	1	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 粗 ソフト	草根少量
溝3	1	10YR3/4	暗褐色		粘質土 粗 ややハード	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂・玉砂利少量	粘質土 粗 ややソフト	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	2~8cm 大玉石微量	粘質土 やや密 ややソフト	
近世道路	a	7.5YR4/4	褐色	5YR3/6暗赤褐色礫多量	粘質土 粗 ソフト	

表36 荒神堂周辺調査区 東西セクション南壁土層観察表(N~N')

	-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	草根多量	
	-1	10YR3/4	暗褐色	(Q-Q' -1と同じ)	シルト 粗 ソフト	草根多量	
	-2	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト		
	-3	10YR3/4	暗褐色		シルト 密 ソフト		
	-4	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ソフト		
	-5	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややハード		
	a-1	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 極ソフト		
	a-2	10YR4/3	にぶい黄褐色	上部3~5cm 大基盤礫少量	シルト やや密 ややハード		
	a-3	10YR3/2	黒褐色	3cm 大10YR4/4褐色 ロームブロック中量	シルト やや密 ハード		
	b-1	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	シルト やや密 ややソフト		
	b-2	10YR3/3-3/4	暗褐色	玉砂利 基盤礫少量 5~6cm 大礫×1 (Q-Q' b-2と同じ)	シルト やや粗 ややソフト		
	a-1	10YR4/4	褐色		シルト 密 ややソフト		
	-1	10YR4/6	褐色	基盤礫中量	シルト 密 ハード		
	-2	10YR4/4	褐色	3~5cm 大基盤礫少量			
盛土	1	10YR4/4	褐色	左上部1~3cm 大玉砂利 (Q-Q' 盛土1と同じ)	シルト やや密 ややハード		
近世道路	a	10YR3/4	暗褐色	基盤礫微量	シルト やや粗 ややソフト		
近世堀上土	あ	10YR4/4	褐色	5~8cm 大礫×3 玉砂利少量	シルト やや密 ややハード		
	い	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト やや密 ややハード		
	う	10YR3/4	暗褐色	2mm 大玉砂利少量	シルト やや粗 ややハード		
	え	10YR3/4	暗褐色	3cm 大玉砂利×1	シルト 粗 ややハード		
	お	10YR3/4	暗褐色	玉砂利粒少量	シルト やや粗 ややハード		
	か	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量 玉砂利微量	シルト 粗 ややハード		
	き	10YR4/4	褐色	0.2~2cm 大玉砂利微量	シルト やや密 ハード		
	く	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	シルト やや密 ややハード		
	け	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややハード		
	こ	10YR4/4	褐色	基盤礫・2mm 大玉砂利微量	シルト やや密 ややソフト		
	さ	10YR3/3	暗褐色	1~1.5cm 大基盤礫・ 玉砂利微量	シルト 粗 ややハード		
	し	10YR3/3	暗褐色	基盤礫・玉砂利微量	シルト 粗 ややハード		
	す	10YR4/4	褐色	基盤礫層	粗		
	せ	10YR3/4	暗褐色	1.5~2cm 大玉砂利少量	シルト 粗 ややハード		
	溝3	1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫少量	シルト やや粗 ややハード	
		2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫多量	シルト やや粗 ややハード	
		3	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	溝1	1	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややハード	炭粒微量
		2	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト やや粗 ややハード	炭粒極微量

	3	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量 玉砂利微量	シルト やや粗 ややハード	
	4	10YR3/2	黒褐色	1cm 大ロームブロック少量	シルト やや密 ややハード	炭粒微量
	5	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややハード	
	6	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒・玉砂利微量	シルト やや粗 ややハード	
	7	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ハード	

表37 荒神堂周辺調査区 荒神堂階段土層観察表(O~O')

	a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	草根多量 (階段石上面)
	a-1	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量 (R-R' a-1と同じ)	シルト やや密 ややハード	
	b-1	10YR4/4	褐色	(R-R' b-2と同じ)	シルト 密 ハード	
	c-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	c-2	10YR3/4	暗褐色	Ko-d微量 (R-R' c-1と同じ)	シルト 密 ややハード	
	c-3	10YR4/4	褐色	Ko-d・1~2cm 大玉砂利微量	シルト やや粗 ハード	
	a-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫少量 (R-R' a-2と同じ)	シルト やや粗 ソフト	

表38 荒神堂周辺調査区 南北セクション東壁土層観察表(P~P')

	-1	10YR2/3	黒褐色	2~5mm 大玉砂利多量	シルト 粗 ややソフト	草根多量
	-1	10YR3/4	暗褐色	2~4cm 大基盤礫少量	シルト 粗 ややソフト	草根少量
	-2	10YR3/4	暗褐色	1cm 大玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	
	-3	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫多量 (K-K' -1と同じ)	粗 ややハード	
	-4	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ハード	
	-5	10YR4/4	褐色	上部1cm 大玉砂利微量 下部0.5~5cm 大基盤礫少量 基盤礫少量	シルト 粗 ややソフト	
	-6	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ややハード	
	-7	10YR4/4	褐色	基盤礫・玉砂利微量 (J-J' -3と同じ)	シルト 粗 ややハード	
縦穴遺構2	-1	7.5YR4/4	褐色		シルト 粗 ソフト	下部5mm 大炭土粒微量
	-2	10YR4/4	褐色	5mm 大基盤礫粒少量	シルト 粗 ややハード	
	-3	10YR4/6	褐色	1~3cm 大基盤礫粒少量	シルト 粗 ハード	
	-4	10YR5/8	黄褐色	1~5cm 大基盤礫粒中量	シルト 粗 ハード	
	-5	10YR3/4	暗褐色	1~5cm 大基盤礫少量	シルト 粗 ソフト	
	-6	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	
	-1	10YR4/6	褐色	3~8cm 大礫少量	粘質土 やや粗 ハード	
	a	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ハード	
	b	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややハード	
	c	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
	d	10YR3/3	暗褐色	10~25cm 大礫×3	シルト やや粗 ややハード	
	e	10YR3/4	暗褐色	8~10cm 大礫×3 (J-J' 縦穴遺構cと同じ)	シルト 粗 ややハード	
	f	10YR3/4	暗褐色	(J-J' 縦穴遺構eと同じ)	シルト 粗 ソフト	炭化物微量
	g	10YR4/4-4/6	褐色	基盤礫・2~10cm 大礫少量 (J-J' 縦穴遺構fと同じ)	シルト 粗 ソフト	炭粒微量
	h	10YR3/4	暗褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ソフト	
i	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 極ソフト		

表39 荒神堂周辺調査区 南北セクション東壁土層観察表(Q~Q')

	-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	草根多量
	-1	10YR3/4	暗褐色	(N-N' -1と同じ)	シルト 粗 ソフト	草根中量
	-2	10YR3/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ソフト	草根少量
	-3	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
溝1	a-1	10YR4/4	褐色	1~3cm 大玉砂利中量	シルト やや粗 ややソフト	
	a-2			基盤礫少量 基盤礫層		
	a-3	10YR4/4	黒褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ハード	

	a-4	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	
	a-5	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト やや粗 ソフト	
	a-6	10YR2/3	黒褐色	1~3cm 大玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト	
	a-7	10YR2/2・ 2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	a-8	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	a-9	10YR4/6	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ややハード	
	a-10	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗	草根多量
	a-11	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	草根少量
	a-12	10YR3/4	暗褐色	(M~M" a-1と同じ)	シルト 粗 ソフト	
	b-1	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量 基盤礫少量	シルト やや粗 ややソフト	
	b-2	10YR3/3・ 3/4	暗褐色	玉砂利 基盤礫少量 5~6cm 大礫 x 1	シルト やや粗 ややソフト	
	b-3	10YR3/2	黒褐色	15cm 大礫 x 1	シルト やや密 ソフト	炭粒微量
	b-4	10YR4/4	褐色	5cm 大礫多量	シルト 粗 ややソフト	
	b-5	10YR4/6	褐色		シルト やや密 ソフト	
	b-6	10YR4/3	にぶい黄 褐色	5cm 大礫中量	シルト 粗 ソフト	
	b-7	10YR3/4	暗褐色	(M~M" b-7と同じ)	シルト やや粗 極ソフト	
盛土	1	10YR4/4	褐色	玉砂利中量 基盤礫少量 (M~M" 盛土1と同じ)	シルト 粗 ハード	

表40 荒神堂周辺調査区 荒神堂階段土層観察表 (R~R'')

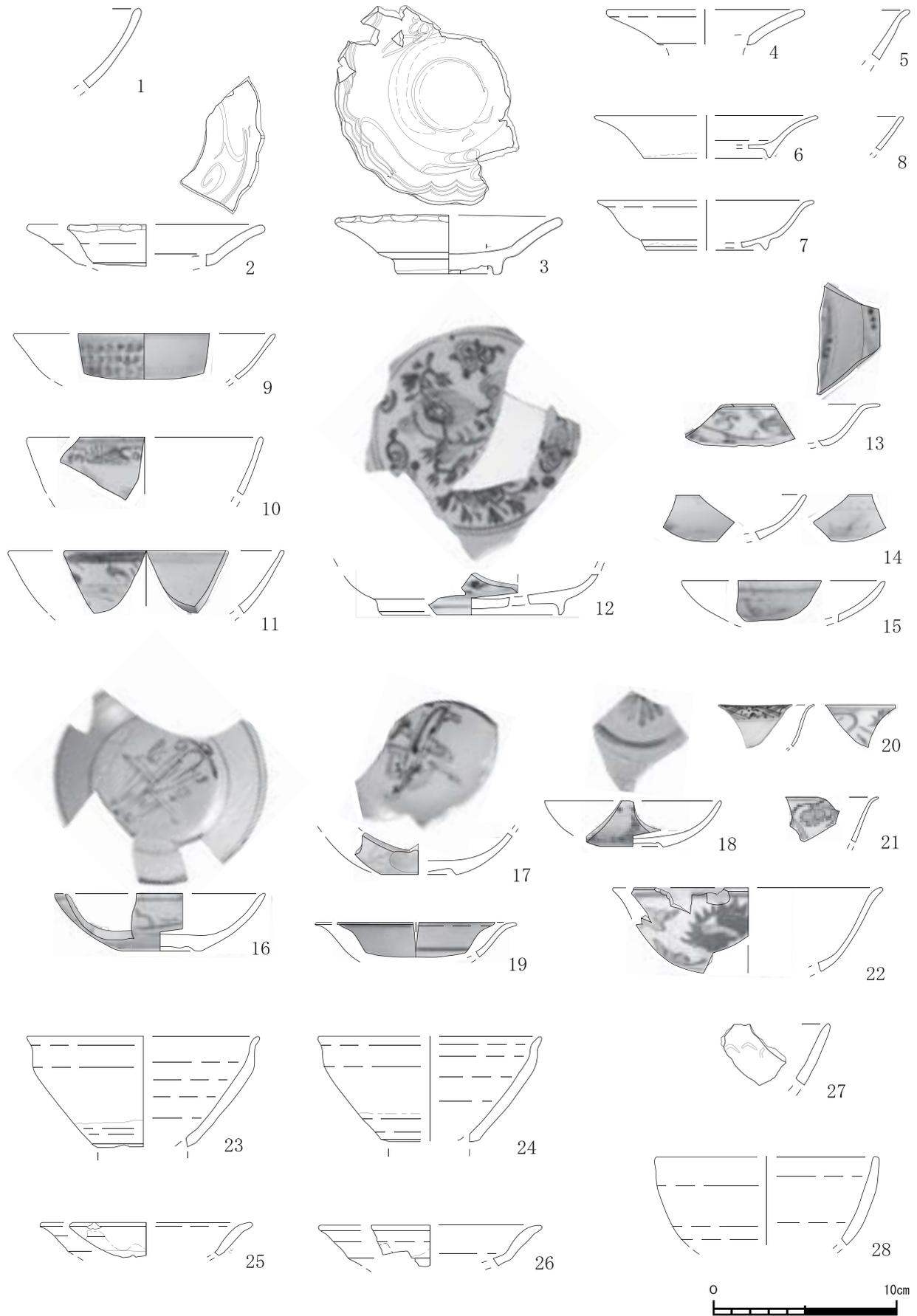
	-1	10YR3/3	暗褐色		シルト 極粗 ソフト	木の根多量
	a-1	10YR4/3	にぶい黄 褐色	0.5~2cm 大玉砂利多量 (O~O' a-1と同じ)	シルト 密 ハード	
	a-2	10YR4/3	にぶい黄 褐色	0.3~1.5cm 大玉砂利少量	シルト 密 ややハード	
	a-3	10YR4/3	にぶい黄 褐色	5mm 大玉砂利	シルト やや粗 ややソフト	木の根中量
	b-1	10YR4/4	褐色	1cm 大玉砂利少量	シルト やや密 ハード	
	b-2	10YR4/4	褐色	15~30cm 大礫 x 3 (O~O' b-1と同じ)	シルト 密 ハード	
	c-1	10YR5/4	褐色	(O~O' c-2と同じ)	シルト 密 ハード	木の根多量
	c-2	10YR5/4	にぶい黄 褐色	3~5mm 大玉砂利・基盤礫多量 Ko-d少量	シルト 粗 ややソフト	
	c-3	10YR5/4	褐色	5mm 大玉砂利・基盤礫中量	シルト 粗 ややハード	
	c-4	10YR5/4	褐色	10cm 大礫 x 3	シルト 粗 ハード	
	c-5	10YR5/4	にぶい黄 褐色	0.5~1cm 大基盤礫中量	シルト 粗 ややハード	
	a-1	10YR4/6	褐色	5mm 大玉砂利中量	シルト 粗 ややハード	
	a-2	10YR4/6	褐色	(O~O' a-1と同じ)	シルト やや密 ハード	木の根少量
	b-1	10YR5/6	黄褐色	0.5~1cm 大玉砂利少量 下部5cm 大礫 x 3	シルト 粗 ややソフト	
	1	10YR4/6	褐色	1.5cm 大玉砂利 5cm 大基盤礫少量	粘質土 粗 ハード	

表41 土壌9土層観察表

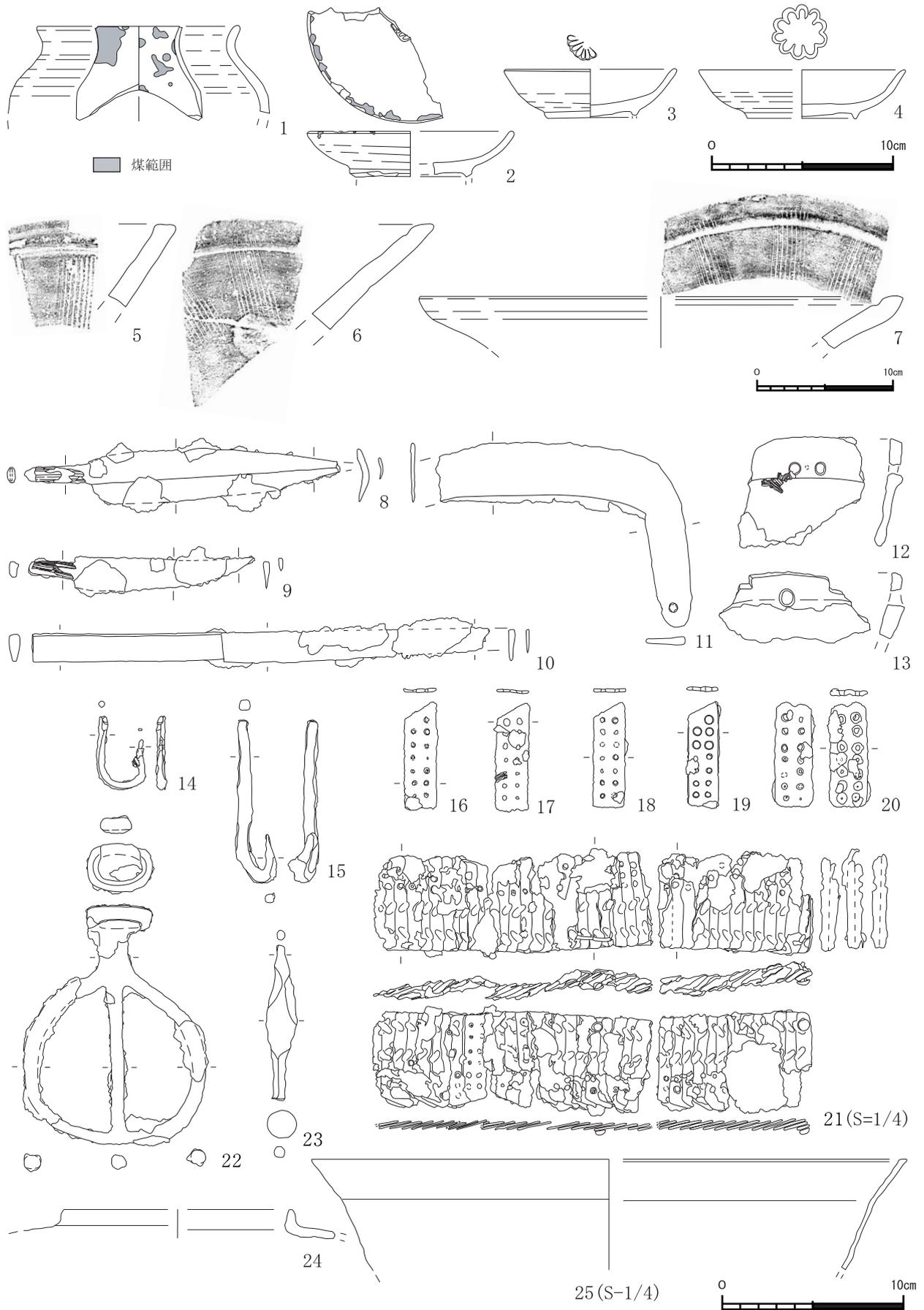
土壌9 (棺内)	1	10YR4/4	褐色		シルト ややハード	炭粒少量
	2	10YR4/4	褐色	3~5cm 大礫少量	シルト ややハード	
	3	10YR4/4	褐色		シルト ややハード	
	4	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト ソフト	
	5	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト ややハード	
	6	10YR4/3	にぶい黄 褐色	2~3cm 大玉砂利少量	シルト ややハード	
	7	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	8	10YR3/2	黒褐色		シルト ソフト	

表42 荒神堂石積み土層観察表

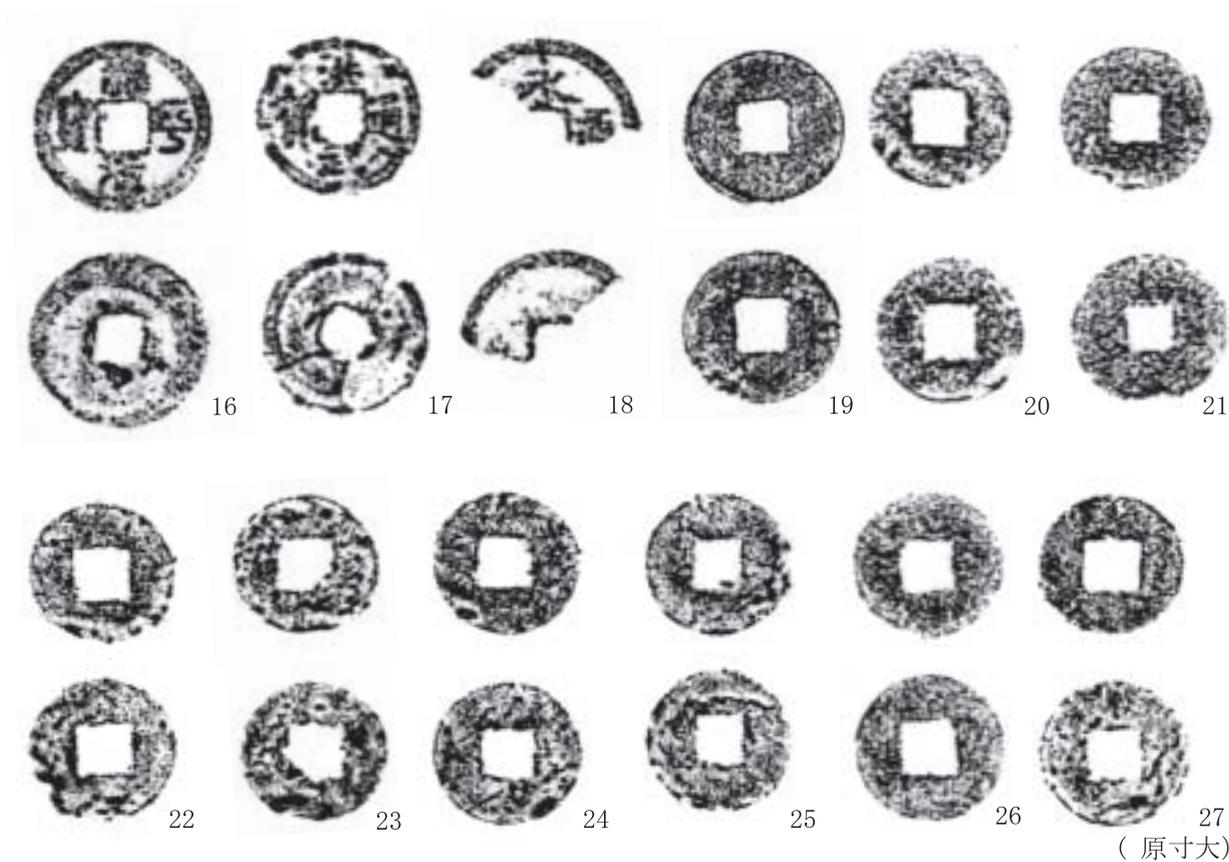
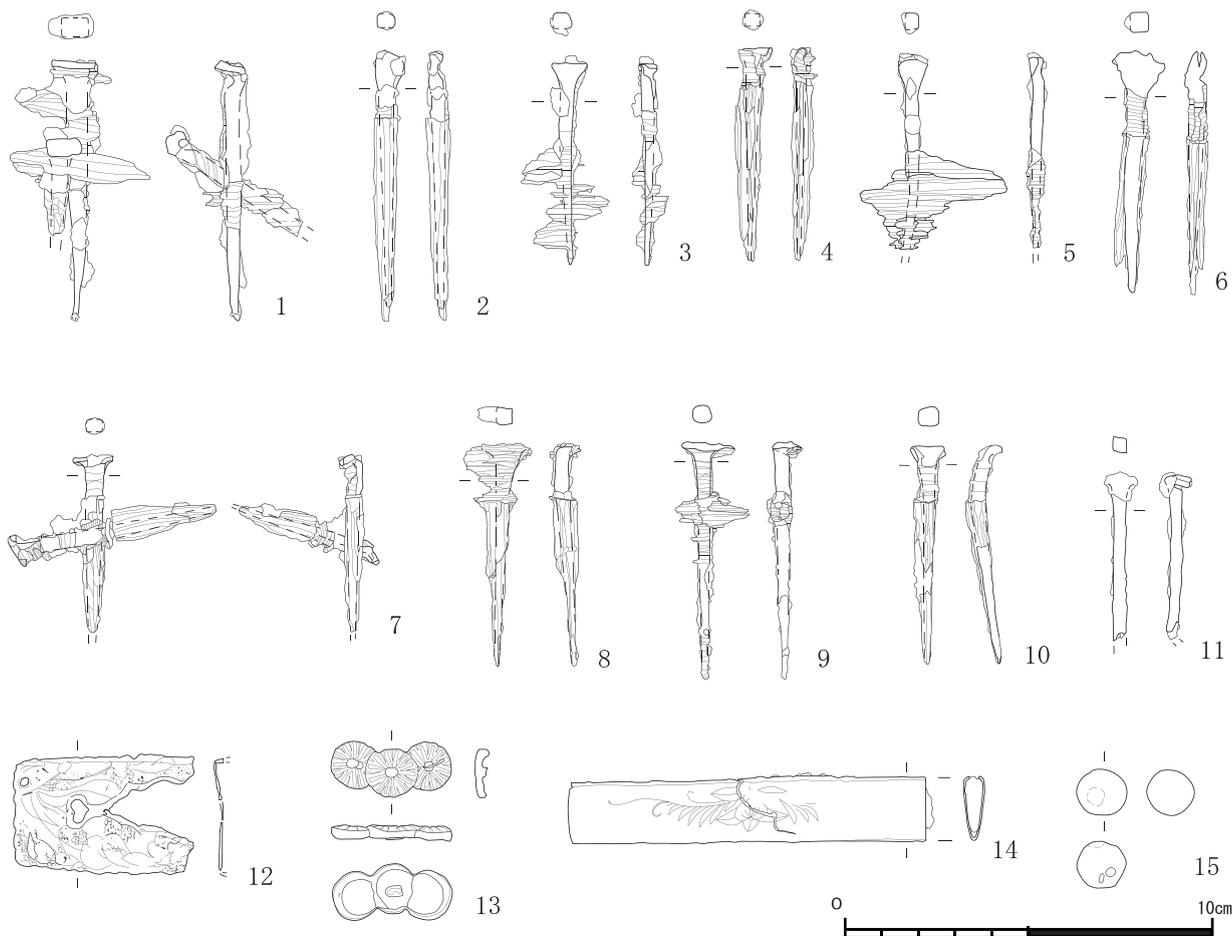
	-1	10Y R3/2	黒褐色	玉砂利多量	シルト ややソフト
	-1	10Y R4/4	褐色	玉砂利多量	シルト ややソフト



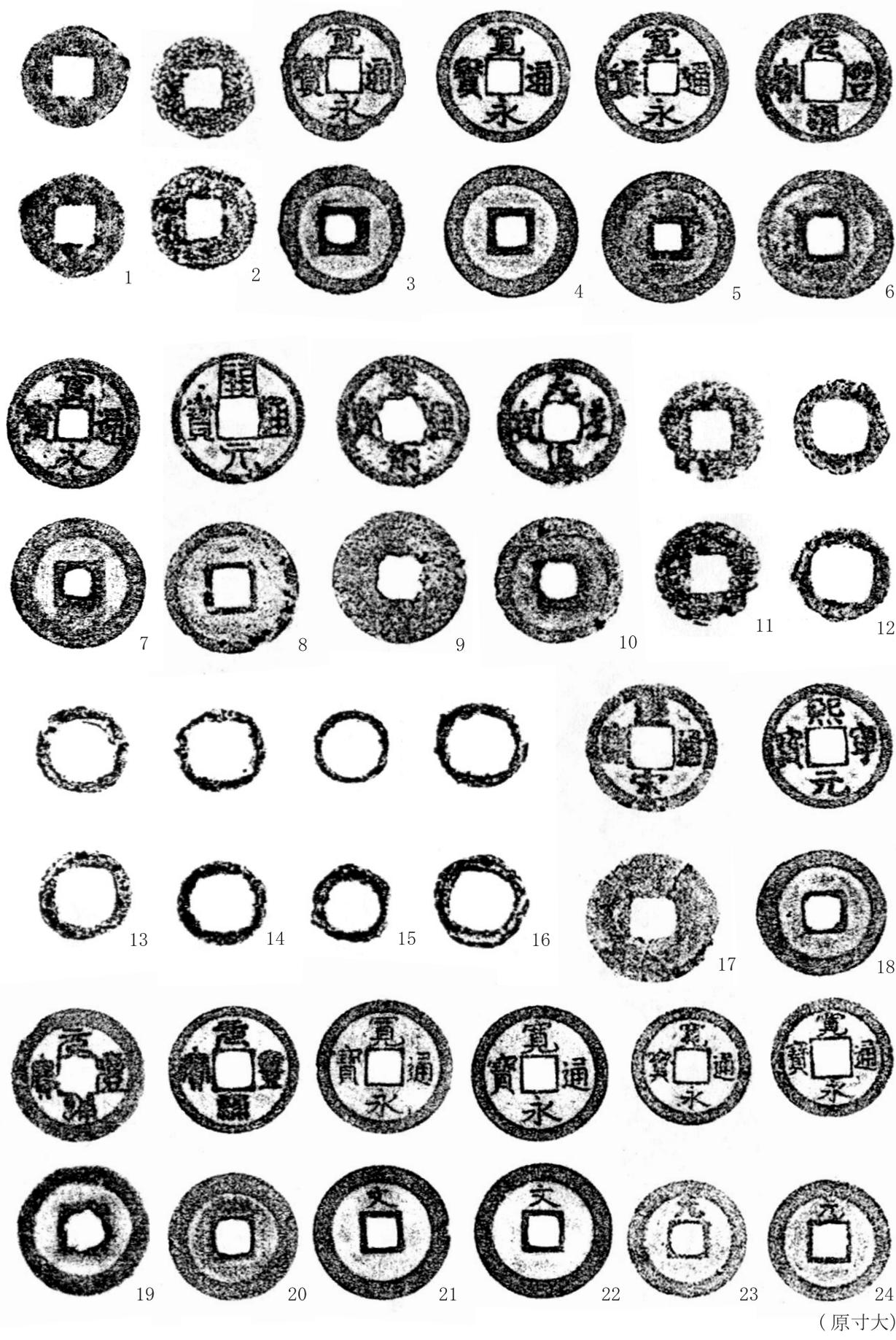
第20図 出土遺物(青磁、白磁、染付、赤絵、瀬戸・美濃鉄釉・灰釉)



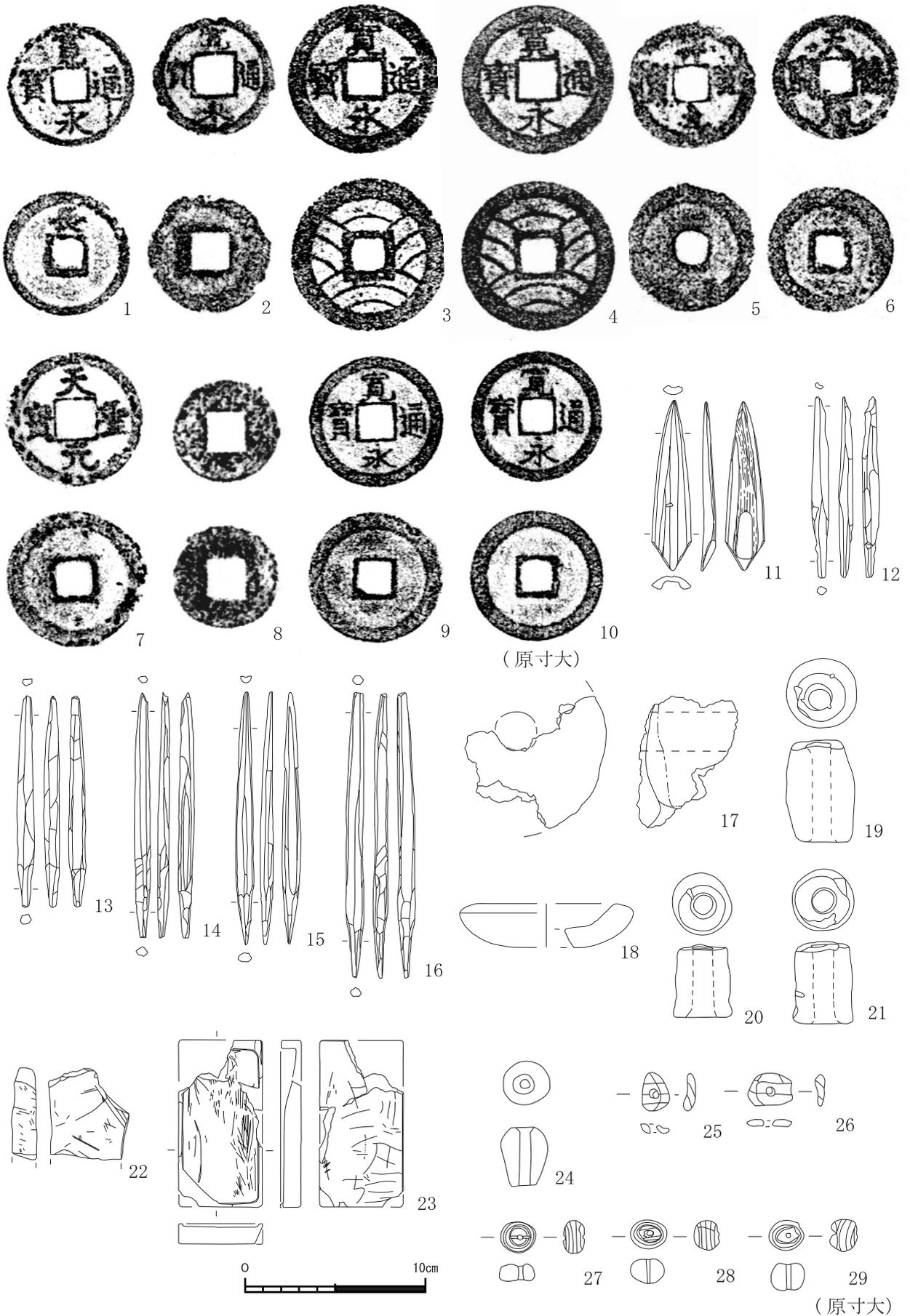
第21図 出土遺物(朝鮮、灰釉、越前、鉄製品)



第22図 出土遺物(鉄製品、銅製品、銭貨)



第23図 出土遺物(錢貨)



第24図 出土遺物(錢貨、骨角器、土製品、石製品、木製品)

### Ⅲ 出土遺物

遺物は、総計1,591点で勝山館に併行する以外に縄文・江戸時代のもので出土している。

各時期の遺物の内訳は、勝山館併行が1,103点（中世土器・陶磁器503点、鉄製品144点、銅製品73点、鉛製品1点、鍛冶関連遺物128点、石製品24点、土製品23点、骨角器16点、木製品5点、自然遺物186点）である。

その他、縄文時代が215点（縄文土器155点・石器60点）、江戸時代が273点（陶磁器47点、鉄製品104点、銅製品47点、木製品11点、石製品1点、自然遺物63点）である。

以下、時期別に出土遺物の概要を述べる。

#### 勝山館併行期

##### a. 陶磁器・土師器（20図・1～28、21図・1～7 P L 29・1～21）

陶磁器・土師器は、破片数で503点、個体数で1441個体が出土している。出土した陶磁器は、勝山館が機能していた15世紀中頃～16世紀末頃の年代観を示すものである。

遺物の集計は破片数について接合前の破片数で行い、個体数の算出については口縁部計測法を行った。

なお、口縁部計測法は宇野隆夫氏の方法を参考としている（宇野1981・1992）。

貿易陶磁は、青磁、白磁、染付、赤絵、朝鮮で構成され、破片数で全体の58.4%を占める。その中でも染付、白磁が大半を占め、青磁の比率が少ない。

国産陶磁は、瀬戸・美濃、珠洲、越前、唐津で構成され、破片数で41.6%を占める。その中でも瀬戸・美濃製品が大半を占めている。

貿易陶磁と国産陶磁の比率は、破片数と個体数で貿易陶磁が国産陶磁より高い値を示している。

かわらけは、てづくね成形のもので出土している。

##### 青磁（20図・1～4、P L 29・1～4）

碗（B 4・E類）・皿・盤が出土している。

碗 B 4類は、外面に山形の線描連弁文を施すものが出土している。

皿は、腰折皿と稜花皿が出土しており、稜花皿が圧倒的に多い。

盤は、内外面の胴部にソギを施すものや口縁部に劃線を施すものがみられた。

##### 白磁（20図・5～8、P L 29・5～8）

器種は、碗・皿・坏が出土している。皿は、D群

の丸皿・八角坏とE群の端反皿・反皿・丸皿が出土している。

D群の丸皿は、外面の高台が露胎し、平高台のものと切高台のもので出土している。

##### 染付（20図・9～21）

器種は、碗・皿・坏が出土している。

碗は、端反碗のB群、B・C群、C群、E群が出土し、破片数でC群が全体の7割以上を占めている。

碗 B群は、口縁部が外反し、外面胴部に人馬や昆虫を施すものがみついている。

碗 C群は、外面に芭蕉葉文・列点文・アラベスク等や見込に蓮花等を施しているものがみられた。

碗 E群は、口縁部に圈線を施すものが出土している。

皿は、端反皿 B 1群、碁笥底皿 C群、丸皿 E群が出土している。皿 B 1群は、外面胴部に牡丹唐草を施すものがみられた。見込は玉取獅子や十字花文を施すものが確認された。

皿 C群では、外面の胴部に芭蕉葉文、梵字状の文様や無文のものがみついている。見込には寿文、魚藻文を施すものがみられた。

E群は、内面口縁部に四方禪が施されるものが確認されている。

坏は端反るタイプがみられ、内面口縁部に四方禪を施すものが出土している。

また、群不明とした中には底部から口縁部にかけて外反し、外面が青磁釉・内面に染付を施すものがみられた。

##### 赤絵（20図・22）

唐草文様を施した端反碗が出土している。

##### 朝鮮（21図・1、P L 29・15）

外面に砂と思われる粒が付着した壺が出土している。

##### 瀬戸・美濃鉄釉（20図・23～26、P L 29・9～12）

古瀬戸段階の腰折皿、大窯段階の天目茶碗が出土している。

天目茶碗は、大窯第1段階のものを中心に大窯第3段階の製品までが出土している。

瀬戸・美濃灰釉（20図・27・28、21図・2～4、P L 29・13・14・16～18）器種は、碗・皿・香炉が出土している。

丸碗は、外面に線描蓮弁文を施すタイプとそうで

ない2つが出土している。

皿は、大窯第1段階～2段階の15世紀末～16世紀中頃の製品がみられた。出土した器種は、端反皿が大半を占め、その他反り皿、丸皿などがみつまっている。

#### 珠洲

器種は、胴部破片で播鉢が出土している。

**越前** (21図・5～7、P L 29・19～21)

器種は、甕・播鉢が出土している。甕は、大甕の破片と思われる。

播鉢は、口縁部が内傾する、群相当のものが大半を占めている。

**b．鉄製品** (21図・8～13・15～21・23～25、P L 29・22～25、P L 30・2・4～12)

鋸・釘・小札・小柄・鍋・鎌等が出土している。

鍋は、吊耳や注口が付くもの、その他に丸型の湯口も出土している。

**c．銅製品** (22図・12～27、23図・1・2・6・8～20、24図・5～8、P L 30・25～27、P L 31・1～14・18・20～32・41～44、P L 6・7)

器種は、目貫・小柄・銭他が出土している。

銭の銭種は、開元通寶2点、祥符元寶1点、天禧通寶1点、天聖元寶2点、皇宋通寶2点、熙寧元寶1点、元豊通寶6点、元祐通寶2点、紹聖元寶1点、洪武通寶4点、永樂通寶1点、無文銭23点、輪銭14点、判読不明8点が出土している。

**d．鉛製品** (22図・15、P L 30図・27)

器種は、鉄砲玉状の球形の製品が出土している。また、肉眼による判別で色調などから鉛製品としたが、分析等で材質を明らかにしたい。

**e．鍛冶関連遺物** (P L 32・1～5)

鉄滓・不明溶解物・坩堝が出土している。

鉄滓の総重量は9238.3gで、半球状の椀形のものなどが多数みられた。不明溶解物の総重量は、406.0gである。

**f．木製品** (24図・25～29、P L 6・12)

数珠玉が出土している。中世火葬施設から出土した数珠玉は、幅5mm前後で厚みがみられる。

**g．石製品** (24図・22・23、P L 32・17・18)

砥石・硯・数珠玉が出土している。砥石は、中砥・仕上げ砥の2種類がみられた。硯は、裏面に線刻がみられたが、文字として判読できなかった。

数珠玉は、棗形を呈し、石質が水晶製と思われ、近世土葬墓(土壌9)の副葬品と考えられる。

**h．土製品** (24図・17～21、P L 32・6～10)

羽口の他、円柱形をした土錘が出土している。法量は、長さは約5cm、外径約3.5cm、内径約1.5cmのものが確認された。

**i．骨角器** (24図・11～16、P L 32・11～16)

中柄、鏃、未成品と思われるものが出土している。

**j．自然遺物**

人骨及び魚骨・獣骨や貝の細片、炭化物などが出土している。魚骨等の動物遺存体は、ほとんどが空壕C南東側の魚骨層とした黒色土から出土したものである。

#### 縄文時代

**a．石器**

石鏃・スクレイパーなどが出土している。

**b．縄文土器**

前期後半～後期前葉の遺物が出土している。時期別の遺物では、前期の円筒下層c～d相当が多く出土している。

#### 江戸時代

**a．陶磁器**

16世紀後半～幕末頃の年代観を示す肥前系陶磁器期～期の製品が出土している。

**b．木製品** (24図・25～29、P L 6・12)

数珠玉、棺材が出土している。近世土葬墓の土壌9から出土したものは、扁平な製品である。

棺材は、棺の底面に使用された材が出土している。

**c．鉄製品** (21図・14・22、22図・1～11、P L 30・1・3・13～23)

釘・釣針・銭が出土している。銭の銭種は、箱館通寶1点が確認された。

**d．銅製品** (23図・3～5・7・21～24、24図・1～4・9・10、P L 31・15～17・19・33～40・45・46、P L 6・8・9)

寛永通寶(1期17点・2期9点・3期19点・四文銭2点)が出土している。

表43 勝山館跡 出土遺物観察表

図版	PL	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理
20図-1	P L 29 - 1	11 I 4	空壕C	覆土	青磁	碗	直口碗 龍泉窯系 E類 外面・胴部スス付着 口径13.8cm	09K311I4空CE-120
20図-2	P L 29 - 2	10 I 2			青磁	皿	稜花皿 内面・口縁部劃花文 口径12.5cm	接合 4546
20図-3	P L 29 - 3	11 I 4	空壕C	覆土	青磁	皿	稜花皿 内面・口縁部劃花文 見込露胎 高台裏露胎 口径11.8×器高3.2×底径5.4cm	接合 610
20図-4	P L 29 - 4	10 J 18			青磁	皿	腰折皿 口径10.6cm	09K310J18 E-2
20図-5	P L 29 - 5			表探	白磁	碗	端反碗 E群	09K3表探E-74
20図-6	P L 29 - 6	10 I 2			白磁	皿	反皿 E群 口径12.0×器高2.3×底径6.7cm	09K310I2 E-5
20図-7	P L 29 - 7	11 I 4	空壕C	覆土	白磁	皿	端反皿 E群 高台砂付着 口径11.6×器高2.7×底径6.4cm	09K311I4空CE-53
20図-8	P L 29 - 8			表探	白磁	皿	丸皿 E群 口径10cm	09K3表探E-89
20図-9		11 I 3	空壕C	覆土	染付	碗	蓮子碗 C群 外面・口縁部圏線2条 胴部丸三つ文 内面・口縁部圏線2条 口径14.0cm	09K311I3空CE-42
20図-10		11 I 4	空壕C	覆土	染付	碗	蓮子碗 C群 外面・口縁部波濤文 胴部アラベスク 内面・口縁部圏線1条 口径12.6cm	09K311I4空CE-139
20図-11		10 I 9	08溝4	覆土	染付	碗	蓮子碗 C群 外面・口縁部波濤文 内面・口縁部圏線1条 口径14.8cm	09K310I908溝4 E-57
20図-12		11 I 4		表探	染付	皿	端反皿 B1群 外面・胴部牡丹唐草文 腰部圏線3条 見込圏線2条「獅子」 底径9.6cm	接合 3703
20図-13		10 I 20		表探	染付	皿	端反皿 B1群 外面・口縁部圏線2条 胴部牡丹唐草文 内面・口縁部四方禪 見込四方禪	09K310I20表探E-6
20図-14		11 I 4	空壕C	覆土	染付	皿	C群 外面・口縁部波濤文 胴部芭蕉葉文 内面・口縁部圏線1条 内面・口縁部圏線1条 胴部 文見込圏線2条 外面胴部擦痕有	09K311I4空CE-93
20図-15		11 I 9	空壕C	覆土	染付	皿	C群 外面・口縁部圏線1条 胴部梵字文 腰部圏線1条 内面・口縁部圏線1条 見込圏線1条 口径10.9cm	09K311I9空CE-32
20図-16		11 I 4	空壕C	覆土	染付	皿	C群 外面・口縁部圏線1条 胴部梵字文 圏線1条 内面・口縁部圏線1条 見込 圏線1条「寿」 口縁部煤付着 高台碁筭底 口径11.2×器高3.1×底径4.2cm	接合 4552
20図-17		11 I 4	空壕C	覆土	染付	皿	C群 外面・胴部梵字文 腰部圏線1条 見込圏線1条「寿」 高台碁筭底 底径4.0cm	09K311I4空CE-91
20図-18		10 J 19		表探	染付	皿	C群 外面・口縁部波濤文 胴部芭蕉葉文 内面・口縁部圏線1条 胴部圏線1条見込菊花 高台碁筭底 口径9.4×器高2.5×底径3.2cm	接合 4599
20図-19		11 I 4	空壕C	覆土	染付	皿	端反皿 群不明 外面・口縁部圏線1条 内面・口縁部圏線1条 胴部圏線1条 口径10.8cm	09K311I4空CE-19
20図-20		11 I 4	空壕C	覆土	染付	坏	端反坏 外面・口縁部圏線1条 胴部唐草文 内面・口縁部四方禪 口径6.8cm	09K311I4CE-71
20図-21				表探	染付	坏	端反坏 外面・口縁部圏線2条 胴部唐草文 内面・口縁部圏線1条	09K3表探E-55
20図-22		10 I 7			赤絵	碗	端反碗 外面・口縁部圏線1条 胴部牡丹唐草文 内面・口縁部圏線2条 見込圏線2条 口径14.4cm	接合 4547
20図-23	P L 29 - 9	11 I 4	空壕C	覆土	鉄釉	碗	天目茶碗 大窯第2段階 口径12.4cm	09K311I4空CE-77
20図-24	P L 29 - 10	11 I 4	空壕C	覆土	鉄釉	碗	天目茶碗 大窯第2段階 口径11.8cm	09K311I4空CE-74
20図-25	P L 29 - 11	11 I 3	空壕C	覆土	鉄釉	皿	腰折皿 後・新段階 口径11.4cm	09K311I3空CE-25
20図-26	P L 29 - 12	10 I 7	土壕5	覆土	鉄釉	皿	腰折皿 後・新段階 外面・胴部下スス付着 口径11.8cm	接合 4558
20図-27	P L 29 - 13			表探	灰釉	碗	丸碗A 大窯第1段階前半 外面・胴部剣先連弁文	接合 4597
20図-28	P L 29 - 14	11 I 4	空壕C	覆土	灰釉	碗	2次被熱 大窯第1段階 口径11.4cm	09K311I4空CE-122
21図-1	P L 29 - 15	11 I 4	空壕C	覆土	朝鮮	壺	2次被熱 内・外ともスス付着 口径10.9cm	09K311I4空CE-137
21図-2	P L 29 - 16	6 J 20			灰釉	皿	丸皿 大窯第2段階 口縁煤付着 見込印花 口径11.1cm	接合 4532
21図-3	P L 29 - 17	11 I 4	空壕C	覆土	灰釉	皿	丸皿 2次被熱 大窯第2段階 見込菊花 口径9.3×器高2.7×底径4.6cm	09K311I4空CE-28
21図-4	P L 29 - 18	11 I 4	空壕C	覆土	灰釉	皿	端反皿 大窯第1段階 見込菊花 口径11.2×器高2.65×底径5.9cm	接合 4583
21図-5	P L 29 - 19	10 I 19			越前	播鉢	群a	09K310I19 E-5
21図-6	P L 29 - 20	10 J 18	空壕C	覆土	越前	播鉢	群b 卸目9条	接合 4541
21図-7	P L 29 - 21	11 I 4			越前	播鉢	群b 卸目9条 口径34.8cm	09K311I4空CE-38
21図-8	P L 29 - 22	7 H 16			鉄製品	刃物類	長さ17.15×幅2.86×厚さ0.4cm 重量29.0g	09K37H16 M-1
21図-9	P L 29 - 23	7 H 16			鉄製品	刃物類	長さ12.08×幅1.89×厚さ0.37cm 重量20.3g	09K37H16 M-2
21図-10	P L 29 - 26	11 I 4	空壕C	覆土	鉄製品	小柄	長さ21.85×幅1.5×厚さ0.1~0.5cm 重量55.7g	09K311I4空CM-74
21図-11	P L 29 - 27	11 I 4	空壕C	覆土	鉄製品	鎌	長さ(19)×幅3.03×厚さ0.35cm 重量60.8g	09K311I4空CM-8
21図-12	P L 29 - 24	11 I 4	空壕C	覆土	鉄製品	鍋	吊耳 長さ5.83×幅6.05×厚さ0.62cm 重量79.3g	09K311I4空CM-73
21図-13	P L 29 - 25	11 I 4	空壕C	覆土	鉄製品	鍋	吊耳 長さ3.58×幅8.16×厚さ1.22cm 重量86.2g	09K311I4空CM-40
21図-14	P L 30 - 3	10 I 7	土壕5	覆土	鉄製品	釣針	長さ6.75×幅0.4×厚さ0.4cm 重量4.5g	09K310I7土壕5 M-9
21図-15	P L 30 - 4	11 I 4	空壕C	覆土	鉄製品	鈎	長さ11.8×幅0.7×厚さ0.62cm 重量21.1g	09K311I4空CM-83
21図-16	P L 30 - 7	10 I 7			鉄製品	小札	本小札(13穴) 長さ5.74×幅1.79×厚さ0.38cm 重量7.1g	09K310I7 M-7
21図-17	P L 30 - 8	10 I 7			鉄製品	小札	本小札(13穴) 長さ5.8×幅1.7×厚さ0.12cm 重量6.3g	09K310I7 M-2
21図-18	P L 30 - 9	10 I 7			鉄製品	小札	本小札(13穴) 長さ5.75×幅1.65×厚さ0.15cm 重量6.2g	09K310I7 M-1
21図-19	P L 30 - 10	10 I 2			鉄製品	小札	本小札(13穴) 長さ5.7×幅1.7×厚さ0.2cm 重量5.8g	09K310I2 M-1
21図-20	P L 30 - 11	10 I 12			鉄製品	小札	伊予札(14穴) 長さ5.7×幅2.05×厚さ0.15cm 重量9.7g	09K310I12 M-1
21図-21	P L 30 - 12	11 I 9	空壕C	覆土	鉄製品	小札	三つ目札(端中込札耳札) 長さ(6.5~6.7)×幅30.9×厚さ(0.9~1.2)cm 重量220.5g	09K311I9空CM-72
21図-22	P L 30 - 1	10 I 7	土壕1	覆土	鉄製品	面懸	馬具(左側) 長さ13.23×幅(3.51~9.88)×厚さ0.65cm 重量79.8g	09K310I7土壕1 M-1
21図-23	P L 30 - 2	7 I 11	溝2	覆土	鉄製品	鏝	長さ8.45×幅1.7×厚さ1.49cm 重量32.7g	09K37I11溝2 M-1
21図-24	P L 30 - 5	11 I 4	空壕C	覆土	鉄製品	茶釜	口縁部 長さ(2.7)×幅(4.47)×厚さ(0.5~0.58)cm 重量16.2g	09K311I4空CM-58
21図-25	P L 30 - 6	11 I 4	空壕C	覆土	鉄製品	鍋	口縁部 口径43cm 長さ(8.05)×幅(11.4)×厚さ0.35cm 重量181.9g	09K311I4空CM-48
22図-1	P L 30 - 13		08土壕16	棺内覆土	鉄製品	和釘	底面南西角 棺材付着 長さ6.99×幅0.93×厚さ0.7cm 長さ4.3×幅1.08×厚さ0.62cm 重量12.2g	09K311I408土壕16M-18
22図-2	P L 30 - 14	11 I 4	08土壕16	棺内覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 西角釘(上) 長さ7.15×幅0.5×厚さ0.6cm 重量5.0g	09K311I408土壕16M-15

図版	PL	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理
22図-3	P L 30 - 15		08土壇16	棺内覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 底面頭下 長さ5.54×幅0.5×厚さ0.41cm 重量3.7g	09K311I408土壇16M-13
22図-4	P L 30 - 16	11 I 4	08土壇16	棺内覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 頭下 長さ5.62×幅0.63×厚さ0.46cm 重量1.9g	09K311I408土壇16M-12
22図-5	P L 30 - 17	11 I 4	08土壇16	棺内覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 底面頭下 長さ5.1×幅0.41×厚さ0.42cm 重量3.3g	09K311I408土壇16M-16
22図-6	P L 30 - 18	11 I 4	08土壇16	棺内覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 西角釘(中) 長さ6.4×幅0.58×厚さ0.63cm 重量4.3g	09K311I408土壇16M-15
22図-7	P L 30 - 19	11 I 4	08土壇16	棺内覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 西角釘(下) 長さ4.75×幅0.5×厚さ0.44cm 重量4.2g	09K311I408土壇16M-15
22図-8	P L 30 - 20	8 H 2	土壇9	棺内覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 東角釘(下) 長さ5.9×幅0.4×厚さ0.4cm 重量2.0g	09K38H 2 土壇9 M-14
22図-9	P L 30 - 21	8 H 2	土壇9	棺内覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 東角釘(上) 長さ6.25×幅0.45×厚さ0.45cm 重量2.0g	09K38H 2 土壇9 M-14
22図-10	P L 30 - 22	8 H 2	土壇9	棺内覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 底面南角釘 長さ5.75×幅0.55×厚さ0.5cm 重量1.5g	09K38H 2 土壇9 M-16
22図-11	P L 30 - 23	8 H 2	土壇9	棺内覆土	鉄製品	和釘	底面西角釘 長さ4.35×幅0.35×厚さ0.4cm 重量2.7g	09K38H 2 土壇9 M-12
22図-12	P L 30 - 25	10 I 7			銅製品	柄頭・鏹	木片付 長さ3.1×幅4.75×厚さ0.05cm 重量5.9g	09K310I 7 Cu-1
22図-13	P L 30 - 26	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	目貫	長さ1.3×幅3.15×厚さ0.25cm 重量5.8g	09K311I4空C Cu-3
22図-14	P L 30 - 24	11 I 3	空壕C	覆土	銅製品	小柄	長さ9.6×幅1.65×厚さ5.5cm 重量18.6g	09K311I3空C Cu-2
22図-15	P L 30 - 27	7 H 16			鉛製品	玉	長さ1.2×幅1.3×厚さ1.2cm 重量8.3g	09K37H16 鉛玉-1
22図-16	P L 31 - 1	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	紹聖元寶(篆書) 銭径2.39(2.4)×内径1.83(1.9)cm 量目3.0g	09K311I4空C Z-5
22図-17	P L 31 - 2	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	洪武通寶 銭径2.22(2.2)×内径1.74(1.85)cm 量目2.3g	09K311I4空C Z-4
22図-18	P L 31 - 3	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	元豐通寶 量目1.1g	09K311I4空C Z-6
22図-19	P L 31 - 4	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径2.08(2.11)cm 量目1.8g	09K311I4空C Z-9
22図-20	P L 31 - 5	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.92(1.91)cm 量目0.8g	09K311I4空C Z-9
22図-21	P L 31 - 6	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.97(1.99)cm 量目1.2g	09K311I4空C Z-9
22図-22	P L 31 - 7	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.94(1.92)cm 量目0.8g	09K311I4空C Z-9
22図-23	P L 31 - 8	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.88(1.91)cm 量目0.9g	09K311I4空C Z-9
22図-24	P L 31 - 9	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.92(1.93)cm 量目0.9g	09K311I4空C Z-9
22図-25	P L 31 - 10	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.88(1.88)cm 量目0.8g	09K311I4空C Z-9
22図-26	P L 31 - 11	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.94(1.96)cm 量目0.8g	09K311I4空C Z-10
22図-27	P L 31 - 12	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.92(1.95)cm 量目0.9g	09K311I4空C Z-9
23図-1	P L 31 - 13	11 I 3	空壕C	表探	銅製品	銭	無文銭 銭径1.93(1.91)cm 量目0.8g	09K311I3空C表探Z-9
23図-2	P L 31 - 14	11 I 4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.91(1.91)cm 量目0.8g	09K311I4空C Z-8
23図-3	P L 31 - 15	10 I 2	土壇8	底面	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.42(2.36)×内径1.84(1.8)cm 量目2.2g	09K310I2土壇8 Z-1
23図-4	P L 31 - 16	10 I 2	土壇8	底面	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.47(2.47)×内径1.97(1.96)cm 量目2.4g	09K310I2土壇8 Z-2
23図-5	P L 31 - 17	10 I 7	土壇8	底面	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.46(2.45)×内径1.97(1.92)cm 量目2.2g	09K310I2土壇8 Z-6
	P L 6 - 8	10 I 7	土壇8	底面	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.43(2.43)×内径1.98(1.91)cm 量目2.2g	09K310I2土壇8 Z-3
	下段左 P L 6 - 8	10 I 7	土壇8	底面	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.5(2.5)×内径2.01(1.98)cm 量目1.3g	09K310I2土壇8 Z-4
	下段中央 P L 6 - 8	10 I 7	土壇8	底面	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.48(2.48)×内径2.02(2.02)cm 量目0.6g	09K310I2土壇8 Z-5
	下段右							
23図-6	P L 31 - 18	8 H 2	土壇9	底面	銅製品	銭	元豐通寶(篆書) 銭径2.43(2.51)×内径2.02(2.01)cm 量目2.2g	09K38H2土壇9 Z-2
23図-7	P L 31 - 19	8 H 2	土壇9	底面	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.45(2.45)×内径1.96(1.95)cm 量目3.2g	09K38H2土壇9 Z-2
	P L 6 - 9	8 H 2	土壇9	底面	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.44(2.5)×内径1.91(1.91)cm 量目1.3g	09K38H2土壇9 Z-2
	上段中央 P L 6 - 9	8 H 2	土壇9	底面	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.48(2.52)×内径2.02(2.03)cm 量目1.6g	09K38H2土壇9 Z-2
	下段左							
23図-8	P L 31 - 20	11 I 4	08土壇16	覆土	銅製品	銭	開元通寶(隸書) 銭径2.47(2.47)×内径2.10(2.12)cm 量目2.3g	09K311I408土壇16Z-7
23図-9	P L 31 - 21	11 I 4	08土壇16	底面	銅製品	銭	皇宋通寶(真書) 銭径2.49(2.46)×内径2.0(1.97)cm 量目3.1g	09K311I408土壇16Z-9
23図-10	P L 31 - 22	11 I 4	08土壇16	覆土	銅製品	銭	元豐通寶(行書) 銭径2.37(2.38)×内径1.85(1.85)cm 量目2.5g	09K311I408土壇16Z-13
23図-11	P L 31 - 23	11 I 4	08土壇16	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径1.92(1.91)cm 量目0.5g	09K311I408土壇16Z-1
23図-12	P L 31 - 24	11 I 4	08土壇16	底面	銅製品	銭	輪銭 銭径1.76(1.78)cm 量目0.3g	09K311I408土壇16Z-12
23図-13	P L 31 - 25	11 I 4	08土壇16	底面	銅製品	銭	輪銭 銭径1.64(1.67)cm 量目0.3g	09K311I408土壇16Z-2
23図-14	P L 31 - 26	11 I 4	08土壇16	底面	銅製品	銭	輪銭 銭径1.67(1.69)cm 量目0.3g	09K311I408土壇16Z-4
23図-15	P L 31 - 27	11 I 4	08土壇16	底面	銅製品	銭	輪銭 銭径1.49(1.42)cm 量目0.3g	09K311I408土壇16Z-10
23図-16	P L 31 - 28	11 I 4	08土壇16	底面	銅製品	銭	輪銭 銭径1.72(1.73)cm 量目0.7g	09K311I408土壇16Z-8
23図-17	P L 31 - 29	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	皇宋通寶(真書) 銭径2.43(2.46)×内径1.9(1.92)cm 量目2.1g	09K311I108溝3 Z-24
23図-18	P L 31 - 30	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	熙寧元寶(真書) 銭径2.37(2.39)×内径1.91(1.91)cm 量目2.2g	09K311I108溝3 Z-10
23図-19	P L 31 - 31	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	元豐通寶(篆書) 銭径2.49(2.48)×内径1.79(1.79)cm 量目3.0g	09K311I108溝3 Z-3
23図-20	P L 31 - 32	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	元豐通寶(篆書) 銭径2.4(2.41)×内径2.03(1.98)cm 量目3.1g	09K311I108溝3 Z-13
23図-21	P L 31 - 33	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	寛永通寶2期 裏文 銭径2.53(2.52)×内径1.96(1.97)cm 量目3.1g	09K311I108溝3 Z-20
23図-22	P L 31 - 34	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	寛永通寶2期 裏文 銭径2.55(2.54)×内径2.02(2.02)cm 量目3.6g	09K311I108溝3 Z-21
23図-23	P L 31 - 35	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	寛永通寶3期 裏文 銭径2.21(2.22)×内径1.71(1.69)cm 量目2.0g	09K311I108溝3 Z-11
23図-24	P L 31 - 36	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	寛永通寶3期 裏文 銭径2.26(2.26)×内径1.78(1.75)cm 量目2.3g	09K311I108溝3 Z-9
24図-1	P L 31 - 37	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	寛永通寶3期 裏長 銭径2.33(2.32)×内径1.95(1.92)cm 量目2.4g	09K311I108溝3 Z-12
24図-2	P L 31 - 38	11 J 10	08溝3	覆土	銅製品	銭	寛永通寶3期 銭径2.22(2.28)×内径1.83(1.76)cm 量目1.2g	09K311J1008溝3 Z-1
24図-3	P L 31 - 39	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	寛永通寶 四文銭 裏波 銭径2.82(2.83)×内径2.17(2.1)cm 量目3.9g	09K311I108溝3 Z-18

図版	PL	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理
24図-4	P L 31 - 40	11 I 1	08溝3	覆土	銅製品	銭	寛永通寶 四文銭 裏波 銭径2.83(2.83)×内径2.1(2.07)cm 量目3.8g	09K311I108溝3Z-2
24図-5	P L 31 - 41	10 I 23	08溝4	覆土	銅製品	銭	祥符元寶 銭径2.43(2.39)×内径1.88(1.82)cm 量目2.2g	09K310I2308溝4Z-2
24図-6	P L 31 - 42			表探	銅製品	銭	天禧通寶 銭径2.34(2.34)×内径1.89(1.88)cm 量目2.9g	09K3表探Z-6
24図-7	P L 31 - 43			表探	銅製品	銭	天聖元寶(真書) 銭径2.51(2.65)×内径2.02(2.0)cm 量目3.8g	09K308トレンチ3表探Z-4
24図-8	P L 31 - 44			表探	銅製品	銭	無文銭 銭径1.95(1.88)cm 量目0.7g	09K308トレンチ3表探Z-7
24図-9	P L 31 - 45	8H2			銅製品	銭	寛永通寶 期 銭径2.44(2.44)×内径1.95(1.93)cm 量目3.2g	09K38H2 Z-3
24図-10	P L 31 - 46 P L 32 - 1	7H16 11 I 4	空壕C	表探 覆土	銅製品 鍛冶関連 遺物	銭 鉄滓	寛永通寶 期 銭径2.45(2.45)×内径1.97(1.94)cm 量目3.2g 椀型滓 長さ12.4×幅9.12×厚さ4.75cm 重量588.4g	09K37H16表探Z-3 09K311I4空Cスラッグ-21
	P L 32 - 2	11 I 4	空壕C	覆土	鍛冶関連 遺物	鉄滓	椀型滓 長さ10.08×幅7.41×厚さ6.15cm 重量351.7g	09K311I4空Cスラッグ-48
	P L 32 - 3	11 I 4	空壕C	覆土	鍛冶関連 遺物	鉄滓	椀型滓 長さ11.15×幅10.5×厚さ2.97cm 重量424.1g	09K311I4空Cスラッグ-25
	P L 32 - 4	7 J 15			鍛冶関連 遺物	鉄滓	椀型滓 長さ10.28×幅8.8×厚さ2.39cm 重量226.2g	09K37J15 スラッグ-1
	P L 32 - 5	11 I 3	空壕C	覆土	鍛冶関連 遺物	鉄滓	椀型滓 長さ14.22×幅10.06×厚さ8.06cm 重量1213.5g	09K311I3空Cスラッグ-47
24図-11	P L 32 - 11	11 I 4	空壕C	覆土	骨角器	鏃	長さ9.3×幅2.1×厚さ0.7cm	09K311I4空CB-2
24図-12	P L 32 - 12	11 I 4	空壕C	覆土	骨角器	中柄	長さ9.9×幅0.9×厚さ0.75cm	09K311I4空CB-3
24図-13	P L 32 - 13	11 I 4	空壕C	覆土	骨角器	中柄	長さ11.55×幅0.9×厚さ0.85cm	09K311I4空CB-6
24図-14	P L 32 - 14	11 I 9	空壕C	覆土	骨角器	中柄	長さ13.4×幅0.9×厚さ0.6cm	09K311I9空CB-5
24図-15	P L 32 - 15	11 I 4	空壕C	覆土	骨角器	中柄	長さ13.8×幅1.0×厚さ0.5cm	09K311I4空CB-1
24図-16	P L 32 - 16	11 I 9	空壕C	覆土	骨角器	中柄	長さ15.5×幅1.0×厚さ0.45cm	09K311I9空CB-7
24図-17	P L 32 - 6	11 I 4	空壕C	覆土	土製品	羽口	長さ(6.6)×幅(7.55) 重量116.3g	09K311I4空C羽口-3
								09K311I3表探羽口-2
24図-18	P L 32 - 7	11 I 4	空壕C	覆土	土製品	埴塼	口径9.4×器高2.4cm 重量35.3g	09K311I4空C埴塼-1
24図-19	P L 32 - 10	10 I 7			土製品	土錘	長さ5.63×幅3.72×厚さ1.6cm 重量70.8g	09K310I7 土錘-1
24図-20	P L 32 - 8	10 I 19			土製品	土錘	長さ3.96×幅3.08×厚さ1.11cm 重量43.5g	09K310I19土錘-1
24図-21	P L 32 - 9	11 I 3		表探	土製品	土錘	長さ4.54×幅3.19×厚さ1.21cm 重量50.8g	09K311I3表探土錘-1
24図-22	P L 32 - 17	11 I 4	空壕C	覆土	石製品	砥石	中砥 長さ(4.83)×幅4.3×厚さ1.42cm 重量34.3g	09K311I4空CS-5
24図-23	P L 32 - 18	7 I 15			石製品	硯	長さ9.1×幅4.58×長さ1.1cm 重量70.5g	09K37I15 S-1
								08K38H2 S-1
24図-24	P L 32 - 19	8H2	土壕9	覆土	水晶製品	数珠玉	長さ1.08×径(0.5~0.85)cm 重量1.0g	09K38H2土壕9S-1
24図-25	P L 32 - 20	8H2	土壕9	覆土	木製品	数珠玉	長さ0.7×幅0.5×厚さ0.15cm	09K38H2土壕9W-3
24図-26	P L 32 - 21	8H2	土壕9	覆土	木製品	数珠玉	長さ0.6×幅0.8×厚さ0.15cm	09K38H2土壕9W-2
24図-27	P L 32 - 22	10 I 3	土壕6	覆土	木製品	数珠玉	長さ0.52×幅0.65×厚さ0.35cm	09K310I3土壕6W-1
24図-28	P L 32 - 23	10 I 3	土壕6	覆土	木製品	数珠玉	長さ0.52×幅0.65×厚さ0.5cm	09K310I3土壕6W-2
24図-29	P L 32 - 24	10 I 3	土壕6	覆土	木製品	数珠玉	長さ0.55×幅0.65×厚さ0.5cm	09K310I3土壕6W-3

表44 勝山館跡 出土遺物集計表

時期	種類	器種	破片数	時期	種類	器種	破片数
勝山館跡併行期	陶磁器	舶載	293	勝山館跡併行期	石製品	砥石	16
		国産	208			硯	1
	土師器	皿(かわらけ)	2			礫石器	5
		小計	503			不明	2
	鉄製品	鋸	1		小計	24	
		鎌	3		土製品	土錘	6
		縮金具	1			羽口	17
		釘	51		小計	23	
		鉤	1		木製品	漆	5
		刀子	1			自然遺物	魚骨・獸骨他
		小札	15	炭化物他	17		
		小柄	6	小計	186		
		茶釜	1	合計	1104		
		包丁	1	縄文時代	縄文土器	b群	10
		包・小柄	1			a群	15
		鍋	48			b群	2
		火箸	2			群不明	1
		刃物	2		小計	127	
		鍬	1		石器	剥片石器	59
		釣針	2			礫石器	1
		鉄	1	小計	60		
	不明	6	合計	215			
	小計	144	江戸時代	陶磁器	釘	47	
	銅製品	目貫			1	鉄製品	馬具
		小柄		1	小札		5
		束頭・小尻		1	釣針		1
		不明		2	鉤		1
		錢		69	小計		103
	小計	74		銅製品	錢	47	
	鉛製品	玉			1	木製品	纖維
鐵滓		84			板		1
鐵冶	不明溶解物	43			数珠玉	8	
	坩堝	1	小計		11		
	小計	128	石製品	数珠玉	1		
骨角器	鍬	1		自然遺物	人骨他	63	
	中柄	10	合計	271			
	不明	3	總計	1591			
未製品	2						
小計	16						

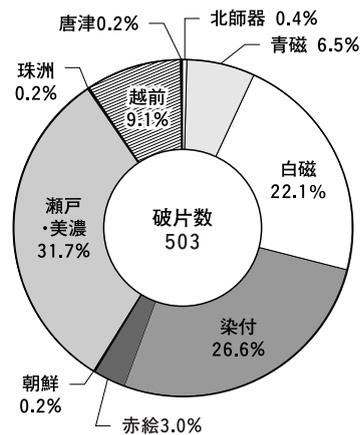


図1 中世土器・陶磁器 種類別組成比(破片数)

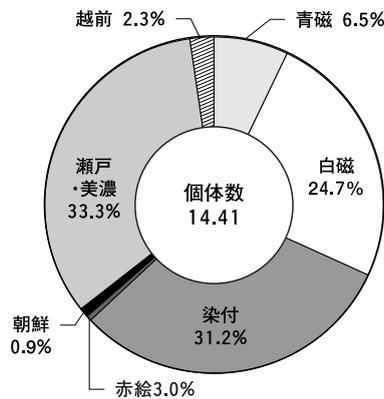


図2 中世土器・陶磁器 種類別組成比(個体数)

表45 中世土器・陶磁器 種類・器種別組成表(全体)

種類	器種	破片数	個体数
青磁	碗	17	0.27
	皿	14	0.72
	盤	2	0.00
小計		33 [6.5%]	1.02 [7.1%]
白磁	碗	1	0.04
	皿	102	3.42
	坏	8	0.10
小計		111 [22.1%]	3.56 [24.7%]
染付	碗	43	0.84
	皿	88	3.46
	坏	2	0.22
小計		133 [26.6%]	4.49 [31.2%]
赤絵	碗	15 [3.0%]	0.07 [0.5%]
朝鮮	壺	1 [0.2%]	0.13 [0.9%]
瀬戸・美濃鉄釉	碗	11	0.92
	皿(窯窯)	3	0.27
小計		14 [2.8%]	1.19 [8.3%]
瀬戸・美濃灰釉	碗(大窯)	24	0.26
	皿(大窯)	120	3.35
	香炉	1	0.00
小計		145 [28.9%]	3.61 [25.0%]
珠洲	播鉢	1 [0.2%]	0.00
越前	襖	2	0.00
	播鉢	45	0.34
小計		47 [9.1%]	0.34 [2.3%]
唐津	皿	1 [0.2%]	0.00
土師器	皿	2 [0.4%]	0.00
總計		503 [100%]	14.41 [100%]

表46 青磁 器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数	個体数
青磁	碗	龍泉窯系B4類	6 [35.3%]	0.05 [16.7%]
		龍泉窯系E類	3 [17.6%]	0.19 [63.3%]
		龍泉窯系不明	8 [47.1%]	0.06 [20.0%]
	皿	腰折皿	1 [7.2%]	0.10 [13.9%]
		稜花皿	13 [92.8%]	0.62 [86.1%]
	盤	龍泉窯系	2	0.00
小計		33	1.02	

表47 白磁 器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数	個体数
白磁	皿	D群	3 [2.9%]	0.00 [0.0%]
		E群	99 [97.1%]	3.42 [100%]
		群不明	3 [7.0%]	0.00 [0.0%]
	坏	E群	3 [37.5%]	0.06 [60.0%]
		D群	5 [62.5%]	0.04 [40.0%]
碗		1	0.04	
小計		111	3.56	

表48 染付 器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数	個体数	
染付	碗	B群	2 [4.7%]	0.00 [0.0%]	
		B・C群	1 [2.3%]	0.00 [0.0%]	
		C群	37 [81.3%]	0.76 [90.4%]	
		E群	2 [4.7%]	0.08 [9.6%]	
		群不明	3 [7.0%]	0.00 [0.0%]	
		小計		45	1.54
	皿	B1群	42 [47.8%]	0.88 [25.6%]	
		C群	37 [44.4%]	1.31 [38.2%]	
		E群	1 [1.1%]	0.00 [0.0%]	
		群不明	6 [6.7%]	1.24 [36.2%]	
		坏		2	0.22
		小計		133	4.49

## IV 自然科学分析

### 1. 上ノ国町勝館山遺跡における平成20・21年度出土人骨について

松村博文・松田律史・堀江由美（札幌医科大学）

上ノ国町勝館山遺跡の平成20年度および21年度におこなわれた発掘調査において出土した人骨について、保存状態と人類学的所見を記す（PL1・4・5、10）。人骨の時期は土壌により異なるが、中世から近世であり、以下個別に記されるように、形態学的観察が可能であった被葬者については、すべて和人の特徴がみいだされた。保存状態の良好な人骨については、その頭蓋と四肢骨について写真図版を掲載した。推定された被葬者の年齢区分は、壮年が20 - 39歳、熟年が40 - 59歳、老年が60歳以上におおむね相当する。

#### 土壌2

中世の可能性が考えられているが、確かな時期は判明していない。埋葬様式も不明。乳臼歯と歯根が形成されていない永久歯の歯冠が検出されている。従って年齢は1歳～2歳と推定される。性別は不明である。切歯は強いシャベル形を呈することから、被葬者は和人と推定される。

#### 土壌3（PL11）

江戸時代の土壌とされる。被葬者は仰臥屈葬の姿勢で木棺墓に納められていた。人骨の保存状態は比較的良好であり、頭蓋と四肢・体幹骨が残存する。全体的に頭蓋と四肢ともにサイズはさほど大きくはないが、脳頭蓋は頑丈な形態を呈し、眉間の隆起や額の傾斜、乳様突起の大きさは典型的な男性の特徴を示している。頭蓋の主縫合の閉鎖は内面のみ完全であり、また歯の咬耗が進行していることなどから、被葬者の年齢は壮年後半に達していたと推定される。

顔面骨が復元できなかったため、その特徴を見いだすのは困難であったが、上顎切歯が強いシャベル形を呈することから、被葬者は和人とみて差し支えない。以下に部位ごとの所見を記す。

#### 頭蓋

保存状態は、前頭骨、頭頂骨、側頭骨、頭蓋底の左側の破損が著しく、復元できたのは主に右側のみであった。顔面頭蓋については、墓壇内では原形を確認することができたが、非常にもろく、取り上げクリーニングの後は復元が困難であった。比較的良好に残存するのは上顎骨の一部のみであった。下顎は多くの部位が良好に残存するが、両側の下顎角と左側の下顎枝の破損が著しい。

（前面観）前頭結節は弱が、眉間と眉弓は明瞭に隆起し、鼻根部はやや陥凹する。前頭縫合鼻上痕跡は認められない。前頭骨頬骨突起の張り出しは中程度。眼窩上縁は外側下方にやや傾斜し、やや円みを呈する。眼窩上孔は左右ともない。頬骨の横への張り出しは中程度である。

（側面観）額の傾斜は強く男性的である。乳様突起は大きい。外耳孔の形態は楕円形を呈する。側頭下陵は明瞭である。

（後面観）外後頭隆起は明瞭であるが、さほど強く隆起はしていない。上項線は明瞭である。下項線は破損のため不明。項平面は粗く男性的である。

（上面観）矢状縫合、ラムダ縫合ともに、鍵歯の数は中程度であり、走行はやや複雑である。これらの縫合の癒合は内面のみ完全である。頭蓋最大長は200mmと大きく、長頭の傾向を示す。

/	7	6	5	4	3	2	1	/	/	3	4	/	6	/	8
8	7	6	5	4	3	2	/	/	2	3	4	5	6	/	8

/ : 歯、歯槽ともに残存せず、 : 歯槽開放 歯は残存せず、X : 歯槽閉鎖

(下顎骨) 男性としては華奢である。オトガイ高は低く、オトガイ隆起の発達も比較的弱い。オトガイ三角もやや不明瞭であり、オトガイ結節は弱い。下顎切痕はかなり深い、角前切痕は浅い。下顎角はやや外反する。左右ともに副オトガイ孔は認められない。

(歯) 残存する歯種は以下の歯式に示されるとおりである。

咬耗は第1大臼歯がプロカの3度で象牙質が大きく露出している。そのほかの歯は2度弱である。右下顎第2大臼歯は歯槽が閉鎖しつつあり、脱落して間もないことがわかる。歯石およびカリエスは認められない。上顎中切歯は強いシャベル形を呈し、和人の特徴を示す。

四肢骨

(上肢) 鎖骨は右側の一部のみ残存するが、肩甲骨は原形をとどめない。上腕骨は両側とも残存するが、骨頭は欠損する。三角筋粗面は強く発達している。橈骨は破損が著しく、左右の尺骨も近位の関節部が残されているのみであった。手指の骨も一部が残存するのみである。

(下肢) 寛骨は腸骨の一部のみ保存されている。脛骨、大腿骨、腓骨とも左右残存するが、両端が完全に保存されている下肢長管骨はない。そのなかで右の大腿骨と脛骨が多くを維持している。大腿骨粗線、殿筋粗面、脛骨ヒラメ筋線はよく発達している。大腿骨と脛骨の骨幹はあまり例をみないほどに内側への弯曲が強いのが特徴的である。左右足根骨、足指の骨は良好に残存する。距骨には蹲踞面が認められる。脛骨について左右の欠損部を補うことによって推定される全長は365mmである。藤井の身長推定式を適用すると、推定身長は163.7cmとなる。

体幹骨

椎骨は頸椎がよく残っている。しかし椎体が完全に近い形で保存されているのは1点のみであった。胸椎も保存されている、腰椎は破損が著しい。残存する椎体にリップングは認められない。肋骨は部分的に保存されている。

土壌5

1668年以降の江戸時代の屈葬土壌とされる。右の大腿骨、腓骨、脛骨および足の一部のみ検出されている。大腿骨頭は大きく、その直径は46mmであり、男性の平均的サイズに相当する。骨体も太く頑丈であることから、被葬者は成人男性の可能性が高い。年齢は不明である。

土壌7 ( P L 11 )

時期は1640年以前の中世から近世初頭とされる。埋葬様式は側臥屈葬の木棺墓である。保存状態は良くはないが、頭蓋と四肢・体幹骨の一部が残存する。歯の咬耗が2度程度まで進行していることから、年齢は壮年後半、大腿骨の骨頭径の大きさから性別は男性と推定される。顔面形態の特徴と強いシャベル形切歯を有することから、被葬者は和人とみなしてよい。

頭蓋

脳頭蓋はほぼ欠損しており、右側の側頭骨や後頭骨の一部を残すのみである。顔面頭蓋は右側において残存しているが、傍正中部の上顎骨は欠損している。下顎骨も右側は保存されているが、左側は大臼歯を含む歯槽のみ残存する。

(前面観) 鼻根部は破損しているが平坦であった形跡がうかがえる。前頭骨頬骨突起の張り出しは中程度。眼窩縁は円形を呈し、これらの点で明らかに和人の特徴を有しているといえる。

(側面観) 額の傾斜は不明。乳様突起は中程度の大

X	/	6	5	4	3	2	1	1	/	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	/	2	3	/	5	6	7	8

/ : 歯、歯槽ともに残存せず、 : 歯槽開放 歯は残存せず、 X : 歯槽閉鎖

きさである。外耳孔の形態は楕円形を呈する。側頭下陵は明瞭である。

(後面観・上面観)多くの部位が破損しているため所見は得られなかった。

(下顎骨)男性としては、ややサイズが小さいほうである。オトガイ高は低く、オトガイ隆起の発達も比較的弱い。オトガイ三角もやや不明瞭であり、下顎体はさほど高くはない。下顎切痕は中程度の深さであり、角前切痕は浅い。下顎角は強く外反し、翼突筋粗面も発達している。下顎枝は幅広く、後方への傾斜は弱い。左右ともに副オトガイ孔は認められない。

(歯)残存する歯種は以下の歯式に示されるとおりである。

咬耗は第1大臼歯がブロカの3度、そのほかの歯は2度弱である。右上顎第3大臼歯は先天的欠如、両側の下顎第3大臼歯は歯軸が近心に強く傾斜しているため、萌出できないまま歯槽に埋もれた状態にある。左下顎第1大臼歯は重度の齲歯のため、歯冠のほとんどが失われている。上顎中切歯はかなり強いシャベル形を呈し、明らかに和人の特徴を示している。

#### 四肢骨

(上肢)鎖骨と肩甲骨は左側が良好に残存する。上腕骨と橈骨、尺骨も左側において骨幹のみ比較的保存状態が良い。上腕骨の三角筋粗面は中程度の発達である。指骨も部分的に残存する。

(下肢)寛骨は右側が良く残っているが、後方の破損が著しい。性別の特徴を示す大坐骨切痕も破損しておりその形状は不明である腓骨は破損が著しいが、大腿骨と脛骨は、右大腿骨以外は遠位端は破損が著しい。大腿骨頭の直径は47mmあり、男性的サイズである。大腿骨粗線、殿筋粗面、脛骨ヒラメ筋線の発達は平均的である。右の大腿骨全長は442mmであり、

藤井の身長推定式を適用すると、推定身長は164.1cmとなる。

#### 体幹骨

上位の椎骨の保存状態が良い。リップングは認められない。肋骨も部分的に残存する。

#### 土壌9

江戸時代の屈葬土壌である。大腿骨の骨体の一部のみ残存する。粗線は明瞭だが骨体は細く華奢であることから成人女性あるいは性別不明の未成人である可能性がある。

#### 土壌10(PL12)

仰臥伸展葬で埋葬されていた中世末~近世初頭の土壌と推定されている。頭蓋は破損が著しいが、多くの部位が残存する。顔面は特に破損が著しく、復元は困難であった。下顎骨は左側が良好に保存されている。四肢は右上腕骨の骨幹の一部のみ保存されている。残存する歯は、次の歯式のとおりである。脳頭蓋の矢状縫合は内外板とも完全に癒合しており、多くの臼歯が生前脱落し歯槽が閉鎖していること、残る歯の咬耗も歯冠は失われ4度に達していることから、被葬者は老人であると推定される。乳様突起はかなり小さく、外後頭隆起は弱く、項平面はなめらかであり、頭蓋全体、下顎、四肢ともに小さく華奢であることから性別は女性と推定される。

伸展葬で埋葬されていることからアイヌの可能性も検討課題となっている。保存状態が不良でも歯冠計測値から帰属集団を統計学的に判別できるが、この被葬者の場合は計測に耐えないほど歯冠が咬耗しているため、この方法で確認することは困難である。両者の違いが著実に認められる顔面の形態に注目してみると、前頭骨にみられる眼窩上縁は円く、鼻根部はかなり平坦である。これらの顔面形態はむしろ

X	7	6	/				/	/	/	/	5	6	7	X
X	7	X	/	/	/				3		X	X	7	X

/ : 歯、歯槽ともに残存せず、 : 歯槽開放 歯は残存せず、 X : 歯槽閉鎖

和人の特徴を示す。

### 土壌13

側臥屈葬の木棺墓とされるが、人骨はほとんど残存していない。

### 土壌16 ( P L 12 )

土壌の時期は16世紀後半頃とされる。側臥屈葬ではあるが、後述するように特定部位の欠損と残る部位にも解剖学的位置関係にずれがある。寛骨の形態から明らかに女性である。歯の咬耗がほとんどないこと。四肢骨のうち尺骨の遠位端のみが癒合完成していないことから、年齢は15~17歳ほどと推定される。墓壇では、上肢と下肢はそれぞれ解剖学的位置を保ってはいたが、両肢の配置に大きなずれがあること、保存状態は極めて良好にもかかわらず、右上肢と下顎骨および多くの歯が全く残存しないこと、などから被葬者は主関節が連結しているミイラ状態にあって、上肢と下肢と体幹ならびに頭蓋と下顎が部分的に分離され、これらの一部が失われた状態で再埋葬された可能性が示唆される。顔面の形状は平坦で正方形に近い眼窩など明らかに和人の特徴を示す。

### 頭蓋

顔面頭蓋、脳頭蓋ともにほぼ完全な形で保存されている。ただし下顎骨は墓壇から検出されていない。全体的に小さく華奢であり、このことから成人に達していないことがうかがえる。

(前面観) 前頭結節は弱く、眉間と眉弓ならびに鼻根は平坦である。前頭縫合鼻上痕跡は認められない。前頭骨頬骨突起の張り出しは小さい。眼窩縁はやや円みをおびているが正方形に近い形状である。眼窩上孔は左右とも認められる。頬骨の横への張り

出しは弱い。

(側面観) 額の傾斜は弱い。乳様突起は小さい。外耳孔の形態は楕円形を呈する。側頭下陵はやや不明瞭である。

(後面観) 外後頭隆起は不明瞭で平坦である。上項線、下項線とも不明瞭である。項平面はなめらかである。

(上面観) 矢状縫合、ラムダ縫合ともに、鍵歯の数は中程度であり、走行は単純である。縫合の癒合は全く認められない。

(歯) 残存する歯種は以下の歯式に示されるとおりである。

咬耗は第1大臼歯以外の歯では1度にも達していない。第3大臼歯は残存しないが、歯槽内で形成されていた形跡が認められる。歯石およびカリエスは認められない。

### 四肢骨

(上肢) 左側のみ検出されている。上腕骨と尺骨の保存はほぼ完全である。いずれも細く華奢であり、尺骨の遠位端は癒合していない。従って被葬者は成人には達していないことが明らかである。肩甲骨は原形をとどめない。手指の骨は一部が残存するのみである。

(下肢) 寛骨は左右とも多くの部位が良好に残存する。大坐骨切痕は大きく開き、明らかに女性の特徴を示す。脛骨と大腿骨は、左右とも完全である。左右足根骨、足指の骨も良好に残存する。大腿骨全長は410mmであり、藤井の身長推定式を適用すると、推定身長は152.8cmとなる。

### 体幹骨

多くの椎骨は椎体が完全に近い形で保存されている。肋骨は破損が著しいが多くが残存する。

7	6	5	/	/	/	/	/	/	/	/	5	6	7
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

/ : 歯、歯槽ともに残存せず、 : 歯槽開放 歯は残存せず、 X : 歯槽閉鎖

## 2. 上ノ国町久末屋敷遺跡出土の中近世人骨

石田 肇・(札幌医科大学)・松村博文(国立科学博物館)・佐倉 朔(札幌学院大学)

檜山郡上ノ国町の久末屋敷遺跡にて中近世の1号土壌ならびに4号土壌から人骨が検出された。以下に保存状態ならびに所見を述べる。なお1号土壌出土の人骨を1号人骨、4号土壌出土の人骨を2号人骨とした(PL7)。

### 1号人骨

**保存状態:** 頭蓋および体幹・四肢骨が残存するが、ほとんど糊状になっているので、計測は困難であった。

**性別と年齢:** 性別は女性。第3大臼歯がはえていること、咬耗が第1大臼歯で2度、第2大臼歯で1から2度、第3大臼歯で1度であることから、この個体の年齢は、壮年後半と考えられる。

**頭骨所見:** 前頭骨、頭頂骨、鼻骨の一部、右頬骨、上顎骨、左側頭骨、後頭骨底部および下顎骨がある。頭蓋冠はゆがんでいるが、縫合でつながっている。頭蓋は長頭型である可能性が高い。眉間と眉弓はやや発達しているが、眉間の膨らみがやや強い。眼窩は歪みがひどく、計測は不可能である。鼻高は計れないものの、鼻幅はおよそ26mm。後頭骨底部に第3後頭顆が認められる。左舌下神経管に二分なし。下顎骨は、下顎体のみで、左右下顎枝を欠く。おとがいが発達する。副オトガイ孔はないが、弱い下顎隆起がある。歯は以下の歯式に示される歯種が残存する。歯冠計測値は表に示されるとおりである。

上顎中切歯は弱いシャベル型を示す。基底結節はない。犬歯も弱いシャベル型を呈する。小白歯の歯根は単根。歯冠に介在結節はない。上顎第1大臼歯にはカラベリーの結節も認められない。第1大臼歯

の咬合面の溝はY5型、第2大臼歯は+4型を呈する。咬耗は1ないし2度。上顎右第1大臼歯の歯冠の近心隣接面にカリエスが認められる。歯石はない。第3大臼歯は左右ともほう出済みで、咬耗は1度強である。全体的に歯冠は小さく、特に小白歯が小さいこと、また上顎切歯のシャベルも発達が弱いこと、下顎第2大臼歯が4咬頭性を示し、歯冠もかなり小さいことなどは、第3後頭顆がみられることも合わせて、典型的なアイヌの特徴を示している。

**四肢骨所見:** 右鎖骨の外側半がある。右大腿骨の骨体がかろうじて計測できた。骨体横径は26.8mm、矢状径は29.6mmで、横断示数は110.4となり、形態的にも柱状形成が認められる。その他の上肢、体幹骨は残存するが、糊状のため、形質は不明である。

**統計学的分析:** 被葬者は形態学的観察から女性と推定されているが、より客観的に性別分析を行うために、歯冠計測値を用いて性別分析をおこなった。被葬者が和人と仮定した場合とアイヌと仮定した場合に分けて分析を行った。結果は表2に示されるとおりである。

まず、近世アイヌのデータをもとに判別分析を行った結果、51.0%の事後確率で女性であるという結果が得られた。一方、和人の代表として関東地方の江戸時代をもとにして性別分析を行った結果、99.9%の確率を伴って女性と判別された。従ってもし和人とすれば被葬者は女性であることは間違いのない。もしアイヌであるとする女性と判別されたものの、残念ながら事後確率が低く、歯冠径による判別分析からは性別を判断しがたい。形態学的観察から女性とされたので、この判別に頼る他はない。

次に、被葬者がアイヌか和人のどちらの系統に属

/	/	6				3	2	1			3	4	5	6	
8	7	6	5	4	3							4	5	6	7

/ : 破損のため不明、

: 歯は失われているが歯槽は開放

するかを推定するために、同じく歯冠径をもとに系統判別分析を行った。和人の代表としてこの個体を女性として関東地方江戸時代のデータを用い、判別分析を行ったところ、99.8%の確率でアイヌであると判別された。詳細は先に同じく表2に示されておりである。

#### 2号人骨

**保存状態：**頭蓋冠と下顎骨、寛骨と四肢骨の一部がかろうじて原形をとどめるが、ほとんど湖状になっており復元も計測も困難であった。

**性別と年齢：**性別は女性。上顎第2大臼歯の咬耗が1度、上顎第3大臼歯がほう出しているが咬耗がほ

とんどないことから、この個体の年齢は、壮年前半と考えられる。

**頭骨所見：**頭蓋はほとんど粉状である。下顎体は華奢である。歯は泥が付着したまま溶剤で固められているので形態は不明、また歯冠径の計測も不可能であった。残存する歯種は以下の歯式のとおりである。

**四肢骨所見：**骨盤全体はかろうじてその形を残しているが、大坐骨切痕の形態は不明。左右の大腿骨は残存しているが、計測はほとんど不可能であった。右大腿骨の最大長は410から430mmの間で、骨体横径はおよそ28mmである。脛骨は左右とも計測不可能。

8	7	/	5	4	3	2	1	/	?	?	?	?	?	?	?
8	7	6	5	4	3	2	1	1	?	?	?	?	?	?	?

?: 固められた土中に埋もれており不明。

表1 久末屋敷遺跡出土1号人骨の歯冠計測値(mm).

歯冠近遠心径			歯冠頬舌径		
	左	右		左	右
U I 1		8 .05	U I 1		6 .97
U I 2		6 .81	U I 2		6 .33
U C	7 .56	8 .03	U C	7 .92	7 .97
U P 1	6 .61		U P 1	8 .93	
U P 2	6 .08		U P 2	8 .45	
U M 1	9 .83	10 .02	U M 1	11 .45	
U M 2			U M 2		
L I 1			L I 1		
L I 2			L I 2		
L C		6 .52	L C		7 .74
L P 1	6 .34	6 .37	L P 1		7 .54
L P 2	6 .50	6 .34	L P 2	7 .54	7 .24
L M 1	10 .82	10 .95	L M 1	10 .99	10 .95
L M 2	10 .29	10 .19	L M 2	10 .09	10 .03

表2 歯冠径にもとづく久末屋敷遺跡1号人骨の性別および系統判別の結果

基データ	性別判別関数		系統判別関数
	和人	アイヌ	アイヌ+和人
歯冠近遠心径			
U C	2 .153	- 2 .088	1 .602
U P 1	- 3 .303	- 3 .650	0 .358
U P 2	0 .792	1 .014	- 0 .545
U M 1	0 .534	3 .230	- 1 .806
L C	- 0 .579	6 .068	- 6 .268
L P 1	- 0 .172	- 0 .148	2 .871
L P 2	0 .622	1 .612	- 2 .190
L M 1	- 0 .436	1 .817	- 3 .164
L M 2	0 .793	- 0 .561	2 .374
歯冠頬舌径			
U C	0 .287	0 .741	1 .835
U P 1	- 2 .798	3 .598	- 2 .514
U P 2	3 .136	- 0 .250	- 5 .016
U M 1	- 1 .276	0 .358	- 0 .380
L C	- 0 .218	3 .627	- 5 .138
L P 1	1 .478	- 5 .183	3 .517
L P 2	2 .925	- 1 .496	2 .630
L M 1	- 0 .324	- 4 .888	6 .579
L M 2	- 0 .484	- 0 .112	0 .366
定数	-23 .613	-24 .565	26 .966
正答率	99 .90%	100 .00%	100 .00%
判別得点	4 .179	0 .362	0 .805
判別結果	女性	女性	アイヌ
事後確率	99 .90%	51 .00%	99 .83%

### 3. 上ノ国町笹浪屋敷遺跡出土の擦文時代人骨

札幌医科大学医学部解剖学第2講座・石田 肇

今回出土した人骨は比較的保存がよいが、計測についてはほとんど不可能であった。また、歯が残っていないことも、形質を解明するには残念な点であった。擦文時代人骨の発見例は少なく、今後の研究発展のための大事な一資料と考えられるので、ここに報告する(PL8)。

**保存状態:** 全身が残存するが、骨そのものの保存状態は悪く、歪みがひどく計測できた箇所はかぞえるほどだった。

**性別と年齢:** 性別は男性と考えられる。年齢は成人であるが、下顎骨の形態からみて、やや年を取った個体かと思われる。

**形質:** 頭蓋は全体が残る。最大長は、およそ180mm。前頭縫合はない。眉間が発達し、眉弓よりもふくらむ。鼻骨は彎曲が強く、高く、いわいる、鼻が立派な個体であった。眼窩は歪んでいるが、眼窩幅が40mm、眼窩高が27mm程度である。鼻幅、鼻高は計測不可能。上顔高は58mm以上。上顎歯槽部が小さい。側頭線は前頭部で強く発達していて、乳様突起も大きい。

下顎骨の下顎枝幅は35.4mm、高さは46.0mmである。下顎枝の幅が広く、その割に高さが低い。

角前切痕が認められる。下顎体が大臼歯のあるあ

たりで退縮している。

上腕骨の骨体中央径は、28mm、大腿骨の骨体中央径は、33mmほどで、大きい。正確ではないが、脛骨と大腿骨の最大長の比は、およそ80から82となり、相対的に脛骨が長い。また、身長は、埋葬の状態から直接計って、150cm程度と考えられた。このように、この人骨はアイヌにつながり形質を持つと、結論できる。

歯が残存せず、DNA鑑定は、できなかった。

**まとめ:** 擦文時代出土の人骨が少ないことはすでに述べたとおりである。今まで、発見された比較的良質な人骨としては、有珠善光寺遺跡出土の人骨があり、他に、千歳市ウサクマイ遺跡A地点、千歳市末広遺跡出土の人骨などがある。有珠善光寺の人骨は計測値から、アイヌよりも現代日本人に近いとされていたが、その後の分析で、アイヌに近いのではと考えられている。ウサクマイ遺跡A地点の人骨の下顎骨の形質には、アイヌに通じるものがあるとされている。今回の笹浪屋敷遺跡の人骨も、アイヌにつながる形質が見られたことから、いままでの例を合わせて、擦文時代には、すでにアイヌにつながる形質が現れていたことが、ますます、はっきりしたと言えそうである。

## 4 . 勝山館出土人骨の歯の人類学的所見

国立科学博物館 人類研究部 松村博文

### 緒言

上ノ国町からは、これまでに北海道では発見例のきわめて少ない中世の人骨が出土しており、15世紀に築かれたとされる州崎館あるいは勝山館などの館跡からの出土人骨の報告がなされている(百々・松崎, 1982; 百々・鈴木, 1983)。保存状態の良好な頭骨はそれぞれ男性1体ずつが発見されており、所見によるとこれらの人骨は長頭の傾向を示すこと、眼窩が高く輪郭が円いこと、また鼻根部が平坦であることなどアイヌよりも中世の和人の特徴が強いとされる(PL9)。歯の形態についてはこれまで所見が得られていなかったが、歯も和人かアイヌかを判定するための指標となるので無視できない。今回、勝山館7号頭骨の歯の形態の観察ならびに計測を行う機会に恵まれたのでその結果を報告する。なお歯冠径の比較データはMatsumura(1994)を用いた。

### 所見

残存する歯種は、百々らがすでに歯式を記載しているように、左右ともに第3大臼歯以外のすべての歯がそろっている(PL9)。咬耗は1度ほどである。形態学的所見としては、まず歯の大きさが歯冠近遠心径および歯冠頬舌径とも小さいことである(表1)。江戸時代における関東地方の和人を基準とした歯冠近遠心径の偏差折線図に示されるように(図2)、どの歯も和人はもとよりアイヌ男性の平均よりも小さい。歯冠径のパターンは、小臼歯や第2大臼歯が特に小さいことなどアイヌと良く類似している。非計測的形態に関しては、まず上顎中切歯の舌側面がシャベル状を呈するものの、その発達は弱いことが挙げられる。唇側面には複シャベルは認められない。基底結節も認められない。上顎小臼歯に介在結節はなく、第1大臼歯にカラベリーの結節も認められない。下顎第1大臼歯歯冠頬舌径に副咬頭はなく、第2大臼歯の咬合面の溝は+5型を呈する。歯石およびカリエスは無い。

### 考察

歯の形態は、サイズは小さく、全体的な大きさのプロポーションは小臼歯や第2大臼歯が相当に小さ

いこと、上顎中切歯のシャベルの発達が弱く、他の歯も含めてその形態が単純であることなど典型的なアイヌの特徴を有している。このことをさらに客観的に確認するため、歯冠径を用いてアイヌと和人の判別分析を行った。結果は表2に示される。切歯を除くすべての歯冠径をもとにステップワイズ法で選択された変数は6項目であり、正答率は96%であった。判別得点は正の値なら和人、負であればアイヌと判別されるが、この判別関数を勝山館7号人骨の歯冠径に適用したところ、負の値が得られアイヌと判別された。しかもこの個体がアイヌである確率は89%とかなり高いものであった。

以上、歯の形態だけからみると、この個体は明らかにアイヌであるが、頭骨形態は百々らが指摘しているように、アイヌの特徴は少なく、むしろ和人的傾向が強い。このことをどう解釈したらよいであろうか。考えられる可能性としては、以下の2つのケースである。

1. この個体がアイヌと和人の混血である。
2. この個体が東北地方の和人に由来する。

この個体が和人であるが多少ともアイヌの遺伝的影響を受けているか、あるいは逆にアイヌであるが和人の混血の影響も受けているとすれば、たまたま頭骨に和人的特徴が現れ、歯にアイヌの特徴が強く出現したと考えれば1の解釈が成り立つ。しかし、一口に和人と言っても最近の議論では、埴原の二重構造論(Hanihara, 1991)で代表されるように、和人集団には地域によっては土着の縄文人の遺伝的影響がなお色濃く残っているものから、大陸からの渡来系集団の特徴が強い傾向を示す人々まで、無視できない和人集団内の変異が知られており、和人かアイヌかという単純な判別で結論づけるには慎重を要する。北海道のアイヌは遺伝的に土着の縄文人に由来する人々であることはほぼ定説となっているが、一方、東北地方はかつてエミシと呼ばれた人々が居住した地域であり、エミシも土着の縄文人の遺伝的影響を比較的強く受け継いだ人々であると推定されている(Hanihara, 1990)。従って古代東北地方の人々は、その後の和人の含めて、一部にアイヌと共通する特徴を持っていたと考えられるが、事実このような古人骨の発見例も報告されている(鈴木,

1951 ; Yamaguchi , 1988 ; 石田 , 1992 ) 。また墳原によれば現代の東北地方和人においても渡来人の遺伝的影響が西日本よりも小さく、多少なりともアイヌに傾いた特徴が見いだされている ( Hanihara , 1991 ) 。

このような観点から解釈するならば、勝山館7号人が土着の縄文人の遺伝的影響が多少なりとも残る中世の東北地方の和人に由来したと考えれば、2の

仮説も成り立つのではなかろうか。

### 謝 辞

貴重な人骨資料を調査する機会を与えていただき、その結果を本報告書に掲載させていただいた上ノ国町教育員会の松崎水穂氏ならびに松田輝哉氏に深く感謝いたします。

## 文 献

- 百々幸雄・松崎水穂，1982．北海道州崎館発見の中世頭骨．人類学雑誌，90：73-78．  
 百々幸雄・鈴木隆雄，1983．勝山館跡出土の人骨及び動物遺存体 1．人骨．勝山館跡 pp.61-65．  
 Hanihara ,K .,1990 .Emishi ,Ezo and Ainu: An anthropological perspective Japan Review , 1:35-48 .  
 Hanihara ,K .,1991 .Dual structure model for the population history of the Japanese .Japan Review 2:1-33 .  
 石田 肇，1992．東北地方出土の古代人の形質について．加藤 稔先生還暦記念，東北文化論のための先史学歴史学論集，今野印刷，仙台．Pp.947-955．  
 Matsumura ,H .,1994 .A microevolutional history of Japanese people from dental characteristics perspective .Anthropological Science ,102:93-118 .  
 鈴木 尚、1956．本州北端における近世アイヌの痕跡について．人類学雑誌，62:1-10。  
 Yamaguchi ,B .,1988 .Protohistoric human skeletal remains from the Goshozan cave site in Ishinomaki .Bull .Natl .Sci .Mus .,Tokyo ,D14:19-28 .

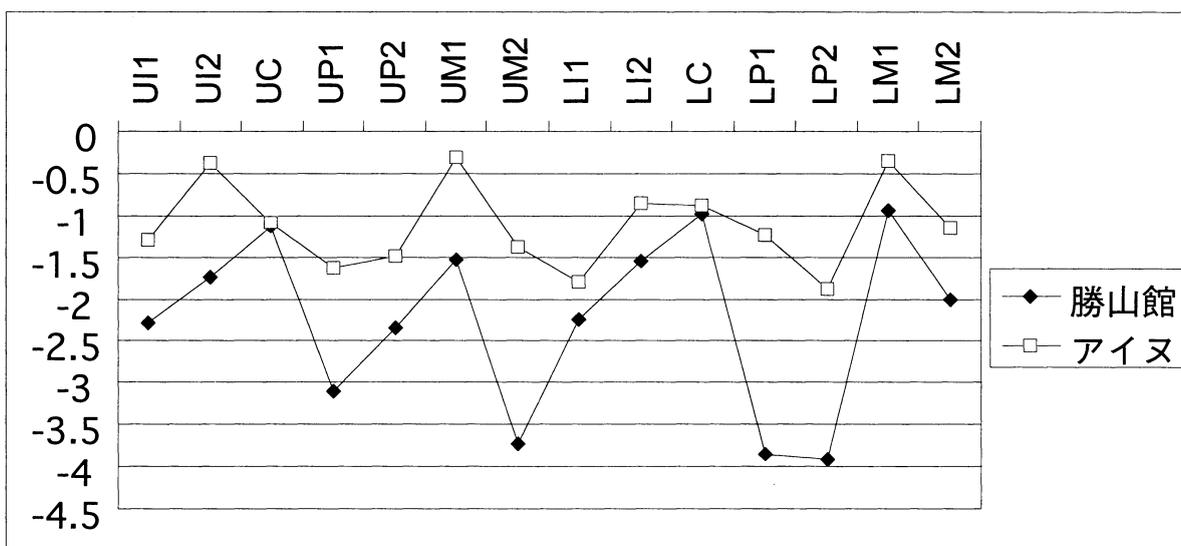


図2 江戸時代における関東地方の和人を基準とした歯冠近遠心径の偏差折線図

表1 勝山館ならびに北海道アイヌと江戸時代関東地方和人の歯冠計測値 (mm) .

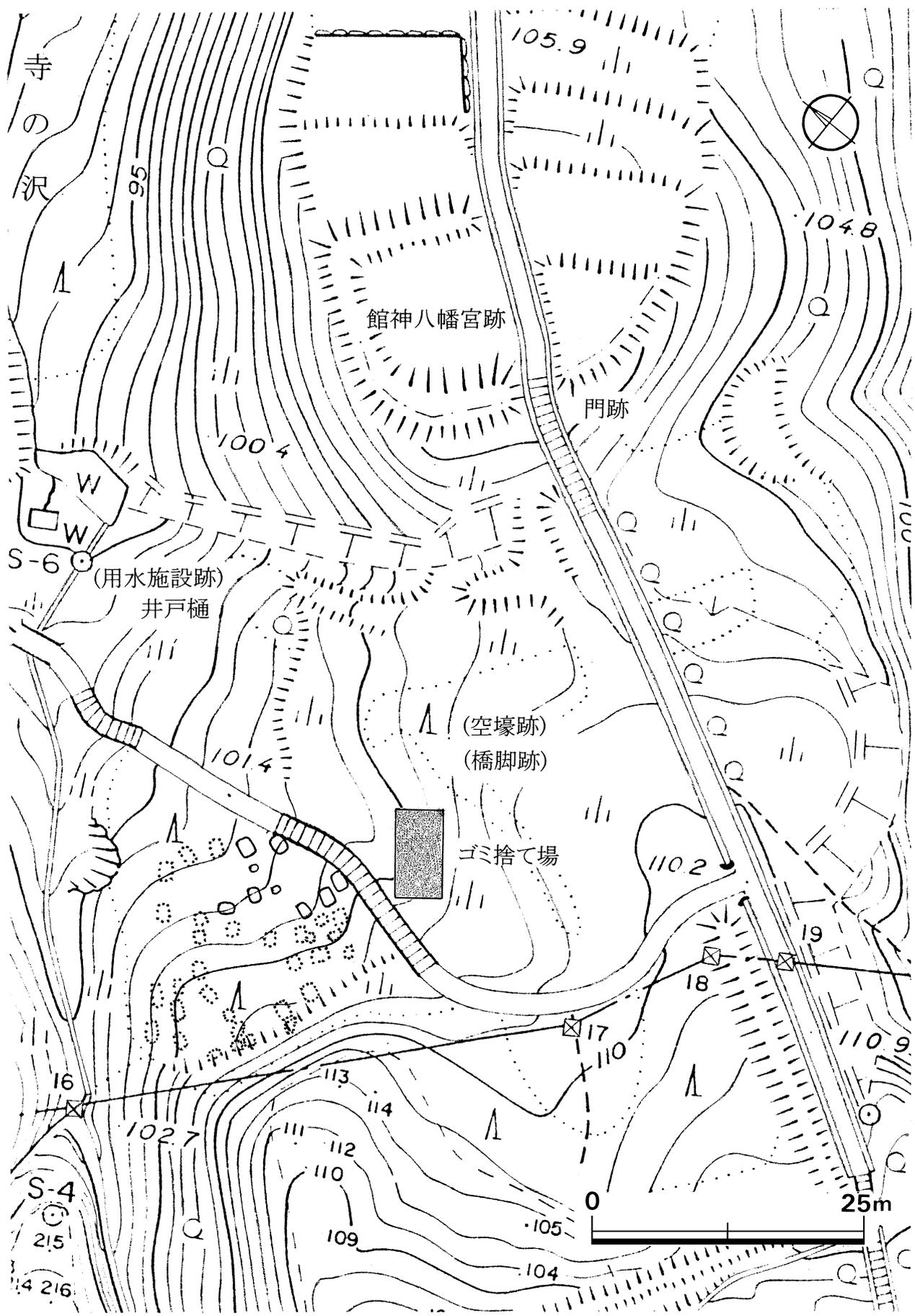
	勝山館7号	アイヌ	和 人
歯冠近遠心径			
U I 1	7 .59	8 .10	8 .78
U I 2	5 .98	6 .91	7 .16
U C	7 .55	7 .56	8 .01
U P 1	6 .39	6 .87	7 .41
U P 2	6 .13	6 .45	7 .00
U M 1	9 .89	10 .46	10 .61
U M 2	7 .83	9 .12	9 .88
L I 1	4 .89	5 .00	5 .45
L I 2	5 .42	5 .72	6 .09
L C	6 .67	6 .71	7 .06
L P 1	5 .86	6 .85	7 .32
L P 2	6 .12	6 .81	7 .45
L M 1	11 .24	11 .54	11 .72
L M 2	10 .26	10 .74	11 .39
歯冠頬舌径			
U I 1	7 .03	6 .90	7 .52
U I 2	5 .84	6 .25	6 .74
U C	8 .12	7 .82	8 .66
U P 1	8 .67	9 .04	9 .67
U P 2	8 .02	8 .76	9 .55
U M 1	11 .59	11 .58	11 .87
U M 2	10 .79	11 .26	12 .00
L I 1	5 .63	5 .59	5 .78
L I 2	5 .85	5 .91	6 .29
L C	7 .43	7 .40	8 .04
L P 1	7 .15	7 .58	8 .34
L P 2	7 .48	8 .05	8 .68
L M 1	10 .49	10 .97	11 .15
L M 2	9 .64	10 .28	10 .75

表2 和人・アイヌの判別関数と勝山館7号の判別結果

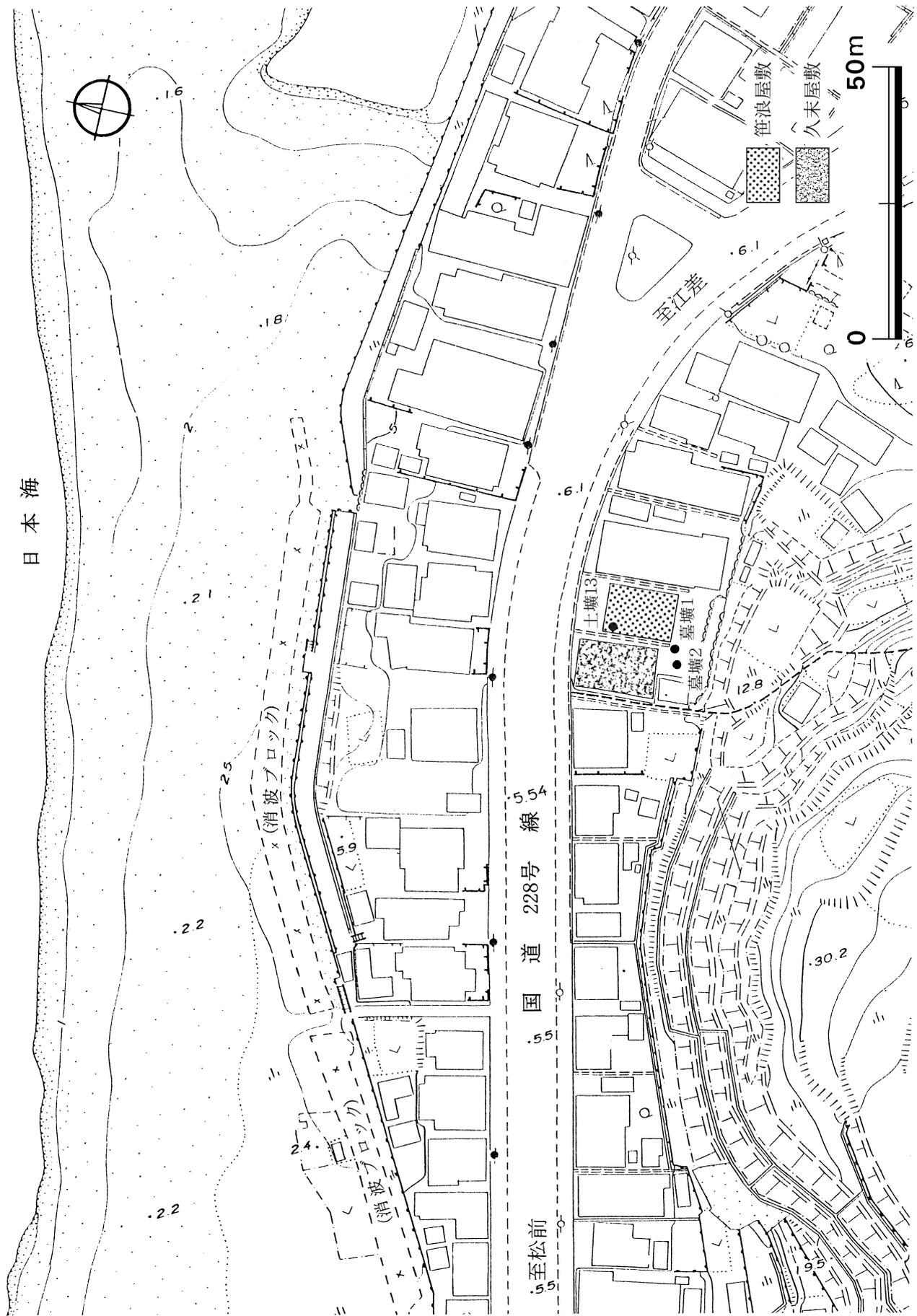
項 目	判別係数	
頬舌径 L P 1	3 .032	
頬舌径 L M 1	- 2 .808	
頬舌径 U M 2	1 .076	
近遠心径 U P 2	1 .734	
近遠心径 L P 1	- 2 .252	
近遠心径 U C	0 .830	
定数	- 7 .761	
和人判別得点平均	1 .978	n = 24
アイヌ判別得点平均	- 1 .724	n = 27
判別得点標準偏差	2 .283	
正答率	96 .1%	
判別得点	- 0 .226	( 勝山館 7 )
事後確率	89 .0%	



8	7 5YR2/1-2/2	黒・黒褐色	砂粒少量	砂質 湿性 ソフト	
9	7 5YR3/2	黒褐色	ローム粒	粘質 密 ややハード	
10	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒 火山灰	砂質土 ややソフト	
11	10YR2/2	黒褐色	砂粒 火山灰微量	砂質土 ソフト	炭粒微量
12	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒	砂質土 ソフト	
13	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒 黄色砂粒少量 火山灰	砂質土 ややソフト	
14	7 5YR2/2	黒褐色	黄色砂粒 火山灰	砂質 ややソフト	
15	7 5YR2/2	黒褐色	火山灰微量	砂質 密 ややソフト	
16	7 5YR2/2	黒褐色	火山灰少量	(16)よりやや明るい 砂質 密 ややハード	
17	7 5YR2/2	黒褐色	黄色砂粒	砂質 密 ややソフト	
18	10YR2/2	黒褐色	黄色砂粒10%	中粒砂質土 密 ソフト	
19	10YR2/2	黒褐色	砂粒 火山灰微量	砂質土 ソフト	
20	10YR2/2	黒褐色	砂粒	砂質土 ソフト	
21	10YR2/2	黒褐色	砂粒 火山灰微量	砂質土 ソフト (19)よりやや暗い	
22	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒 火山灰	砂質	
23	10YR2/3-3/2	黒褐色	10YR2/1黒色 細粒砂質土5%	中粒砂質土 密 ソフト	
24	10YR2/3	黒褐色	白色礫粒多量 B・Tm30%	粘性やや有	
25	10YR2/2	黒褐色	中粒砂 黄色小礫微量	密 ソフト	
26	10YR2/2	黒褐色	中粒砂 黒色細粒砂質土 10YR3/2黒褐色細粒砂混入 10YR4/4褐色中粒砂5%	密 ソフト 中粒砂質土 密 粘性やや強 ソフト	
27	10YR2/2	黒褐色	砂粒	砂質土 ソフト	
28	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒 火山灰	砂質 湿性 ソフト	
29	10YR3/3	暗褐色	中粒砂粒	やや密 ややソフト	炭粒5%
30	7 5YR2/3-10YR2/2	黒褐色	細粒砂混入 小礫粒微量 B・Tm・黄色礫粒少量礫	中粒砂質土 湿性 粘性やや有 やや粗 ソフト	炭粒少量
31	7 5YR2/2	黒褐色	細粒砂混入 小礫極微量 10YR6/6明黄褐色 細粒砂質土 40% 礫粒	中粒砂質土 湿性 粘性やや有 密 ややハード	炭粒微量
32	7 5YR2/2-10YR3/4	黒褐・暗褐色	砂粒 黄色砂粒やや多量	砂質 湿性 やや密 ややハード	
33	7 5YR2/2・2/3	黒褐色	Ko-d	湿性 ソフト	
34	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒 黄色砂粒	ソフト	
35	7 5YR2/2	黒褐色	火山灰・黄色砂粒少量	砂質 湿性 密 ややソフト	
36	7 5YR2/2	黒褐色		粘質 密 ややハード	
37	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒	砂質 湿性 ソフト	
38	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒 黄色砂多量	砂質 湿性 ソフト	
39	7 5YR2/3	黒褐色	砂粒	砂質 ソフト	
40	7 5YR2/3	黒褐色	砂粒	砂質 ソフト	
41	10YR2/3	黒褐色	砂粒	砂質 ソフト	
42	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒	砂質 ソフト	
43	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒	砂質 ソフト (42)よりやや黄色い	
44	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒	砂質 湿性 ソフト (42)より暗い	
45	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒	砂質 湿性 ソフト	
46	7 5YR2/3	黒褐色	砂粒 黄色砂多量	ソフト	
47	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒	砂質 ソフト	
48	7 5YR2/2	黒褐色	砂粒 火山灰	湿性 ソフト	
49	7 5YR2/2・2/3	黒褐色	砂粒 火山灰 黄色砂	砂質 湿性 ソフト	



第25図 昭和57年度調査 人骨出土 位置図



第26図 過年度(笹浪屋敷・久末屋敷) 上ノ国市街地遺跡調査位置図



1



2



3



4



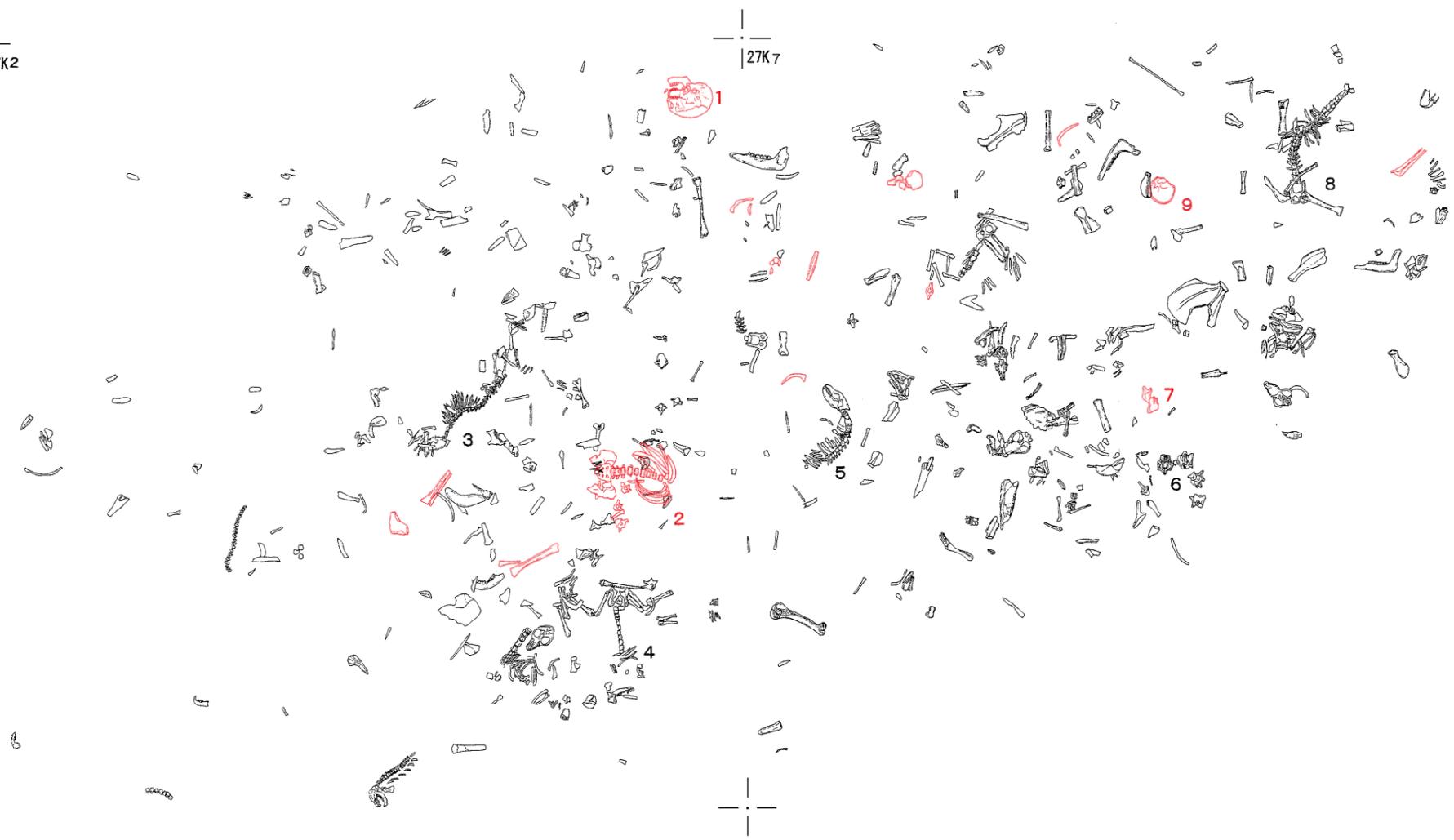
5



6



7

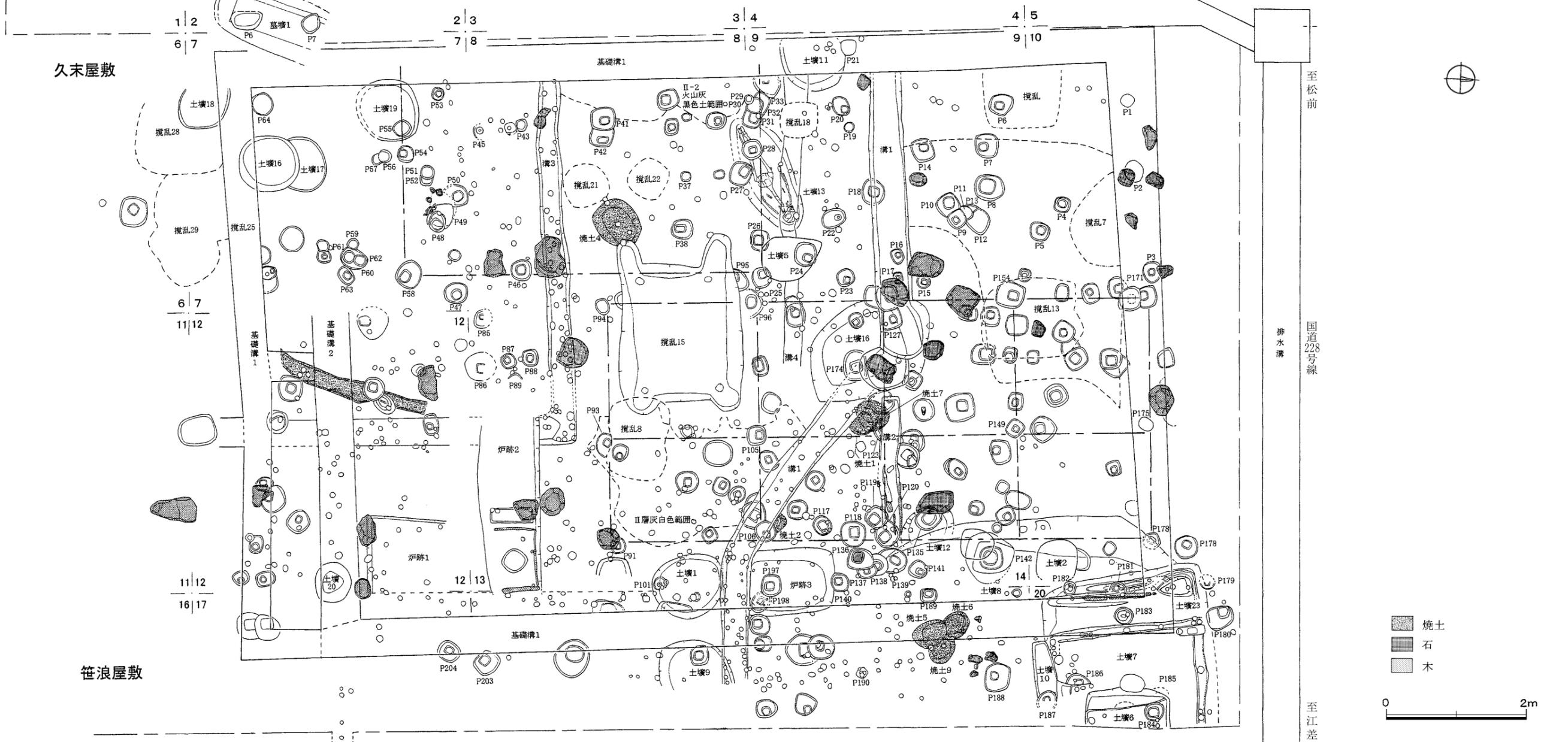
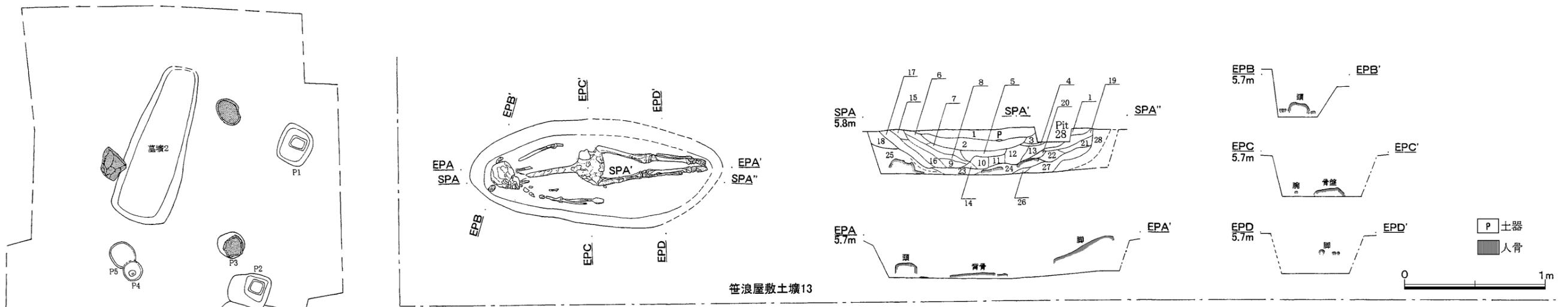


9



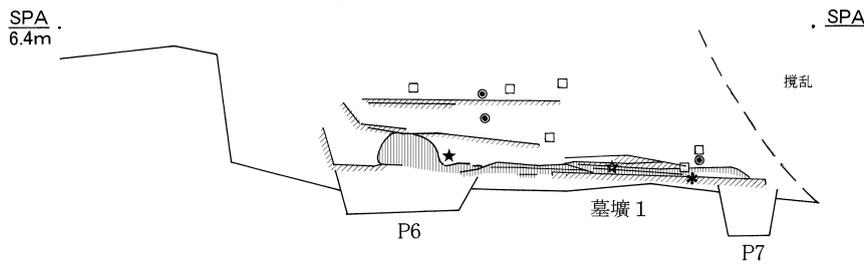
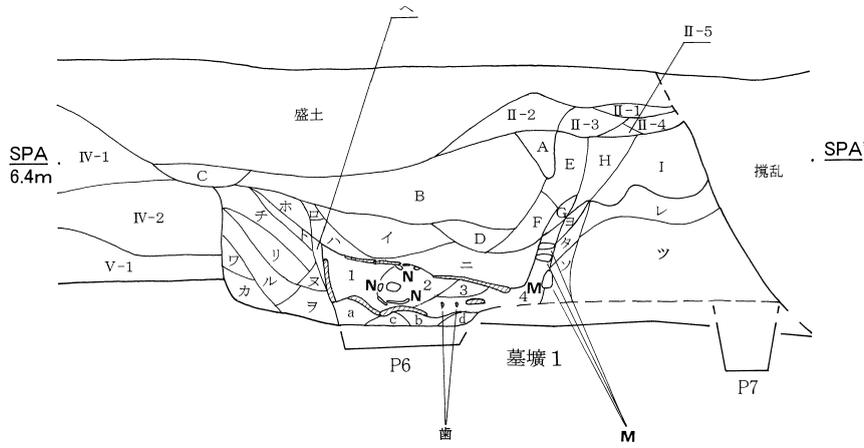
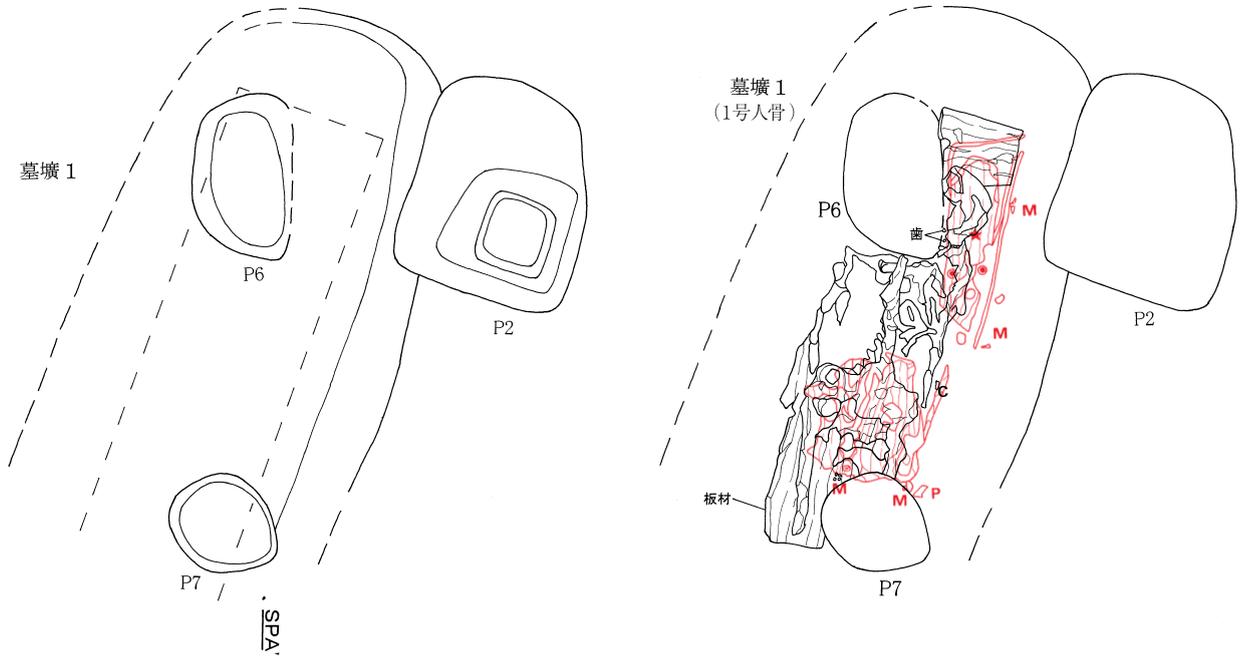
8

第27図 昭和57年度調査 人骨他、動物遺存体出土状況



第28図 笹浪屋敷 遺構平面図

6 | 1  
7 | 2  
SPA



- M 鉄製品
- ★ N 骨
- ☆ C 炭
- P 土器
- \* 漆
- ▨ 骨範囲
- ▨ 板材

0 1m

第29図 久末屋敷 墓壙1(1号人骨) 平面図他



## V 上ノ国町過年度出土人骨調査概要

勝山館跡やその直下に位置する上ノ国市街地遺跡では、これまで出土した人骨について人類学的な見地から分析を行っている。

本書では、平成20・21年度に出土した人骨と比較をする目的で、平成7年の笹浪屋敷の調査、平成8年の久末屋敷の調査、昭和57年の勝山館跡の調査から出土した人骨の鑑定結果とその調査概要について掲載している。

### 笹浪屋敷の調査（26・28図、P L 8）

笹浪屋敷は、檜山郡上ノ国町字上ノ国の勝山館跡直下に広がる集落に所在する。調査は、平成7年の笹浪氏の住宅建替え時に実施された。

#### 土壌13

〔位置〕8・9グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は長軸約180cm、短軸約70cmの楕円形を呈し、深さ約30cmを測る。頭位は、東北東の方角に向いている。

被葬者は、伸展葬で身長約150cmを呈し、爪先を頭部より高くした状態で埋葬されている。

〔堆積土〕掘削時に混入したと考えられる10世紀前半に降下した白頭山 - 苦小牧火山灰（B・Tm）がブロック状で確認されている。

墓壇は、このことからB - Tm降下後の擦文期に構築されたことが考えられている。

〔新旧関係〕Pit27・28・31より古い。

〔出土遺物〕擦文土器、石器、樹皮状の製品、人骨、ガラス玉が出土している。

### 久末屋敷の調査（26・28～30図、P L 7）

久末屋敷は、檜山郡上ノ国町字上ノ国に所在し、前述した笹浪氏宅に隣接する。調査原因は、平成8年に久末氏が塀と物置を造るため、施行業者が基礎部分を掘削したところ、スコップで下顎骨が掘り上げられたことによる。

前年の笹浪屋敷の調査でみつかった墓壇の位置と10m程であったことから、同様の墓壇の存在が予測され発掘調査を実施するところとなった。

#### 墓壇1

〔位置〕2・7グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は長軸が石垣による攪乱のため不明、短軸約87cmの隅丸長方形を呈し、深さ約

32cmを測る。頭位は、南の方角に向いている。棺と思われる板材や木質の付着した釘の出土から、被葬者は棺に納められていたことが推測される。

〔堆積土〕

〔新旧関係〕Pit2・6・7より古い。Pit2の年代は、柱痕跡で17世紀代の明染付碗が出土することから、17世紀代もしくはそれ以前と考えられている。

墓壇はPit2に壊されるため、それより古い時代の墓壇であることが推測される。

〔出土遺物〕棺に使用したと思われる板材・鉄製品の釘、副葬品として漆器（塗膜）ガラス玉、その他、人骨（歯）が出土している。

#### 墓壇2

〔位置〕1・2グリッドに位置する。

〔形態・規模〕木質の付着した釘、頭部脇に腐食した堆積がみられ、棺の一部が残存したものと思われる。墓壇1同様、棺に納められていたことが想定される。

平面形は長軸約232cm、短軸東側で88cm、西側で50cm 楔形を呈し、深さ約37cmを測る。頭位は、東の方角に向いている。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕棺に使用したと思われる板材・鉄製品の釘、副葬品として鎌、鉞、刀子、漆器（塗膜）、金属製耳飾、繊維状遺物が出土している。

### 勝山館跡ゴミ捨て場の調査（25・27図、P L 9）

勝山館跡の昭和57年度の調査では、勝山館主郭より南西部の旧沢地で、遺物の廃棄場所がみつかっている。

ここからは、勝山館の人々が使用した多種多様な生活道具の他、人骨も出土している。

また、鑑定を依頼した頭骨の他には、これよりやや離れた場所で同一個体と思われる上半身の骨もみつかっている。

## VI 小 括

ここでは、今年度の調査で検出された旧道跡、荒神堂跡、空壕、土葬墓の遺構について概要を述べる。

### 旧道跡

荒神堂跡周辺で検出された勝山館の旧道跡と思われる溝3、勝山館廃絶後の江戸時代の参道・代参道路と思われる08溝3・4の延長が検出された。

調査では勝山館の旧道跡の痕跡を検出することがほとんどできなかった。要因としては、江戸時代の参道・代参道路と思われる通路に壊されていると考えられるが、また勝山館の旧道跡が江戸時代の参道とほぼ同じ位置であったことも予想された。

第一平坦面の中央通路とその下に至る旧道跡との接続に関しては、過年度の調査で中央通路が第一平坦面を直線的に延びることが想定されたため、今回それに接続する旧道跡を調査したが確認することができなかった。そのため、中央通路からその下へ至るルートとしては、従来虎口とされている場所を通過して第一平坦面直下へ至る可能性が高くなった。

空壕Cでは、現在の通路付近で橋・土橋等の施設が想定された。

橋・土橋が想定される箇所では、空壕Cの底面の標高値が高くなっていた。空壕C北側で検出された溝4、08溝6の底面においても現在の通路付近で高くなっているため、その箇所に勝山館の旧道跡の存在が考えられた。

荒神堂跡周辺では、溝3が荒神堂へ至る階段下から検出された礎石列2の横を延びて斜面下へ至ることが確認された。

溝3は、屈曲して現在の通路跡へ直交することが考えられるが、礎石列2から屈曲するまでの間で明瞭なルートを確認することができなかった。

また、溝3は現在の通路を横断して北側に屈曲していくことが推測された。その現在の通路の西側部分では、寺ノ沢へ至る斜面を盛土して平坦面を造成しており、その盛土が焼土1～5が検出される地点までみられた。この盛土については、土質が固くしまっており、旧道を造成するための盛土であると考えられた。その他、溝3は昨年度検出した江戸時代の溝である08溝11の方向に延びることが推測された。

勝山館の旧道跡については、過年度の調査と併せた全体を通じての検討が不十分なため、来年度の報

告で論じたい。

### 荒神堂跡

調査は、方形に積まれた石積みを撤去して、その下に存在する遺構の有無を確認している。その結果、土葬墓（土壙9）が1基みついている。

当初は、この土葬墓が基広のものと推測されたが、副葬品に江戸時代の銭である寛永通寶が含まれており、近世墓であることが判明したため、その可能性がないことを確認した。

土壙9では、副葬品として納められていた銭が古寛永、元豊通寶といった組成を示し、最新銭が古寛永とされる寛永通寶であった。副葬品の銭の中に新寛永とされる寛永通寶などを含まないことから、土壙9の年代は17世紀後半～18世紀初頭頃の墓ではないかと想定された。

また、昨年度検出された布掘りの柵である08柵2の年代が、出土した陶磁器の年代観から17世紀後半頃と想定されている。そのため、この土壙9が柵2と同時期に構築された可能性が高いと思われる。

昨年度の調査では、方形の石積み下位に位置する天保11年（1840）の記録にみられる石積み範囲（08土壙8）が、後世の攪乱を受けていることが確認されたため、方形の石積みについてもその攪乱以降に積まれたものと考えられた。

今回の調査でも土壙9と方形の石積みの位置が異なって検出されたため、昨年度同様、両者に年代差があることが確認された。

その土壙9がみつかった北側に約8m離れた2mほど低い階段横の平坦面では、3間×3間の礎石列2が検出されている。Ko-d火山灰（1640年降下）の下位で礎石が検出されたため、勝山館跡の時代の遺構と考えられる。規模等から、堂もしくは社のような正確の建物が想定されるが、後考したい。

### 空壕C

空壕Cは、第一平坦面直下で南東から北西方向に構築され、土層堆積や底面の形態から北西側の部分で掘り直されていることが考えられた。底面の形態は、空壕CがV字の葉研堀を呈するのに対し、空壕C（新）はU字状という違いがみられた。

さらに、底面のレベルが沢側と比較して中央部分

(現在の通路下)が高くなっており、その部分に空壕を渡る橋等の施設の存在が想定された。

それら施設については、Pit 3～6、土橋状盛土の検出によって、木橋や土橋が想定されている。

空壕Cは、堆積土で人為的に埋め戻される礫混じりの層と、その上位に自然堆積の黒色土が確認されている。

礫混じりの層からは、陶磁器が古瀬戸後新～大窯第1段階の瀬戸・美濃製品、白磁皿E群、染付皿C群、越前播鉢などの陶磁器が出土している。

黒色土層からは、陶磁器が大窯第1～2段階の瀬戸・美濃製品、青磁碗(B4類・E類)・稜花皿、青磁染付、白磁皿E群、染付碗B・C・E群・皿B1群・C群、越前播鉢などの陶磁器が出土している。

陶磁器の年代観からは、礫混じりの層が出土した陶磁器に大窯2～4段階の瀬戸・美濃製品や志野・唐津、染付E群といった16世紀中～末頃のものがみられないことから、15世紀第4四半期～16世紀第2四半期頃に堆積した層位と考えられた。

一方、黒色土層では16世紀中～後半の年代観を示す大窯2段階、染付E群などが出土しているため、16世紀第3四半期～16世紀末頃の年代に堆積したものと推測された。

16世紀の第2四半期頃には、空壕Cが半分ほどの深さまで埋没していたことが想定された。

また、想定される木橋・土橋と空壕Cとの関係は、土層堆積を根拠として次のような変遷が考えられた。

木橋は、空壕Cが掘削された時に架けられ、空壕Cが埋め戻された時に土橋が構築された。その後、空壕C北西側で空壕Cの再構築が行われ、空壕C(新)とした遺構ができることを推測した。

## 土葬墓

今年度の調査では、土葬墓が5基(土壌1・2・8・9・10)、火葬施設の土壌6がみついている。

その他、昨年度検出した08土壌16についても継続して調査を行なった。

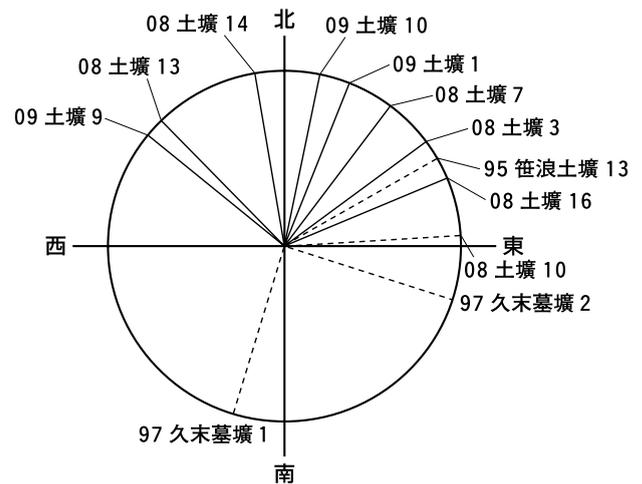
検出された土葬墓・火葬施設の年代は、土壌6が中世、土壌1・2が中世～近世、土壌9・10が近世の遺構である。また、08土壌16は、空壕C上位の自然堆積層である黒色土層を壊して構築されるため、16世紀後半～末頃の遺構と推測される。

副葬品は、土壌1から馬具と思われる金属製品、08土壌16から輪銭31枚、土壌9から銅銭6枚の他、水晶製・木製の数珠玉、土壌8から銅銭6枚、土壌6から木製の数珠玉などがみついている。

土壌8・9などの近世土葬墓では、副葬品として納められる出土銭貨の枚数がいずれも6枚であった。

土葬墓の被葬者の頭位については、下に示した過年度の調査も含めて検討すると、屈葬がほぼ北方位を中心として北西～北東を指向し、伸展葬(下の図で、点線にて表示)が東もしくは南頭位であった。

土葬の屈葬墓における葬法は、下に示したうち確認できるもので近世の08土壌3で仰臥屈葬、08土壌7・08土壌16で側臥屈葬であった。



土葬墓の推定頭位

## Ⅶ まとめ

勝山館跡の旧道跡は、昨年度同様課題が残ったが、第一平坦面からその直下へ至るルートが直線的でなく、虎口に迂回していくことが想定された。さらに、その下の空壕C・08溝6・溝4では、底面レベルの高い現在の階段部分を通路として利用していたことが想定された。

江戸時代の旧道跡と推された08溝3・4は、昨年度の調査で07溝1・2へ延びず、トレンチ2で屈曲して07近世道路に延びることが確認されている。

07溝1・2は、昨年度の報告で天保期やもう少し古いと考えられた溝である。おそらくトレンチ2～07トレンチ5の通路部分は、江戸時代に現在のようなV字に切り開かれていない景観が想像され、それがゆえに07近世道路へ行くルートが選択されたのではなかろうか。

そのため、07溝1・2は江戸時代でなく、近代以降に開かれたルートということが想像されたところである。

荒神堂跡は、今年度の調査で方形の石積み下に江戸時代の土葬墓(土壇9)が構築されていたことが確認されている。土壇9に副葬品として納められた銅銭は、6枚あり内訳が元豊通寶1枚、他寛永通寶(1期)のもので新寛永が含まれていなかった。そのため、古寛永の初鋳年代が1636年であるためそれ以降のお墓で新寛永が含まれないことを考え1700年前後に構築された墓と推測された。

昨年度の調査では、布掘りの08柵2が検出されたものの、内部の施設について手がかりを得ることができていなかった。08柵2から出土した遺物の年代が、1600年後半～1700年初頭に生産された遺物であったため、その頃の構築と考えられ、年代的に土壇9が布掘りの柵2に伴なう遺構と想定された。

そして、荒神堂とされた平坦面から一段低い箇所から中世に遡る礎石列(礎石列2)が検出された。その規模から堂・社などの性格の建物跡が想定され、この建物跡が当初の荒神堂跡とも推測された。

礎石列1については、昨年度の調査時点で当初の荒神堂の遺構と考えられたが、礎石列2の検出によってその性格が不明となった。

空壕Cの黒色土層の形成時期は、16世紀第2四半期～16世紀第4四半期頃と考えられた。08土壇16は、その黒色土層を壊して構築されるため、16世紀後半

頃の構築を想定した。昨年度の調査でもトレンチ5の東側斜面では、魚骨層が堆積した時期、その後墓が構築された時期と16世紀中頃で土地利用の変化が確認されている。これが勝山館跡全体でこういった傾向がみられるのかについては、今後の課題としたい。

自然科学分析では、平成20・21年度の発掘調査で出土した人骨の鑑定を札幌医科大学の松村博文先生にして頂いた。先生には、ご多忙中にもかかわらず、鑑定の他、現地での人骨の取り上げの指導も併せて無理なお願いを快諾して頂き、深く感謝申し上げる次第である。

また、今回比較資料として、勝山館跡及びその直下の町屋が想定される上ノ国市街地遺跡で出土した人骨の鑑定結果を掲載している。アイヌ墓の特徴である仰臥伸展葬で埋葬されていた土葬墓(08土壇10)の人骨が、和人的な特徴を示していることが鑑定された。この結果がどのようなことを示唆しているのか、疑問が残った。

現在、町では天ノ川を挟んで所在する史跡上之国館跡(花沢館跡・洲崎館跡・勝山館跡)の保存管理計画書の策定を行っております。

この数年の間に、勝山館跡やその周辺で個々の文化財の価値が見直され、文化財が多くみられる当地区の重要性、また町民の関心も増しつつあるように感じられます。

保存管理計画の中では、そのような流れからこの一帯を将来的にどのような形で、保存・活用を図っていけばよいのかを文化庁の調査官他、委員の先生方の指導の下進めていく所存でございますので、ご助言のほど何卒よろしくお願いたします。

最後に、調査に携わって頂いた方々に感謝すると共に不備な点につきましては、多くの皆様にご指導・ご鞭撻をお願いし、補うこととしたい。

# 写真図版



1. '08溝 3・4 (近世) 遺構検出状況(南東から)



2. 空壕C 検出状況(西から)



3. 空壕C 検出状況(西から)



4. '08土壙16 人骨出土状況(南東から)



5. '08土壙16 銭出土状況(北西から)



1. '08溝4・6 検出状況(南東から)



2. 調査区 検出状況(北から)



3. 溝4、土壙5・8 検出状況(北西から)



4. 溝4、土壙5・8 セクション(南東から)



5. 土壙8 副葬品(銭) 出土状況(南東から)



6. 土壙3・6(火葬施設)・10 検出状況(北西から)



7. 土壙6 検出状況(南から)



8. 土壙10 セクション(東から)



1. '08調査分 荒神堂跡(近世) 検出状況(南から)



2. 荒神堂跡(近世) 調査風景(南西から)



3. 荒神堂跡(近世) 検出状況(南から)



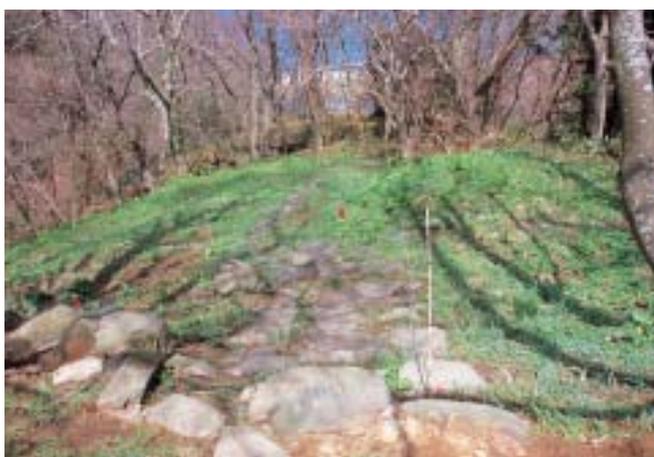
4. 荒神堂跡(近世) 検出状況(南東から)



5. 荒神堂跡石積下 土壙9(近世) 棺内検出状況(北東から)



6. 土壙9(近世) 遺物出土状況(北東から)



7. 荒神堂跡階段付近 調査前風景(南から)



8. 荒神堂跡階段付近 礎石列2・集石検出状況(西から)



1. 礎石列 2 検出状況(東から)



2. 礎石列 2 検出状況(西から)



3. 礎石列 2 検出状況(南から)



4. 礎石列 2 検出状況(東から)



5. 荒神堂跡階段下 完掘状況(南から)



1. 道路跡 検出状況(西から)



2. 溝3(道路跡) 検出状況(南西から)



3. 溝3(道路跡)・竪穴遺構2 検出状況(北東から)



4. 寺ノ沢側調査区 調査前風景(南西から)



5. 寺ノ沢側調査区 完掘状況(南東から)



6. 寺ノ沢側調査区 中世道路跡 検出状況(北東から)



7. 寺ノ沢側調査区 中世道路面 セクション(北東から)



8. 寺ノ沢側調査区 中世道路跡・竪穴遺構1 検出状況(北東から)



1. 舶載陶磁器(青磁、白磁、朝鮮)



2. 舶載陶磁器(染付、赤絵)



3. 国産陶磁器(瀬戸・美濃、越前)



4. 鉄製品(小札、鍋、茶釜、鎌、刃物、鉤、釣針、馬具)



5. 鉄製品(釘)



6. 銅製品(小柄、柄頭・鐺、目貫、鉛玉)



7. '08土壌16銅銭(開元、皇床、元豊、無文銭、輪銭)



8. 土壌8銅銭(寛永通宝)



9. 土壌9銅銭(元豊通寶、寛永通寶)



10. 土・石製品(坩堝、土錘、羽口、砥石、硯)



11. 骨角器(鎌、中柄)



12. 土壌6(上段)・土壌9(下段)  
水晶・木製品(数珠玉)



1. 調査区 完掘状況(北東から)



2. 墓壙1 検出状況(棺材・釘一東から)



3. 墓壙1 検出状況(棺材除去後一東から)



4. 墓壙1 検出状況(棺材除去後一北から)



5. 墓壙2 検出状況(西から)



6. 墓壙2 検出状況(北から)



7. 墓壙2 検出状況(北から)



8. 墓壙2 検出状況(北から)



1. 土壙13(擦文土壙墓) 検出状況(西から)



2. 擦文人骨頭部(北西から)



3. 調査区 完掘状況(南から)



4. 土壙13(擦文土壙墓) 検出状況(北から)



5. 遺物出土状況(擦文土器 西から)



6. 出土遺物(擦文土器)





1. トレンチ4 土壌2 歯・染付皿 出土状況(北から)



2. トレンチ3 土壌3(近世) 人骨出土状況(東から)



3. トレンチ3 土壌3(近世) 人骨出土状況(西から)



4. トレンチ3 土壌5(近世) 人骨出土状況(東から)



5. トレンチ4 土壌7 人骨出土状況(北東から)



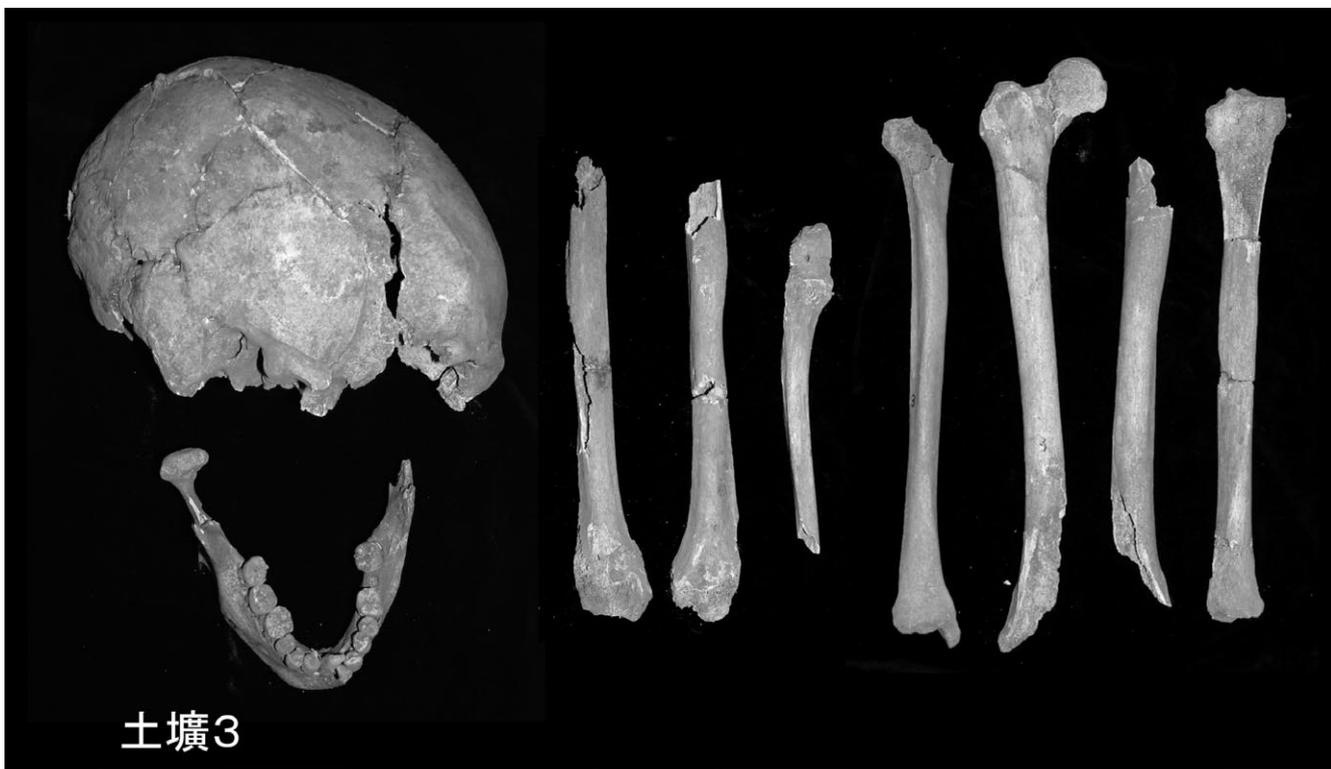
6. トレンチ10 土壌9(近世) 人骨出土状況(南から)



7. トレンチ5 土壌10 人骨出土状況(西から)



8. トレンチ5 土壌10 人骨出土状況(南西から)



土壙3



土壙7



土壙10



土壙16



1. 空壕C周辺 調査前風景(南西から)



2. 空壕C周辺('08調査分) 遺構検出状況(北西から)



3. 空壕C周辺('08調査分) 遺構検出状況(南西から)



4. 荒神堂跡階段付近 調査前風景(北から)



5. 荒神堂跡階段付近 調査前風景(南から)



6. 荒神堂跡階段付近 調査前風景(西から)



7. 荒神堂跡階段付近 調査前風景(北から)



8. 寺ノ沢側調査区 調査前風景(北東から)



1. '08溝4 (近世) 検出状況(北東から)



2. '08溝3 (近世)・空壕C セクション(東から)



3. '08溝3・4 (近世) 検出状況(西から)



5. '08溝3・4 (近世)空壕C 検出状況(南西から)



4. '08溝3 (近世) セクション(南西から)



6. '08溝3・4 (近世)空壕C 検出状況(北東から)



7. 空壕C セクション(北西から)



1. '08溝3・4 (近世)空壕C 完掘状況(南西から)



2. 空壕C(宮ノ沢側) セクション(北西から)



3. 空壕C 遺物出土状況(北西から)



4. 空壕C 遺物出土状況(南東から)



5. 空壕C 小札・貝殻(アワビ) 出土状況(南東から)



6. 空壕C 小札出土状況(北から)



7. '08土壇16 人骨出土状況(北東から)



1. '08調査分 空壕C(新) セクション(南から)



2. 空壕C(新) セクション(南東から)



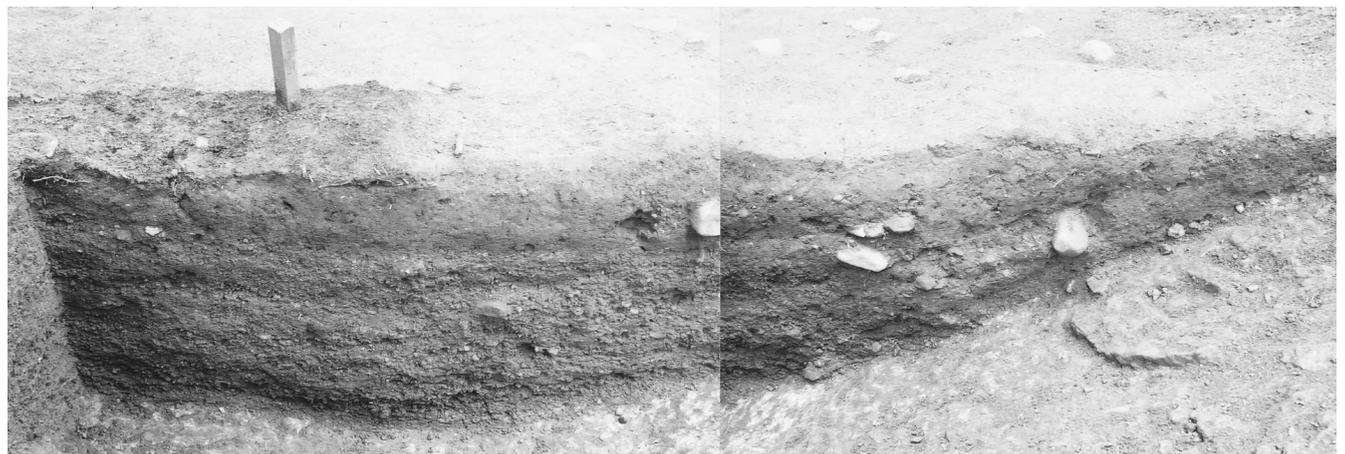
3. 空壕C(新) 旧道部分表土除去(北東から)



4. 空壕C(新) 完掘状況(東から)



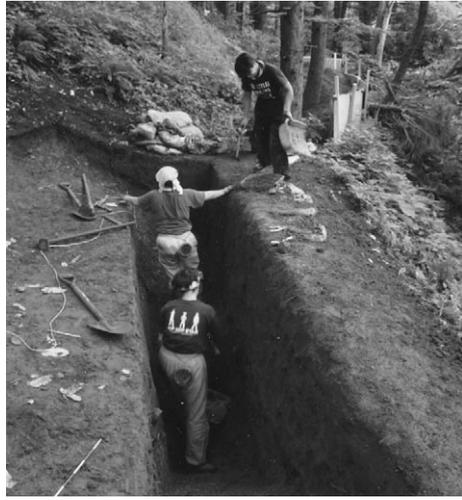
5. 空壕C(新、寺ノ沢側) セクション(東から)



6. 空壕C(新、寺ノ沢側) セクション(東から)



1. 空壕C(新、寺ノ沢側) セクション(南東から)



2. 空壕C(新) 調査風景(東から)



3. 調査風景(北東から)



4. '08溝4(近世)・溝6 検出状況(北東から)



5. '08溝6 検出状況(北西から)



6. 溝4 検出状況(南東から)



7. '08溝3(近世)・溝4 検出状況(南東から)



8. 10 I 7・8・12・13 空壕C(北東側) 検出状況(北から)